

ならのがんに関する患者意識調査
報告書

令和 8 年 2 月

奈良県

目次

第1章 調査の概要

1-1.	調査目的	1
1-2.	調査方法	1
1-3.	調査内容	1
1-4.	配布・回収結果	2
1-5.	調査結果の見方	2

第2章 アンケート調査結果

2-1.	医療機関で受けた診断や治療について	
問1	がんの診断時期と年代	3
問2	がんの部位	4
問3	治療等を受けている病院名	6
問4	かかりつけ医の有無	7
問5	現在の治療状況	8
問6	今まで受けた治療	9
問7	病院を選んだ理由	10
問8	病院を選択する際の情報源	11
問9	現在の病院に対する満足度	12
問10	現在の病院に対する満足な点及び不満な点と望む対応（自由記述）	14
問11	がん治療の納得感	16
問12	医師から受けた説明の理解度	17
問13	疑問や意見の医師への意思疎通	19
問14	生殖機能（妊よう性）への影響について説明の有無	21
問15	生殖機能（妊よう性）温存のための具体的な方法の説明の有無	23
問16	生殖機能（妊よう性）温存のための凍結保存や治療方法の変更の有無	25
問17	院内スタッフの連携について	26
問18	医師等からの情報提供	28
問19	セカンドオピニオンについて担当医からの説明の有無	30
問20	セカンドオピニオンの経験の有無	31
問21	現在の心身の状態	33
問22	緩和ケアの認知度	38
問23	緩和ケアを開始すべき時期の認識	39
問24	緩和ケア外来の認知度	41
問25	からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無	42
問26	からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供・症状の改善	43
問27	気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無	46
問28	気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供・症状の改善	47
問29	受けた治療の納得感	50
2-2.	地域連携について	
問30	在宅医療・移行時の情報伝達について	51
2-3.	今後の療養について	
問31	在宅緩和ケアの認知度	53
問32	在宅緩和ケアへの考え	54
問33	自宅で療養するために必要なこと	56

問 34	希望する療養場所	57
問 35	自分の望む場所での療養生活	59
問 36	自分らしい日常生活の有無	60
2-4. 相談支援・情報提供について		
問 37	がん医療に関する相談支援及び情報提供	61
問 38	がんに関する情報の充実度	63
問 39	がんネットならの利用度	74
問 40	がん相談支援センターの利用の有無	75
問 41	患者サロンの認知度	77
問 42	がん治療による外見変化の悩みの相談先	78
問 43	支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感	79
2-5. 治療と就労について		
問 44	がん治療と継続就労についての認識	80
問 45	がん診断時の就労状況	82
問 46	仕事の継続に関する事業主の理解・支援	83
問 47	仕事を継続するために受けた事業主の支援内容	85
問 48	治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況	87
問 49	がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況	89
問 50	治療をはじめ前の就労継続についての病院からの話	92
問 51	仕事を継続するために必要な対応・制度	93
問 52	就労等の情報提供・相談支援に望むこと	96
問 53	がん相談支援センターにおける就労相談の認知度	98
問 54	奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターにおける就職相談の認知度	99
2-6. がん登録について		
問 55	がん登録の認知度	100
問 56	がん登録に期待するメリット	101
2-7. 全体的なことについて		
問 57	がん対策で奈良県に望むこと	102
問 58	療養生活を送る中でよかったことや不満・疑問に感じたこと (自由記述)	104
問 59	医療機関や行政に対するがん医療に関する意見 (自由記述)	107
2-8. 患者本人について		
問 60	記入者	110
問 61	年齢	111
問 62	性別	111
問 63	居住する医療圏	112
(参考)	アンケート調査票	113

第 1 章 調査の概要

第1章 調査の概要

1-1. 調査目的

がん患者の受療の状況やその満足度、がん医療に関する認知度等を調査することにより、がん患者の医療に対する認識や行動を明らかにし、今後のがん対策の基礎資料を得ることを目的とする。

1-2. 調査方法

調査の方法は、以下の通りである。

■調査の方法

調査対象	県内のがん診療連携拠点病院等・支援病院、その他がん診療を行っている医療機関に受診されているがん患者（入院・外来）ご本人
実配布数	1,416人
調査方法	・協力医療機関から、がん患者に調査票と返信用封筒を手渡しし、がん患者本人が調査票に記入後、郵送で提出。 ・原則として患者本人の記入方式としたが、記入できない場合については、家族の方などが補助して記入することも可とした。 ・調査票は奈良県福祉保険部医療政策局疾病対策課あての返信用封筒により回収した。
調査期間	令和7年9月1日（月）～9月30日（火） （回答締め切り：令和7年10月14日（火）消印有効）

1-3. 調査内容

アンケート調査の内容は、以下の通りである。

1. 医療機関で受けた診断や治療について	問 21 現在の心身の状態
問 1 がんの診断時期と年代	問 22 緩和ケアの認知度
問 2 がんの部位	問 23 緩和ケアを開始すべき時期の認識
問 3 治療等を受けている病院名	問 24 緩和ケア外来の認知度
問 4 かかりつけ医の有無	問 25 からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無
問 5 現在の治療状況	問 26 からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供・症状の改善
問 6 今まで受けた治療	問 27 気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無
問 7 病院を選んだ理由	問 28 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供・症状の改善
問 8 病院を選択する際の情報源	問 29 受けた治療の納得感
問 9 現在の病院に対する満足度	2. 地域連携について
問 10 現在の病院に対する満足な点及び不満な点と望む対応（自由記述）	問 30 在宅医療・移行時の情報伝達について
問 11 がん治療の納得感	3. 今後の療養について
問 12 医師から受けた説明の理解度	問 31 在宅緩和ケアの認知度
問 13 疑問や意見の医師への意思疎通	問 32 在宅緩和ケアへの考え
問 14 生殖機能（妊よう性）への影響についての説明の有無	問 33 自宅で療養するために必要なこと
問 15 生殖機能（妊よう性）温存のための具体的な方法の説明の有無	問 34 希望する療養場所
問 16 生殖機能（妊よう性）温存のための凍結保存や治療方法の変更の有無	問 35 自分の望む場所での療養生活
問 17 院内スタッフの連携について	問 36 自分らしい日常生活の有無
問 18 医師等からの情報提供	
問 19 セカンドオピニオンについて担当医からの説明の有無	
問 20 セカンドオピニオンの経験の有無	

<p>4. 相談支援・情報提供について</p> <p>問 37 がん医療に関する相談支援及び情報提供</p> <p>問 38 がんに関する情報の充実度</p> <p>問 39 がんネットならの利用度</p> <p>問 40 がん相談支援センターの利用の有無</p> <p>問 41 患者サロンの認知度</p> <p>問 42 がん治療による外見変化の悩みの相談先</p> <p>問 43 支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感</p> <p>5. 治療と就労について</p> <p>問 44 がん治療と継続就労についての認識</p> <p>問 45 がん診断時の就労状況</p> <p>問 46 仕事の継続に関する事業主の理解・支援</p> <p>問 47 仕事を継続するために受けた事業主の支援内容</p> <p>問 48 治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況</p> <p>問 49 がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況</p> <p>問 50 治療をはじめ前の就労継続についての病院からの話</p> <p>問 51 仕事を継続するために必要な対応・制度</p>	<p>問 52 就労等の情報提供・相談支援に望むこと</p> <p>問 53 がん相談支援センターにおける就労相談の認知度</p> <p>問 54 奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターにおける就職相談の認知度</p> <p>6. がん登録について</p> <p>問 55 がん登録の認知度</p> <p>問 56 がん登録に期待するメリット</p> <p>7. 全体的なことについて</p> <p>問 57 がん対策で奈良県に望むこと</p> <p>問 58 療養生活を送る中でよかったことや不満・疑問に感じたこと（自由記述）</p> <p>問 59 医療機関や行政に対するがん医療に関する意見（自由記述）</p> <p>8. 患者本人について</p> <p>問 60 記入者</p> <p>問 61 年齢</p> <p>問 62 性別</p> <p>問 63 居住する医療圏</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1-4. 配布・回収結果

調査票の配布・回収結果を示したものが次表である。

■ 配布・回収結果一覧

① 配布数※1	2,095人
② 実配布数※2	1,416人
③ 有効回収数	934人
④ 回収率 (③/②)	66.0%

※1 県内のがん診療連携拠点病院等・支援病院等に配布した数

※2 実際にがん患者本人に手渡された数

1-5. 調査結果の見方

- ・比率は全て百分率(%)で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。
このため、合計が100.0%とならない回答もある。
- ・図中「n数」とは、回答数の合計をいう。
- ・表中「n数」は上段、「百分率」は下段に表記している。
- ・「複数回答」とは、1人が2つ以上の回答をしてもよい設問をいう。
- ・比較分析を行う際、『患者体験調査 令和5年度(厚生労働省)』『がん対策に関する世論調査 令和5年7月(内閣府)』のデータを参照した。
- ・n数が小さく統計的な割合を出しても信頼度の低いものも図表化してある。
- ・国(内閣府)の調査は%のみ集計のため、集計表は%のみ表記している。

第2章 アンケート調査結果

第2章 アンケート調査結果

2-1. 医療機関で受けた診断や治療について

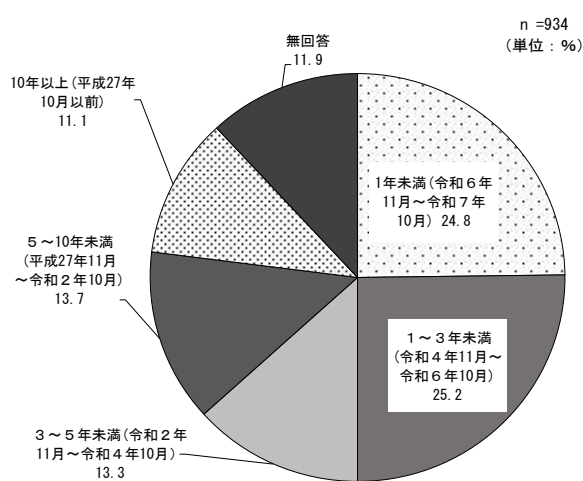
問1 がんの診断時期と年代

問1 がんと最初に診断されたのは、いつ頃ですか。

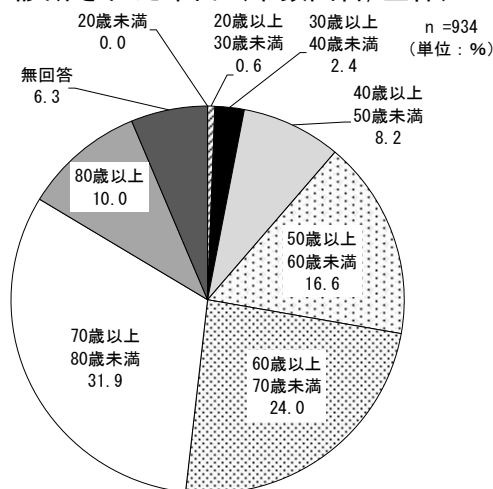
がんと最初に診断された時期については、「1～3年未満(令和4年11月～令和6年10月)」が25.2%と最も高く、次いで「1年未満(令和6年11月～令和7年10月)」が24.8%、「5～10年未満(平成27年11月～令和2年10月)」が13.7%となっている。

がんと最初に診断された年代については、「70歳以上80歳未満」が31.9%と最も高く、次いで「60歳以上70歳未満」が24.0%、「50歳以上60歳未満」が16.6%となっている。

■がんの診断時期（単数回答/全体）



■がんの診断された年代（単数回答/全体）



n数	1年未満 (令和7年10月)	1～3年未満 (令和6年11月～令和7年10月)	3～5年未満 (令和2年11月～令和4年10月)	5～10年未満 (平成27年11月～令和2年10月)	10年以上 (平成27年10月以前)	無回答
934	232	235	124	128	104	111
100.0	24.8	25.2	13.3	13.7	11.1	11.9

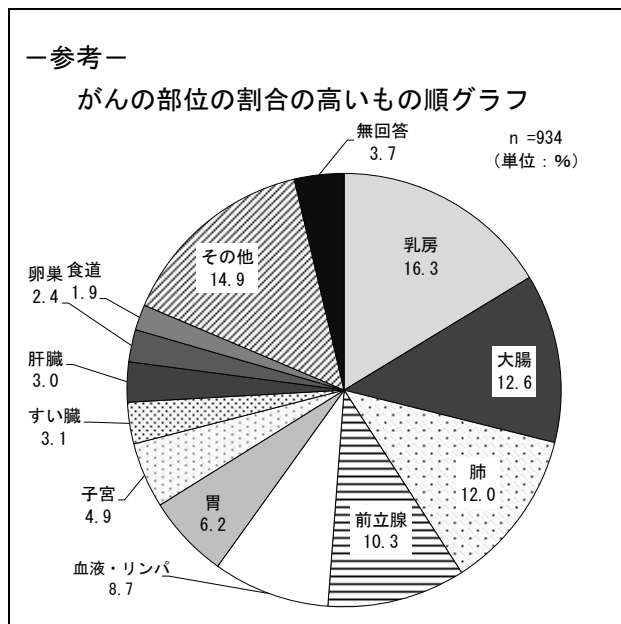
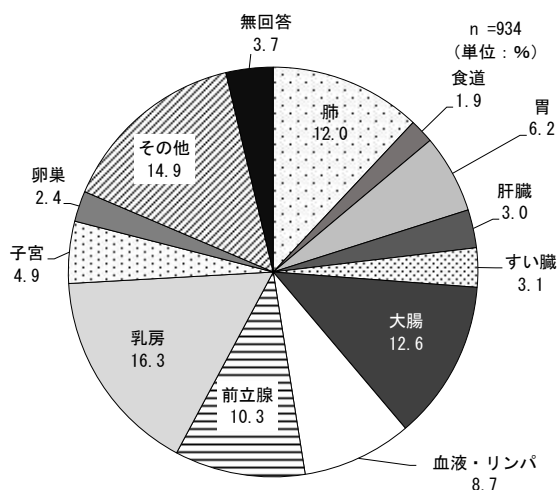
n数	20歳未満	20歳以上30歳未満	30歳以上40歳未満	40歳以上50歳未満	50歳以上60歳未満	60歳以上70歳未満	70歳以上80歳未満	80歳以上	無回答
934	0	6	22	77	155	224	298	93	59
100.0	0.0	0.6	2.4	8.2	16.6	24.0	31.9	10.0	6.3

問2 がんの部位

問2 最初にがんと診断された部位はどこですか。【〇はひとつだけ】

最初にがんと診断された部位については、「乳房」が16.3%と最も高く、次いで「大腸」が12.6%、「肺」が12.0%の順となっている。

■がんの部位（単数回答/全体）



n数	肺	食道	胃	肝臓	すい臓	大腸	血液・リンパ	前立腺	乳房	子宮	卵巣	その他	無回答
934	112	18	58	28	29	118	81	96	152	46	22	139	35
100.0	12.0	1.9	6.2	3.0	3.1	12.6	8.7	10.3	16.3	4.9	2.4	14.9	3.7

【その他】（3件以上）

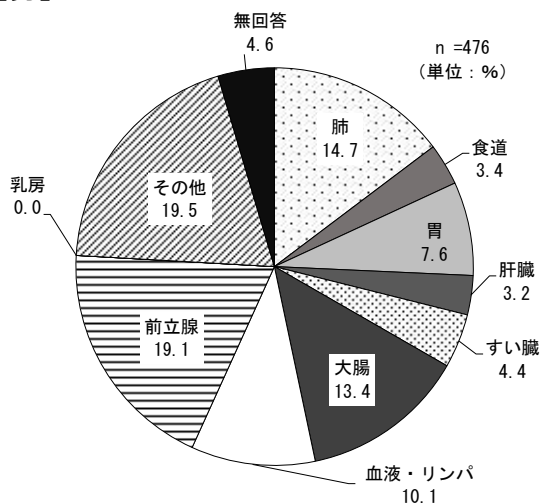
- ・膀胱 (30件)
- ・腎臓 (19件)
- ・喉頭 (12件)
- ・甲状腺 (10件)
- ・舌 (7件)
- ・胆管 (7件)
- ・口腔 (5件)
- ・下咽頭 (5件)
- ・中咽頭 (4件)
- ・腹膜 (4件)
- ・脳 (3件)
- ・尿管 (3件)
- ・原発不明 (3件)

男女別にみると、男性では「前立腺」が19.1%と最も高く、次いで「肺」が14.7%、「大腸」が13.4%の順となっている。

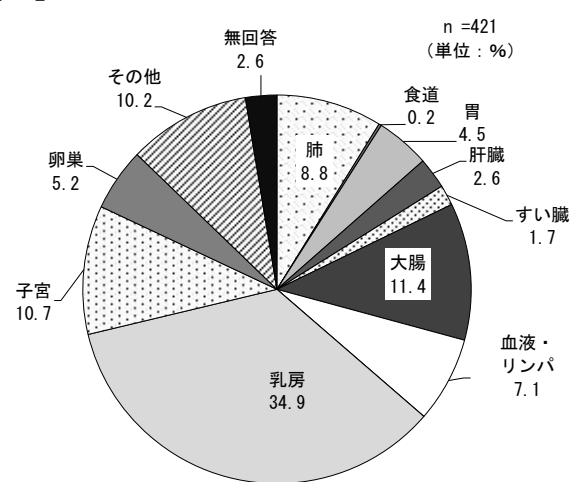
一方、女性では「乳房」が34.9%と最も高く、次いで「大腸」が11.4%、「子宮」が10.7%の順となっている。

■がんの部位（単数回答/男女別）

【男】

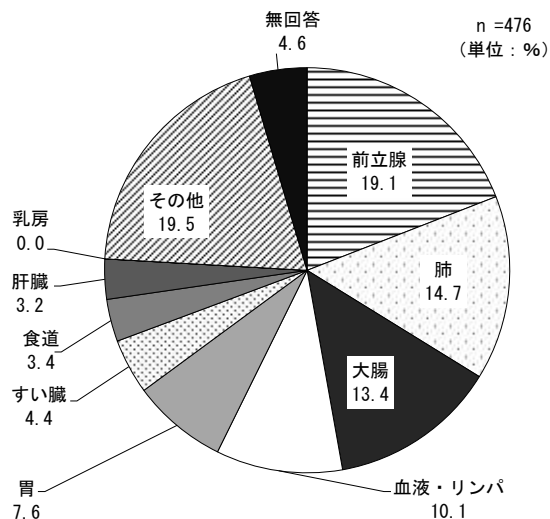


【女】

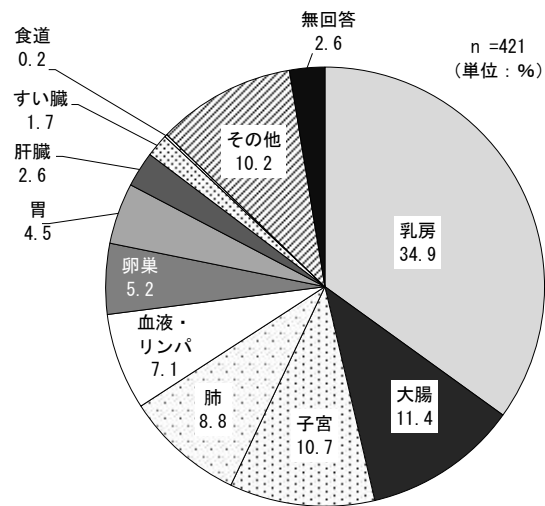


—参考— がんの部位の割合の高いもの順グラフ（男女別）

【男】



【女】

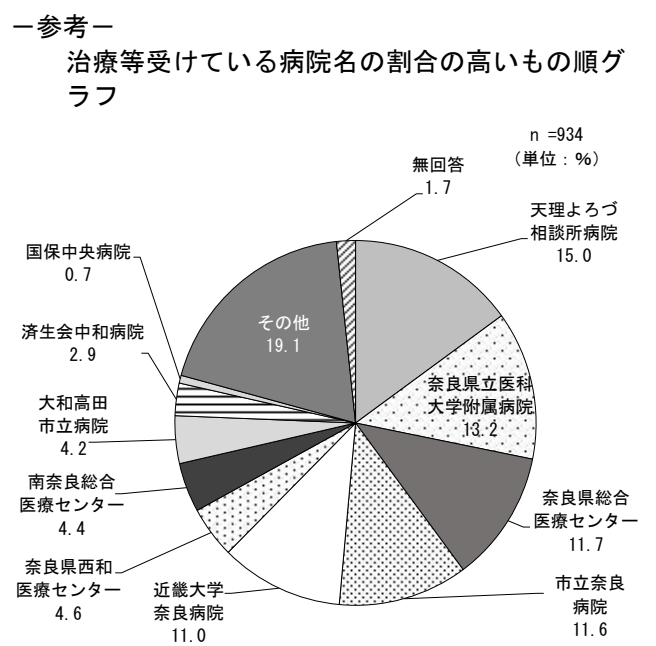
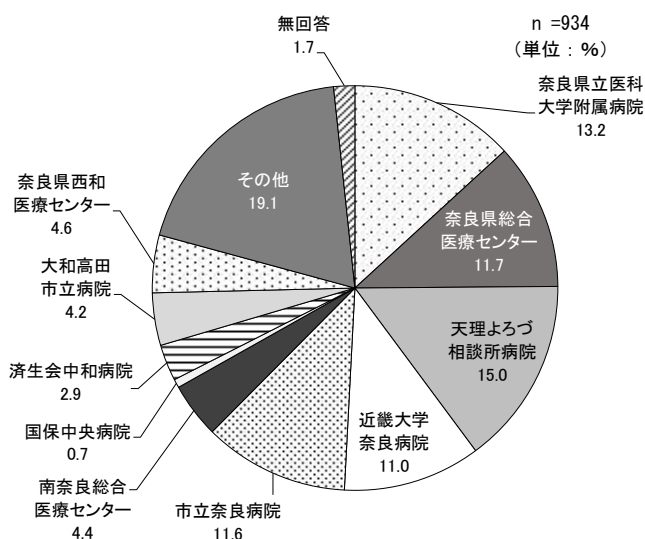


問3 治療等を受けている病院名

問3 現在がんの治療（または経過観察）のためにかかっている病院はどこですか。
【〇はひとつだけ】

現在がんの治療を受けている病院については、「天理よろづ相談所病院」が15.0%と最も高く、次いで「奈良県立医科大学附属病院」が13.2%、「奈良県総合医療センター」が11.7%の順となっている。

■治療等を受けている病院名（単数回答/全体）



n数	奈良県立医科大学附属病院	奈良県総合医療センター	天理よろづ相談所病院	近畿大学奈良病院	市立奈良病院	南奈良総合医療センター	国保中央病院	済生会中和病院	大和高田市立病院	奈良県西和医療センター	その他	無回答
934	123	109	140	103	108	41	7	27	39	43	178	16
100.0	13.2	11.7	15.0	11.0	11.6	4.4	0.7	2.9	4.2	4.6	19.1	1.7

【その他】（3件以上）

- ・平尾病院（28件）
- ・平成記念病院（26件）
- ・高井病院（24件）
- ・土庫病院（22件）
- ・生駒市立病院（16件）
- ・済生会奈良病院（13件）
- ・大和郡山病院（8件）
- ・西の京病院（6件）
- ・済生会御所病院（6件）
- ・香芝生喜病院（5件）
- ・吉田病院（4件）
- ・高の原中央病院（4件）

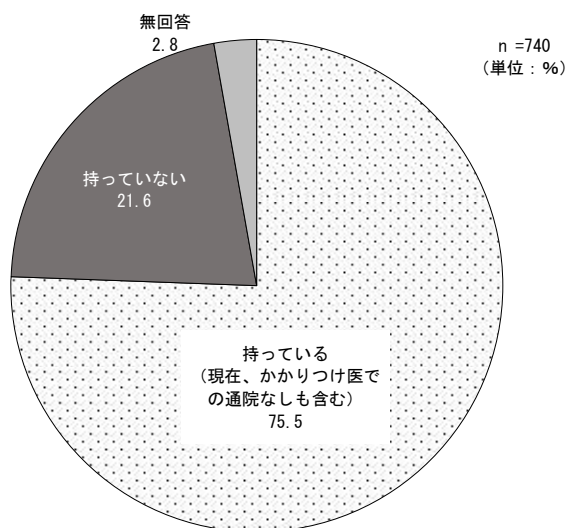
問4 かかりつけ医の有無

問4 地域の病院や診療所のかかりつけ医（注参照）をお持ちですか。【○はひとつだけ】

（注）かかりつけ医：地域の病院や診療所の医師。身近な地域で日常的な医療を受けたり、あるいは健康の相談等ができる医師のこと。

奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院、市立奈良病院、南奈良総合医療センター、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院、奈良県西和医療センターで治療等を受けている方のかかりつけ医の有無については、「持っている（現在、かかりつけ医での通院なしも含む）」が75.5%、「持っていない」が21.6%となっている。

■かかりつけ医の有無（単数回答/全体）



n 数	か り つ け 医 も 含 む	持 っ て い る （ 現 在 、 か か り つ け 医 で の 通 院 な し も 含 む	持 っ て い な い	無 回 答
740	559	160	21	
100.0	75.5	21.6	2.8	

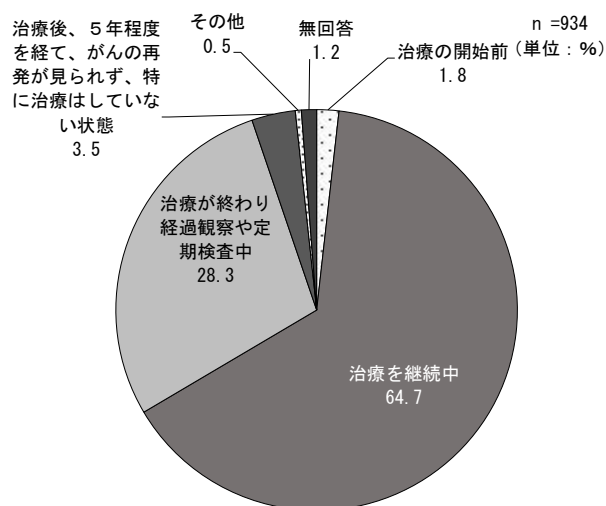
問5 現在の治療状況

問5 現在のがんの治療（緩和ケアも含む）状況を教えてください。【○はひとつだけ】

現在の治療状況（緩和ケアも含む）については、「治療を継続中」が64.7%となっており、「治療が終わり経過観察や定期検査中」が28.3%となっている。

一方「治療後、5年程度を経て、がんの再発が見られず、特に治療はしていない状態」は3.5%となっている。

■現在の治療状況（単数回答/全体）



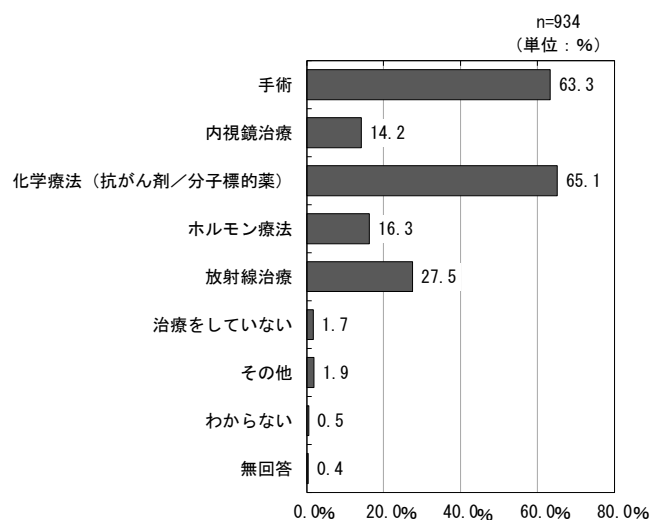
n 数	治療の開始前	治療を継続中	治療が終わり経過観察や定期検査中	治療後、5年程度を経て、がんの再発が見られず、特に治療はしていない状態	その他	無回答
934	17	604	264	33	5	11
100.0	1.8	64.7	28.3	3.5	0.5	1.2

問6 今まで受けた治療

問6 がんと診断されてからこれまで受けたがん治療を教えてください。【〇はいくつでも】

今まで受けた治療については、「化学療法（抗がん剤／分子標的薬）」が 65.1%と最も高く、次いで「手術」が 63.3%、「放射線治療」が 27.5%の順となっている。

■今まで受けた治療（複数回答/全体）



n数	手術	内視鏡治療	化学療法（抗がん剤／分子標的薬）	ホルモン療法	放射線治療	治療をしていない	その他	わからない	無回答
934	591	133	608	152	257	16	18	5	4
100.0	63.3	14.2	65.1	16.3	27.5	1.7	1.9	0.5	0.4

【その他】

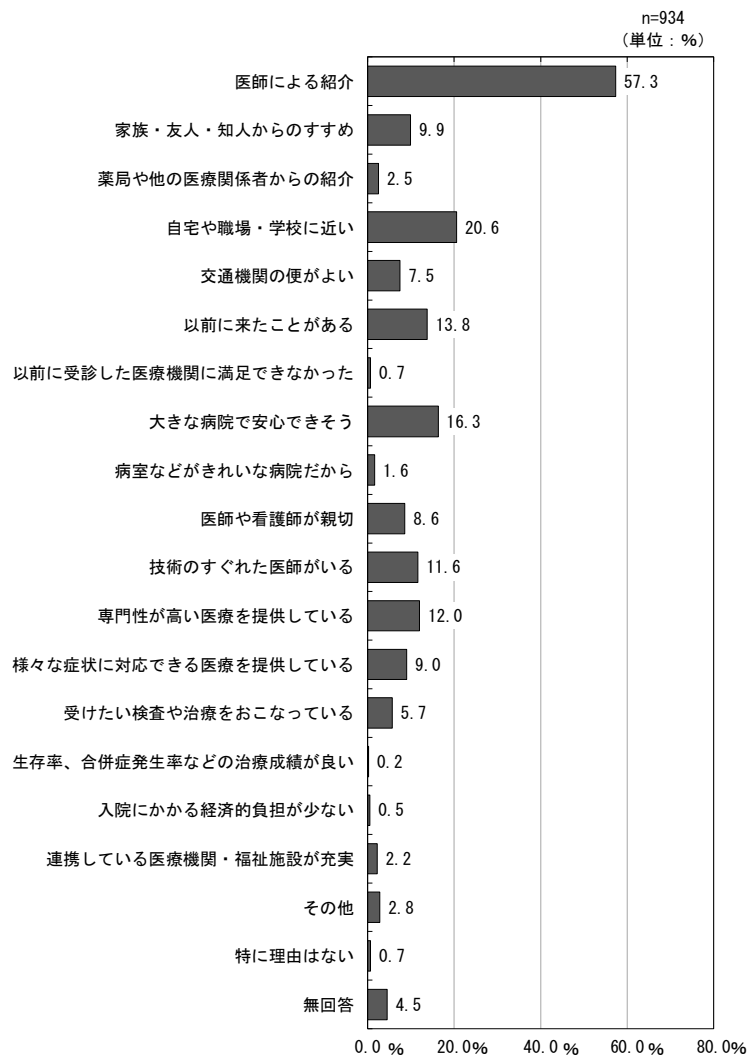
- ・陽子線治療（2件）
- ・免疫療法（2件）
- ・BCG液注入（2件）
- ・温熱療法（2件）
- ・塞栓術
- ・骨髄移植
- ・ゾーフィゴ治療

問7 病院を選んだ理由

問7 現在かかっている病院を選んだ理由は何ですか。【〇は3つまで】

病院を選んだ理由については、「医師による紹介」が57.3%と最も高く、次いで「自宅や職場・学校に近い」が20.6%、「大きな病院で安心できそう」が16.3%の順となっている。

■病院を選んだ理由（複数回答/全体）



【その他】

- ・救急による病院へ入院（8件）
- ・家族が以前から診てもらっている（4件）
- ・信仰的理由
- ・私自身の希望
- ・家族が近くに住んでいる

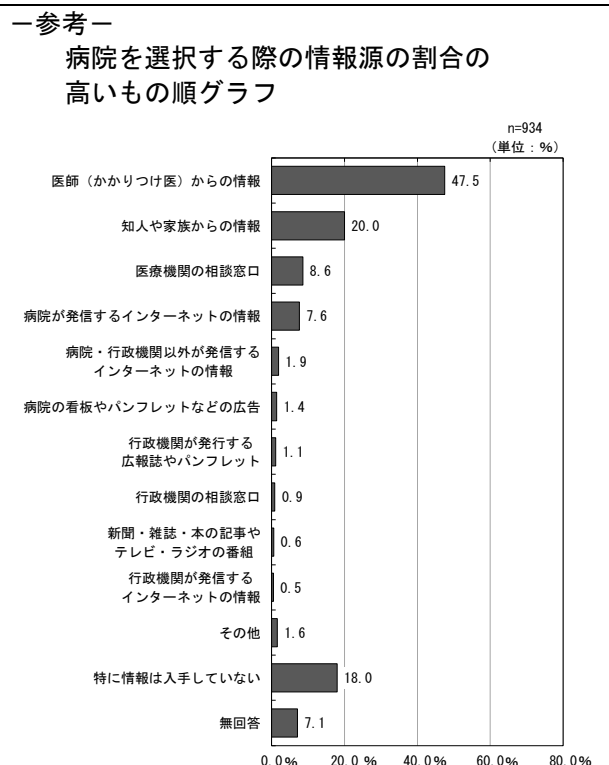
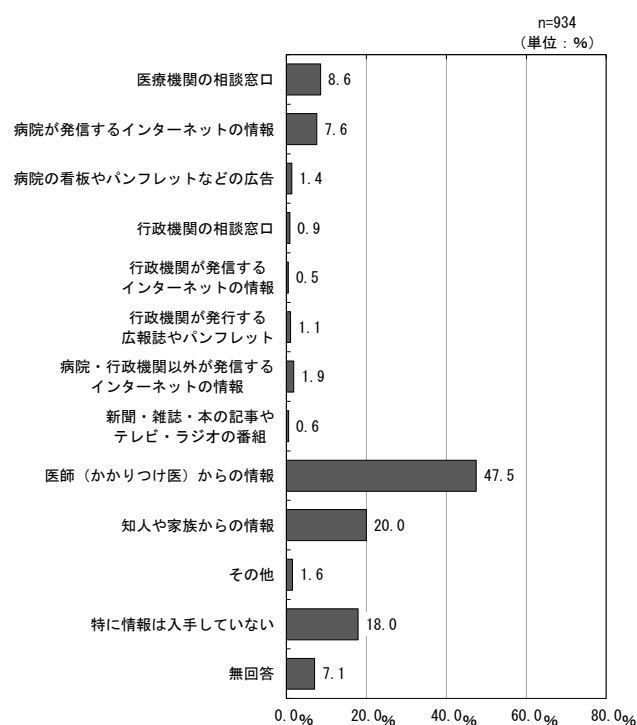
n数	医師による紹介	家族・友人・知人からのすすめ	薬局や他の医療関係者からの紹介	自宅や職場・学校に近い	交通機関の便がよい	以前に来たことがある	以前に受診した医療機関に満足できなかった	大きな病院で安心できそう	病室などがきれいな病院だから	医師や看護師が親切	技術のすぐれた医師がいる	専門性が高い医療を提供している	様々な症状に対応できる医療を提供している	受たい検査や治療をおこなっている	生存率、合併症発生率などの治療成績が良い	入院にかかる経済的負担が少ない	連携している医療機関・福祉施設が充実	その他	特に理由はない	無回答
934	535	92	23	192	70	129	7	152	15	80	108	112	84	53	2	5	21	26	7	42
100.0	57.3	9.9	2.5	20.6	7.5	13.8	0.7	16.3	1.6	8.6	11.6	12.0	9.0	5.7	0.2	0.5	2.2	2.8	0.7	4.5

問8 病院を選択する際の情報源

問8 現在かかっている病院を選ぶにあたり、どこから情報を入手しましたか。【〇はいくつでも】

病院を選択する際の情報源については、「医師（かかりつけ医）からの情報」が47.5%と最も高く、次いで「知人や家族からの情報」が20.0%、「特に情報は入手していない」が18.0%の順となっている。

■病院を選択する際の情報源（複数回答/全体）



n	医療機関の相談窓口	病院が発信するインターネット	病院の看板やパンフレット	行政機関の相談窓口	行政機関が発信するインターネット	行政機関が発行する広報誌	病院・行政機関以外が発信するインターネット	新聞・雑誌・本の記事やテレビ・ラジオの番組	医師（かかりつけ医）からの情報	知人や家族からの情報	その他	特に情報は入手していない	無回答
934	80	71	13	8	5	10	18	6	444	187	15	168	66
100.0	8.6	7.6	1.4	0.9	0.5	1.1	1.9	0.6	47.5	20.0	1.6	18.0	7.1

【その他】

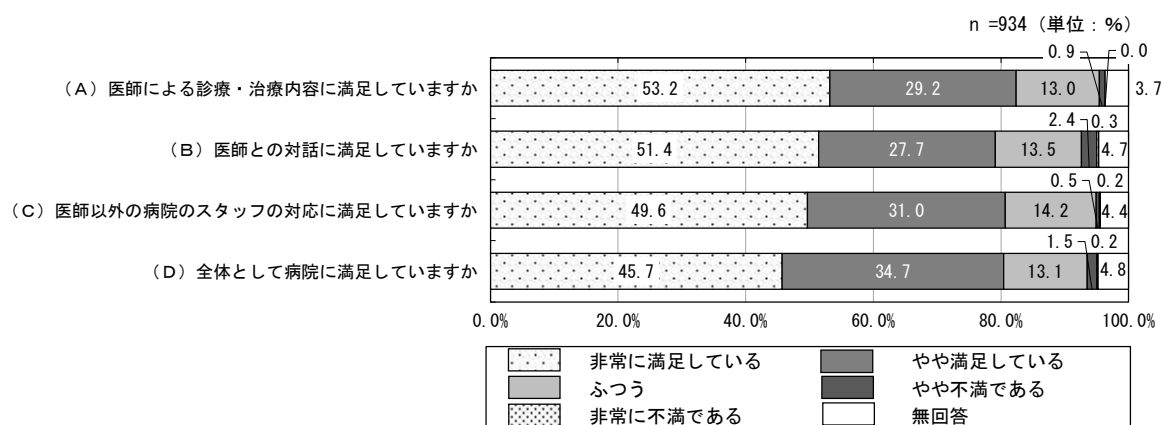
- ・宗教を通じて
- ・他の医療関係者から
- ・検査してもらった病院からの紹介
- ・最初にかかった病院

問9 現在の病院に対する満足度

問9 現在、かかっている病院についての感想をお聞かせください。【それぞれ〇はひとつだけ】

- (A) 医師による診療・治療内容の満足度については、「非常に満足している」が53.2%と最も高く、次いで「やや満足している」が29.2%、「ふつう」が13.0%の順となっている。
 “満足している”（「非常に満足している」＋「やや満足している」）が82.4%、一方“満足していない”（「やや不満である」＋「非常に不満である」）は0.9%となっている。
- (B) 医師との対話の満足度については、「非常に満足している」が51.4%と最も高く、次いで「やや満足している」が27.7%、「ふつう」が13.5%の順となっている。
 “満足している”が79.1%、一方“満足していない”は2.7%となっている。
- (C) 医師以外の病院のスタッフの対応の満足度については、「非常に満足している」が49.6%と最も高く、次いで「やや満足している」が31.0%、「ふつう」が14.2%の順となっている。
 “満足している”が80.6%、一方“満足していない”は0.7%となっている。
- (D) 全体として受診している病院の満足度については、「非常に満足している」が45.7%と最も高く、次いで「やや満足している」が34.7%、「ふつう」が13.1%の順となっている。
 “満足している”が80.4%、一方“満足していない”は1.7%となっている。

■現在の病院に対する満足度（単数回答/全体）



	n数	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	非常に不満である	無回答
(A) 医師による診療・治療内容に満足していますか	934	497	273	121	8	0	35
(B) 医師との対話に満足していますか	934	480	259	126	22	3	44
(C) 医師以外の病院のスタッフの対応に満足していますか	934	463	290	133	5	2	41
(D) 全体として病院に満足していますか	934	427	324	122	14	2	45

満足度を訪ねた4つの項目についてみると、「(A) 医師による診療・治療内容の満足度」「(C) 医師以外の病院のスタッフの対応の満足度」が4.4と最も満足度が高くなっている。

「(B) 医師との対話の満足度」「(D) 全体として受診している病院の満足度」がいずれも4.3となっている。

『令和7年度』は『令和3年度』と比較すると、「(B) 医師との対話の満足度」が低くなっており、「(C) 医師以外の病院のスタッフの対応の満足度」は高くなっている一方、『平成29年度』『平成27年度』『平成25年度』と比較すると、各項目について、同等もしくは高い数値となっている。

■現在の病院に対する満足度比較（項目別）

	(A) 医師による 診療内容の 満足度・	(B) 医師との 対話の満足 度	(C) 医師以外の 病院の スタッフの 対応の満足 度	(D) 全体として 受診してい る 病院の満足 度
令和7年度	4.4	4.3	4.4	4.3
令和3年度	4.4	4.4	4.3	4.3
平成29年度	4.3	4.3	4.3	4.2
平成27年度	4.3	4.2	4.2	4.2
平成25年度	4.3	4.3	4.2	4.2

点数配点表

5：非常に満足している	4：やや満足している	3：ふつう
2：やや不満である	1：非常に不満である	

$$\text{かかっている病院の満足度} = \frac{\sum \text{各回答} \times \text{点数}}{\text{無回答（「その他」「わからない」を除いた有効回答数）}}$$

(注)「その他」は『令和3年度』『平成29年度』『平成27年度』、「わからない」は『平成25年度』の選択肢となっている。

問10 現在の病院に対する満足な点及び不満な点と望む対応（自由記述）

問10 問9のいずれかの項目で「非常に満足している」「やや満足している」「やや不満である」「非常に不満である」と回答された方にお伺いします。

満足な点・不満な点は具体的にどのような点ですか。また、問9のいずれかの項目で「やや不満である」「非常に不満である」と回答された方は、不満な点に対して、どのような対応を望みますか。ご自由にご記入ください。

以下では、A、B、Cそれぞれの各項目について、主な意見を上位5件まで抽出している。

A. 満足な点は具体的にどのような点か

□医師の診療・治療内容（281件）

- ・説明がわかりやすい（98件）
- ・対応してくれる（51件）
- ・親切に説明などがある（22件）
- ・安心できる（20件）
- ・先生が信頼できる（7件）

□医師との対話（162件）

- ・親切（57件）
- ・話しやすい、話を聞いてくれる（27件）
- ・対応が良い（24件）
- ・丁寧（24件）
- ・相談しやすい（6件）

□医師以外の病院スタッフの対応（129件）

- ・医師やスタッフなど含めて親切（66件）
- ・スタッフに話しやすい（11件）
- ・スタッフなどが優しい（6件）
- ・対応に満足（3件）
- ・寄り添って親身に接してもらえる

□全体的なこと（病院のシステム、サービス等を含む）（55件）

- ・各科と共有がスムーズ・連携している（10件）
- ・設備が充実している（7件）
- ・いろいろな検査に対応している（3件）
- ・待ち時間がない（3件）
- ・予約時間通りに対応している（2件）

□その他（4件）

- ・不都合なことは感じない
- ・概ね問題なし
- ・再発していない
- ・現時点で転移していない

B. 不満な点は具体的にどのような点か

□医師の診療・治療内容（22件）

- ・先生の対応が遅い時がある（2件）
- ・計画が具体的ではない（2件）
- ・医師の対応に誠意を感じない
- ・治療が長期間に及んだ点
- ・医師が何年か経つと変わってしまう

□医師との対話（29件）

- ・医師が病状を詳しく説明してくれない（9件）
- ・担当医が忙しいのか、あまり対話できない（4件）
- ・会話が少ないと思う（3件）
- ・病状や検査の結果などを聞ける時間や機会がほしい
- ・抗がん剤治療をしない選択に対して見放すような言動があった

□医師以外の病院スタッフの対応（9件）

- ・看護師の対応や言葉使いが悪い（3件）
- ・事務員の対応が悪い（2件）
- ・術後看護師の対応が不親切だった
- ・院内の連携がとれていない（忙しいのだろうと思う）。
- ・抗がん剤のため毎回、採血、点滴を行うが、何年も注射の針入れの痛さに困った

□全体的なこと（病院のシステム、サービス等を含む）（88件）

- ・待ち時間が長い（44件）
- ・食事がまずい（5件）
- ・駐車場が小さい（3件）
- ・勤務体制、医師不足がある（2件）
- ・祝日が続くと受診できない

C. 不満な点について、どのような対応を望むか

□医師の診療・治療内容（30件）

- ・患者の気持ちにもっと寄り添ってほしい（3件）
- ・治療計画を具体的に教えてほしい（2件）
- ・スピード感をもった対応をお願いしたい（2件）
- ・患者ひとりひとりの情報を共有し、同じ質問を繰り返さないようにしてほしい
- ・苦痛をやわらげる方法を考えてほしい

□医師との対話（25件）

- ・説明、対話をもっとしてほしい（3件）
- ・患者の心（気持ち）を傷つける言葉使いはやめてもらいたい
- ・現状を細かく聞いてもらえれば話しやすい
- ・患者の話聞き最後まで答えを出してほしい
- ・治療に伴う体調の変化を知りたかった。

□医師以外の病院スタッフの対応（10件）

- ・受付対応を改善してほしい。
- ・看護師には事務的な対応ではなく患者の立場に立って話を聞いてほしい。
- ・看護師の能力に大きくばらつきがあるため、資格を公表してほしい。
- ・当日の案内どおりに対応してほしい。
- ・医療事務の方が仕事は早いですが事務的で冷たく感じる。

□全体的なこと（病院のシステム、サービス等を含む）（49件）

- ・予約をしていても待ち時間が長い（7件）
- ・患者が多いので医師の人数を増やしてほしい（5件）
- ・診察予約時間には診察ができるようにしてほしい（3件）
- ・駐車場スペースの拡張（2件）
- ・ロビー（待合室）の混雑緩和

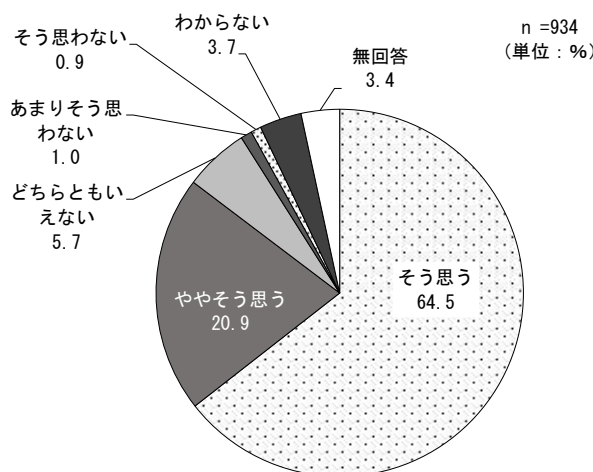
問 11 がん治療の納得感

問 11 がんの診断から治療開始までの状況を総合的にふりかえって、ご自身が納得いく治療を選択することができましたか。【〇はひとつだけ】

がん治療の納得感については、「そう思う」が 64.5%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 20.9%、「どちらともいえない」が 5.7%の順となっている。

“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 85.4%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 1.9%となっている。

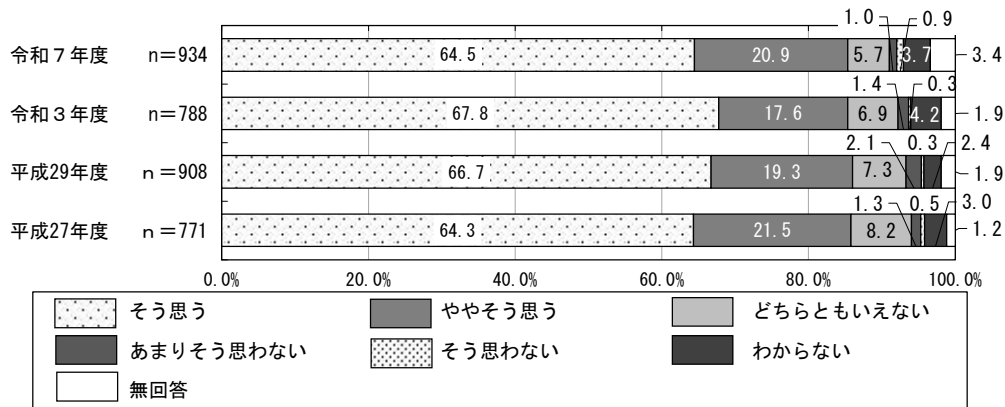
■がん治療の納得感（単数回答/全体）



n 数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
934	602	195	53	9	8	35	32
100.0	64.5	20.9	5.7	1.0	0.9	3.7	3.4

年度間比較をすると、『令和3年度』では“思う”が85.4%、『令和7年度』では85.4%と同率となっている。

■がん治療の納得感（単数回答/年度間比較）



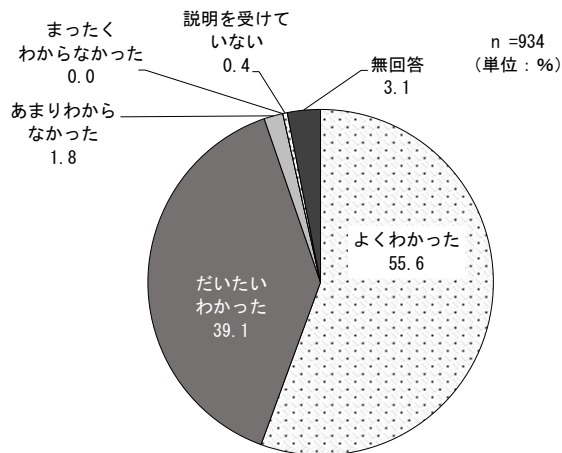
	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
令和7年度	934	602	195	53	9	8	35	32
	100.0	64.5	20.9	5.7	1.0	0.9	3.7	3.4
令和3年度	788	534	139	54	11	2	33	15
	100.0	67.8	17.6	6.9	1.4	0.3	4.2	1.9
平成29年度	908	606	175	66	19	3	22	17
	100.0	66.7	19.3	7.3	2.1	0.3	2.4	1.9
平成27年度	771	496	166	63	10	4	23	9
	100.0	64.3	21.5	8.2	1.3	0.5	3.0	1.2

問12 医師から受けた説明の理解度

問12 診断や治療方針について、現在かかっている病院の医師から受けた説明はよくわかりましたか。【〇はひとつだけ】

医師から受けた説明の理解度については、「よくわかった」が55.6%と最も高く、次いで「だいたいわかった」が39.1%、「あまりわからなかった」が1.8%の順となっている。
 “わかった”（「よくわかった」+「だいたいわかった」）と回答した人は94.7%となっている。

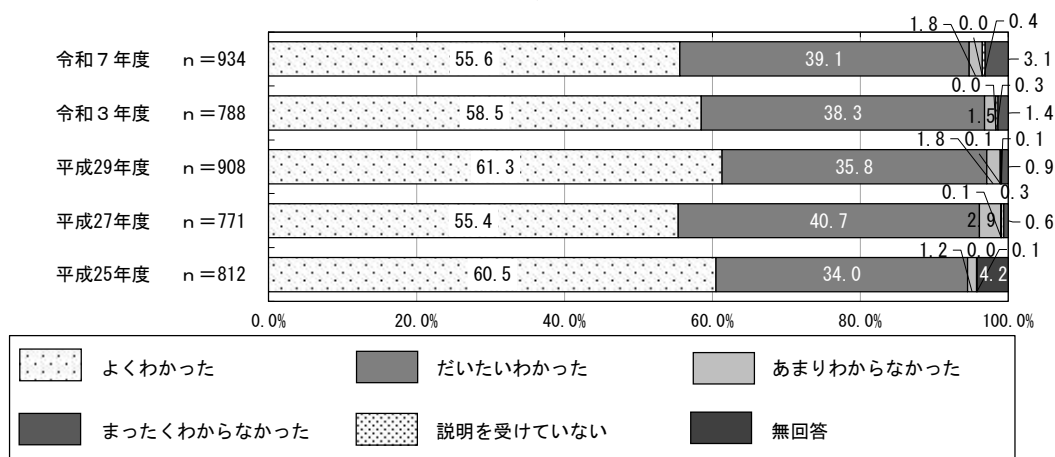
■医師から受けた説明の理解度（単数回答/全体）



n	よくわかった	だいたいわかった	あまりわからなかった	まったくわからなかった	説明を受けていない	無回答
934	519	365	17	0	4	29
100.0	55.6	39.1	1.8	0.0	0.4	3.1

年度間比較をすると、『令和3年度』では“わかった”と回答した人は96.8%であったものが『令和7年度』では“わかった”と回答した人は94.7%と2.1ポイント（94.7%–96.8%）下回っている。

■ 医師から受けた説明の理解度（単数回答/年度間比較）



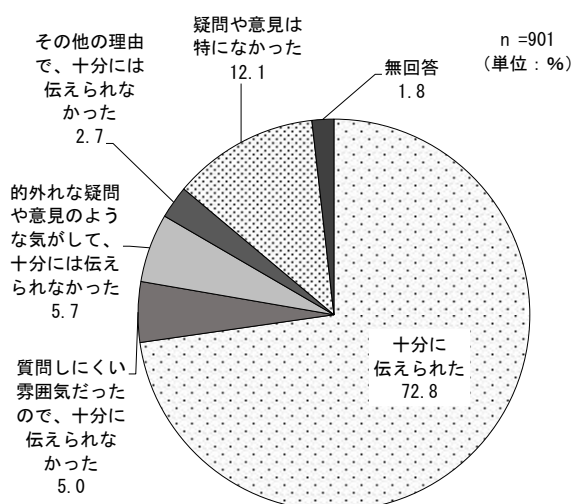
	n	よくわかった	だいたいわかった	あまりわからなかった	まったくわからなかった	説明を受けていない	無回答
令和7年度	934	519	365	17	0	4	29
令和3年度	788	461	302	12	0	2	11
平成29年度	908	557	325	16	1	1	8
平成27年度	771	427	314	22	1	2	5
平成25年度	812	491	276	10	0	1	34

問 13 疑問や意見の医師への意思疎通

問 13 問 12 で「1, よくわかった」、「2, だいたいわかった」、「3, あまりわからなかった」、「4, まったくわからなかった」と回答された方にお伺いします。
 医師から受けた診断や治療方針の説明に対して、あなたの疑問や意見を医師に十分に伝えられましたか。【〇はひとつだけ】

診療や治療方針について病院の医師から説明を受けた方の疑問や意見の医師への意思疎通については、「十分に伝えられた」が 72.8%と最も高く、次いで「疑問や意見は特になかった」が 12.1%、「的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった」が 5.7%の順となっている。

■疑問や意見の医師への意思疎通（単数回答/全体）



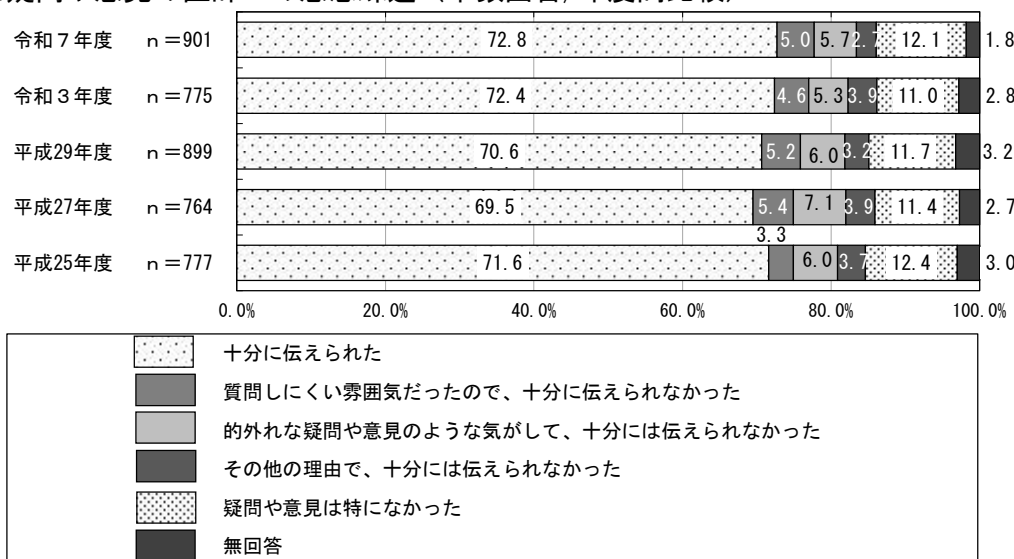
n 数	十分に伝えられた	えだ質問にはよ的にそのか疑問無	らつ問はは外はは伝えつた問や見	れたしはは外はは伝えつた問や見	なでくえなれなれな理由	かつた十霧困に十分	た十分	た	な	な
901	656	45	51	24	109	16				
100.0	72.8	5.0	5.7	2.7	12.1	1.8				

【十分には伝えられなかった理由（その他）】

- ・専門外の質問をしたのかもしれないがわからないので聞かないでくれと言われたことがあった
- ・笑顔で対応される先生を見ると「自分がガマン」すればいいと思ったから。
- ・伝えられたこともあったが、後から気になったことなどはタイミングがなかったり忙しそうだったから聞けない
- ・不安感が大きくて
- ・初めてのことで「わからない」がわからない
- ・問答が噛み合わなかった
- ・十二指腸のことをよく理解していなかった

年度間比較をすると、いずれの調査年度も「十分に伝えられた」が70%前後となっている。一方「十分に伝えられなかった」（「質問しにくい雰囲気だったので、十分に伝えられなかった」＋「的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった」＋「その他の理由で、十分には伝えられなかった」）は15%前後となっている。

■ 疑問や意見の医師への意思疎通（単数回答/年度間比較）



	n	十分に伝えられた	質問しにくい雰囲気だったので、十分に伝えられなかった	的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった	その他の理由で、十分には伝えられなかった	疑問や意見は特になかった	無回答
令和7年度	901	656	45	51	24	109	16
令和3年度	775	561	36	41	30	85	22
平成29年度	899	635	47	54	29	105	29
平成27年度	764	531	41	54	30	87	21
平成25年度	777	556	26	47	29	96	23
	100.0	72.8	5.0	5.7	2.7	12.1	1.8
	100.0	72.4	4.6	5.3	3.9	11.0	2.8
	100.0	70.6	5.2	6.0	3.2	11.7	3.2
	100.0	69.5	5.4	7.1	3.9	11.4	2.7
	100.0	71.6	3.3	6.0	3.7	12.4	3.0

問 14 生殖機能（妊よう性）への影響についての説明の有無

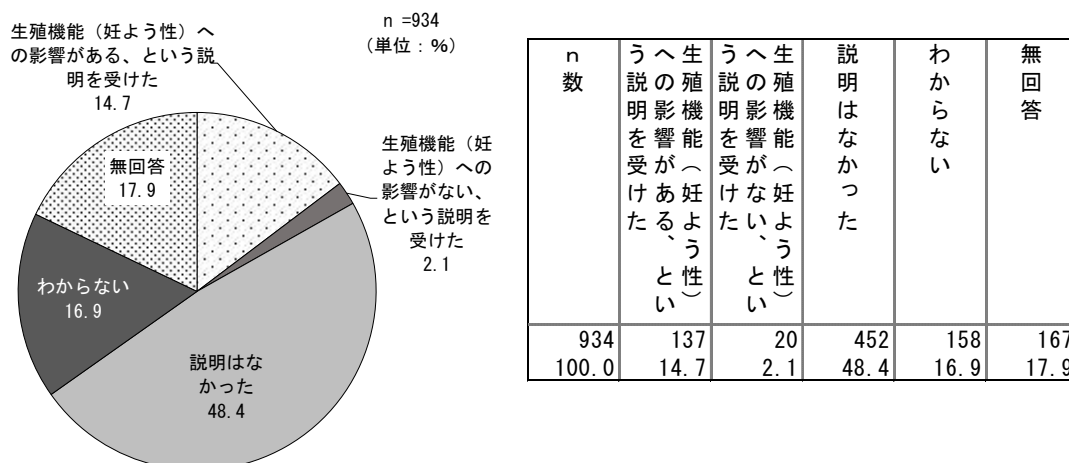
問 14 最初のがん治療が開始される前に、その治療による生殖機能（妊よう性（注参照））への影響について、医師から説明を受けましたか。【〇はひとつだけ】

（注）妊よう性：妊娠するために必要な能力のこと。

生殖機能（妊よう性）への影響についての説明の有無については、「説明はなかった」が 48.4%と最も高く、次いで「わからない」が 16.9%、「生殖機能（妊よう性）への影響がある、という説明を受けた」が 14.7%の順となっている。

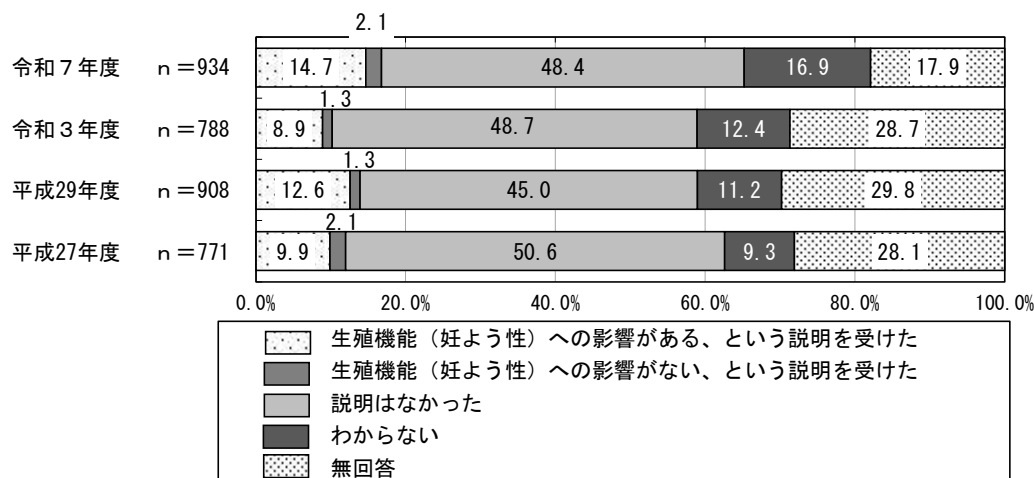
“説明を受けた”（「生殖機能（妊よう性）への影響がある、という説明を受けた」＋「生殖機能（妊よう性）への影響がない、という説明を受けた」）は、16.8%となっている。

■生殖機能（妊よう性）への影響について説明の有無（単数回答/全体）



年度間比較をすると、『令和 3 年度』で“説明を受けた”（「生殖機能（妊よう性）への影響がある、という説明を受けた」＋「生殖機能（妊よう性）への影響がない、という説明を受けた」）は 10.2%であったものが、『令和 7 年度』では 16.8%となっており、6.6 ポイント（16.8%－10.2%）上回っている。

■生殖機能（妊よう性）への影響について説明の有無（単数回答/年度間比較）

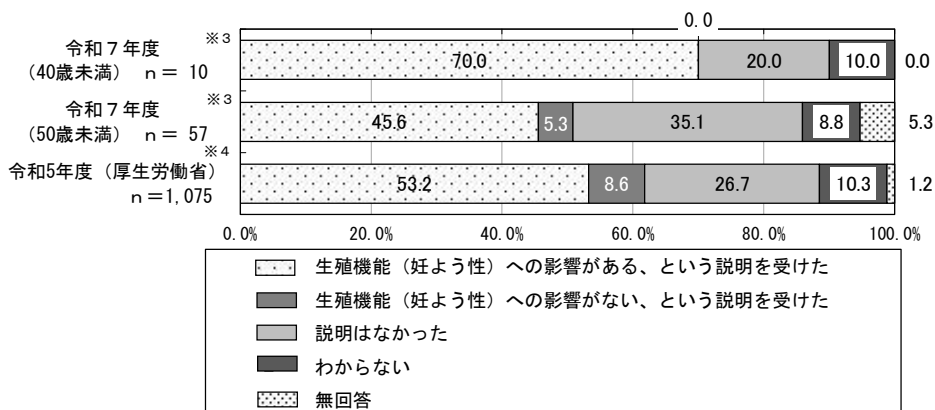


	n 数	受影 響が ある、 と い う 説 明 を の ※ 1	生 殖 機 能 （ 妊 よ う 性 ） へ の ※ 2	受影 響が ない、 と い う 説 明 を の ※ 2	生 殖 機 能 （ 妊 よ う 性 ） へ の ※ 2	説 明 は な か つ た	わ か ら な い	無 回 答
令和7年度	934 100.0	137 14.7	20 2.1	452 48.4	158 16.9	167 17.9		
令和3年度	788 100.0	70 8.9	10 1.3	384 48.7	98 12.4	226 28.7		
平成29年度	908 100.0	114 12.6	12 1.3	409 45.0	102 11.2	271 29.8		
平成27年度	771 100.0	76 9.9	16 2.1	390 50.6	72 9.3	217 28.1		

※1：令和3年度以前は「不妊への影響がある、という説明を受けた」という選択肢であった。
 ※2：令和3年度以前は「不妊への影響がない、という説明を受けた」という選択肢であった。

国の調査（厚生労働省※4）と今回調査の『40歳未満』と『50歳未満』と比較すると、『令和5年度（厚生労働省）』では「生殖機能（妊よう性）への影響がある、という説明を受けた」が53.2%であるのに対し、『令和7年度（今回調査）』では『40歳未満』が70.0%と16.8ポイント（70.0%-53.2%）上回っているが、『50歳未満』が45.6%と7.6ポイント（45.6%-53.2%）下回っている。

■生殖機能（妊よう性）への影響について説明の有無（単数回答/国の調査との比較）



	n 数	と い う 影 響 が あ る、 と い う 説 明 を 受 け た （ 妊 よ う 性 ） へ の ※ 3	と い う 影 響 が あ る、 と い う 説 明 を 受 け た （ 妊 よ う 性 ） へ の ※ 3	と い う 影 響 が あ る、 と い う 説 明 を 受 け た （ 妊 よ う 性 ） へ の ※ 3	と い う 影 響 が あ る、 と い う 説 明 を 受 け た （ 妊 よ う 性 ） へ の ※ 3	説 明 は な か つ た	わ か ら な い	無 回 答
令和7年度 ※3 (40歳未満)	10 100.0	7 70.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0		
令和7年度 ※3 (50歳未満)	57 100.0	26 45.6	3 5.3	20 35.1	5 8.8	3 5.3		
令和5年 ※4 (厚生労働省)	1,075 100.0	572 53.2	92 8.6	287 26.7	111 10.3	13 1.2		

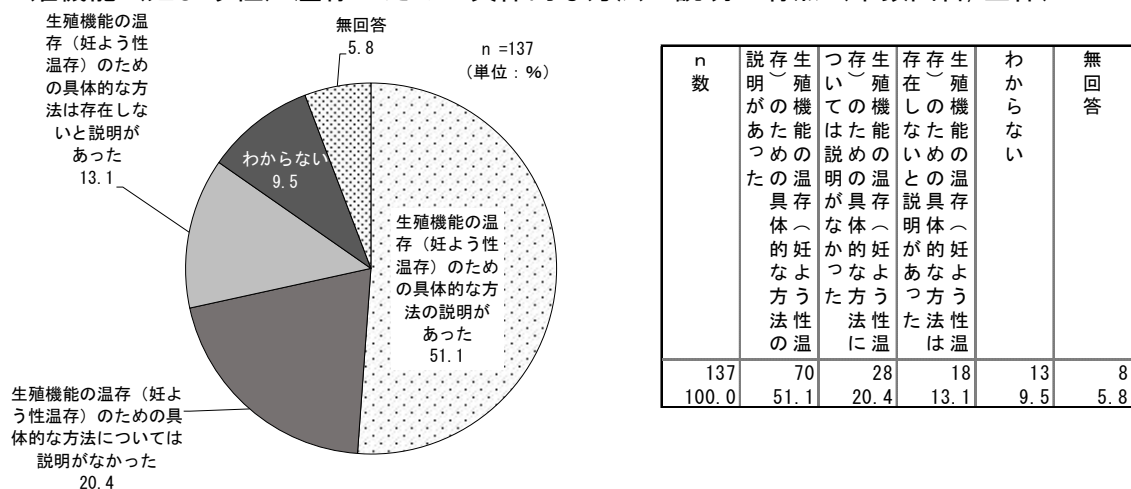
※3 『患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和7年度』で40歳未満のデータを抽出し再集計している。また、50歳未満のデータも再集計し掲載している。
 ※4 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省

問 15 生殖機能（妊よう性）温存のための具体的な方法の説明の有無

問 15 問 14 で「1. 生殖機能（妊よう性）への影響がある、という説明を受けた」と回答された方にお伺いします。
それは、どのような説明でしたか。【〇はひとつだけ】

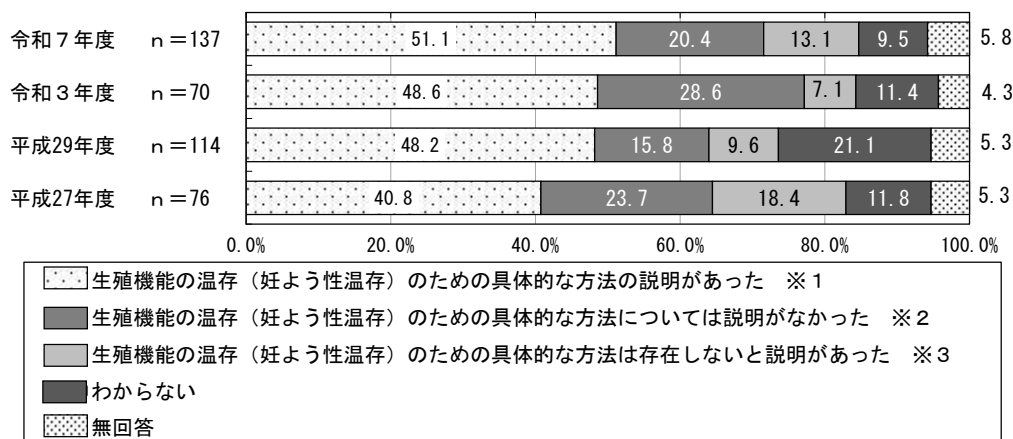
生殖機能（妊よう性）への影響がある、という説明を受けた方の生殖機能温存（妊よう性温存）のための具体的な方法の説明については、「生殖機能の温存（妊よう性温存）のための具体的な方法の説明があった」が 51.1%と最も高く、次いで「生殖機能の温存（妊よう性温存）のための具体的な方法については説明がなかった」が 20.4%、「生殖機能（妊よう性）の温存のための具体的な方法は存在しないと説明があった」が 13.1%の順となっている。

■生殖機能（妊よう性）温存のための具体的な方法の説明の有無（単数回答/全体）



年度間比較をすると、『令和 3 年度』で「生殖機能の温存（妊よう性温存）のための具体的な方法の説明があった」は 48.6%であったものが、『令和 7 年度』では 51.1%となっており、2.5 ポイント（51.1%－48.6%）上回っている。

■生殖機能（妊よう性）温存のための具体的な方法の説明の有無（単数回答/年度間比較）

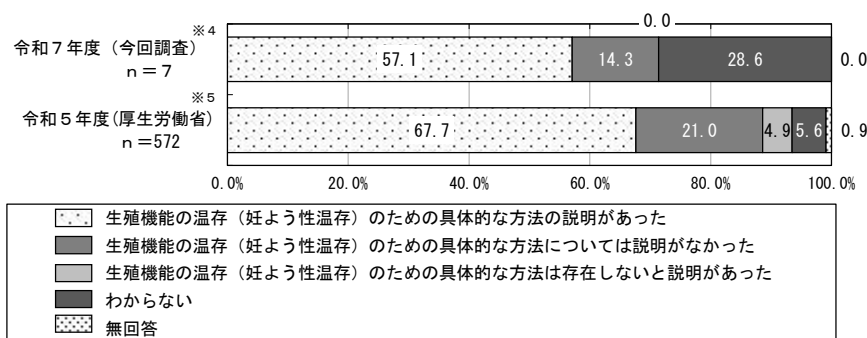


	n 数	あ つ た た め の 具 体 的 な 方 法 よ う 性 温 存 (※ 1	生 殖 機 能 の 温 存 な か つ た 具 体 的 な 方 法 よ う 性 温 存 (※ 2	説 明 が な か つ た 具 体 的 な 方 法 よ う 性 温 存 に つ い て は (※ 3	い と 説 明 が あ つ た 具 体 的 な 方 法 よ う 性 温 存 に つ い て は (※ 3	わ か ら な い	無 回 答
令和7年度	137 100.0	70 51.1	28 20.4	18 13.1	13 9.5	8 5.8	
令和3年度	70 100.0	34 48.6	20 28.6	5 7.1	8 11.4	3 4.3	
平成29年度	114 100.0	55 48.2	18 15.8	11 9.6	24 21.1	6 5.3	
平成27年度	76 100.0	31 40.8	18 23.7	14 18.4	9 11.8	4 5.3	

- ※1 令和3年度以前は「不妊への影響があり、予防・温存の具体的方法を説明された」という選択肢であった。
- ※2 令和3年度以前は「不妊への影響がある、という説明はあったが予防・温存の具体的方法までは説明がなかった」という選択肢であった。
- ※3 令和3年度以前は「不妊への影響があるが、予防・温存の具体的方法は存在しないと説明された」という選択肢であった。

国の調査（厚生労働省^{※5}）と比較すると、『令和5年度（厚生労働省）』では「生殖機能の温存（妊よう性温存）のための具体的な方法の説明があった」が67.7%であるのに対し、『令和7年度（今回調査）』では57.1%と10.6ポイント（57.1%-67.7%）下回っている。

■生殖機能（妊よう性）温存のための具体的な方法の説明の有無（単数回答/国の調査との比較）



※4 患者体験調査（令和5年度）（厚生労働省）とデータ抽出条件を同じにするため、『令和7年度』で生殖機能（妊よう性）への影響がある、という説明を受けた方から40歳未満のデータを抽出し再集計している

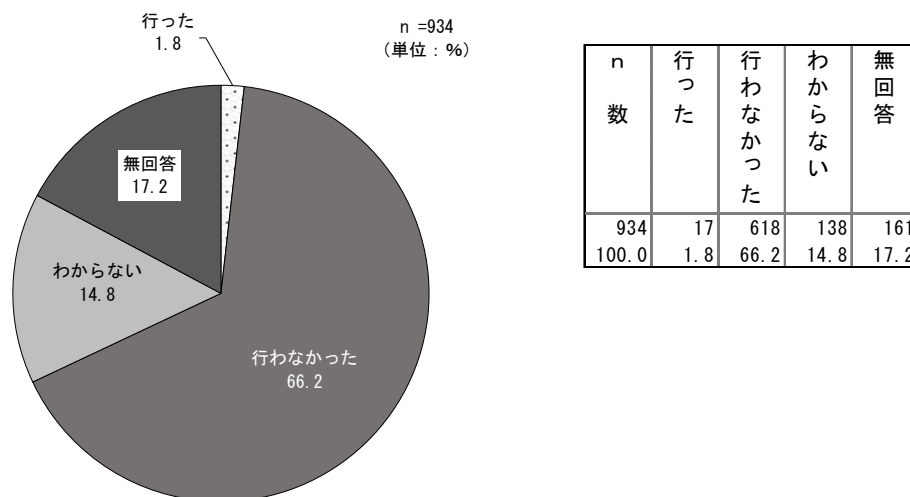
※5 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省

	n 数	あ つ た た め の 具 体 的 な 方 法 よ う 性 温 存 (※ 4	生 殖 機 能 の 温 存 な か つ た 具 体 的 な 方 法 よ う 性 温 存 (※ 5	説 明 が な か つ た 具 体 的 な 方 法 よ う 性 温 存 に つ い て は (※ 5	い と 説 明 が あ つ た 具 体 的 な 方 法 よ う 性 温 存 に つ い て は (※ 5	わ か ら な い	無 回 答
令和7年度 ※4 (今回調査)	7 100.0	4 57.1	1 14.3	0 0.0	2 28.6	0 0.0	
令和5年度 ※5 (厚生労働省)	572 100.0	387 67.7	120 21.0	28 4.9	32 5.6	5 0.9	

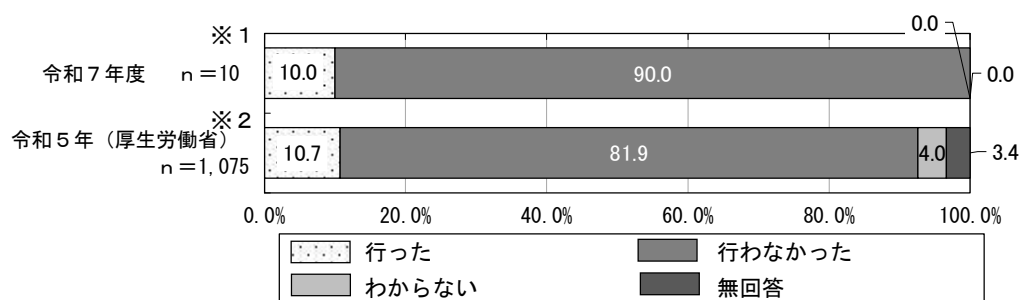
問 16 生殖機能（妊よう性）温存のための凍結保存や治療方法の変更の有無

問 16 がん治療の開始に際し、実際に生殖機能の温存（妊よう性温存）のために精子や卵子等の保存や、治療方法の変更（薬の変更を含む）を行いましたか。【〇はひとつだけ】

妊よう性温存のために凍結保存や治療方法の変更を行ったかについては、「行わなかった」が66.2%と最も高く、次いで「わからない」が14.8%、「行った」が1.8%の順となっている。



国の調査（厚生労働省※2）と比較すると、『令和5年度（厚生労働省）』では「行った」が10.7%であるのに対し、『令和7年度』では10.0%と0.7ポイント（10.0%-10.7%）下回っている。



	n	行った	行わなかった	わからない	無回答
令和7年度 ※1 (今回調査)	10	1	9	0	0
令和5年度 ※2 (厚生労働省)	1,075	115	880	43	37
	100.0	10.7	81.9	4.0	3.4

- ※1 患者体験調査（令和5年度）（厚生労働省）』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和7年度』で40歳未満のデータを抽出し再集計している
- ※2 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省

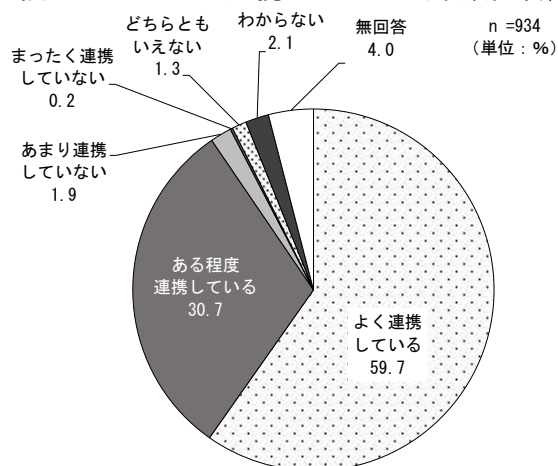
問 17 院内スタッフの連携について

問 17 あなたが治療を受けている病院では、診断・治療に関わる医師、看護師、他の医療スタッフはあなたから見て十分に連携していると思いますか。【〇はひとつだけ】

院内スタッフの連携については、「よく連携している」が 59.7%と最も高く、次いで「ある程度連携している」が 30.7%、「あまり連携していない」が 1.9%の順となっている。

また“連携している”（「よく連携している」＋「ある程度連携している」）は 90.4%となっている。

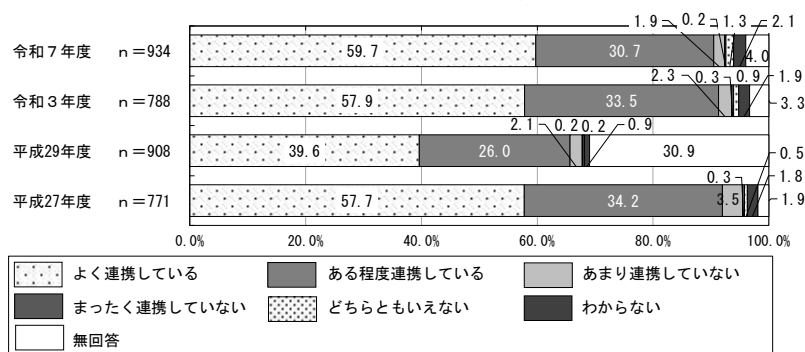
■院内スタッフの連携について（単数回答/全体）



n	よく連携している	ある程度連携している	あまり連携していない	まったく連携していない	どちらともいえない	わからない	無回答
934	558	287	18	2	12	20	37
100.0	59.7	30.7	1.9	0.2	1.3	2.1	4.0

年度間比較をすると、『令和3年度』で“連携している”は 91.4%であったものが、『令和7年度』では“連携している”が 90.4%となっており、1.0ポイント (90.4%－91.4%) 下回っている。

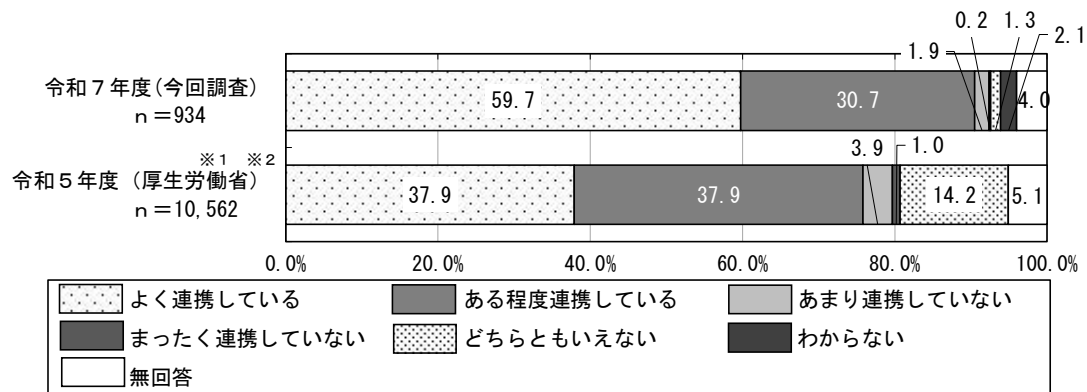
■院内スタッフの連携について（単数回答/年度間比較）



	n	よく連携している	ある程度連携している	あまり連携していない	まったく連携していない	どちらともいえない	わからない	無回答
令和7年度	934	558	287	18	2	12	20	37
	100.0	59.7	30.7	1.9	0.2	1.3	2.1	4.0
令和3年度	788	456	264	18	2	7	15	26
	100.0	57.9	33.5	2.3	0.3	0.9	1.9	3.3
平成29年度	908	360	236	19	2	2	8	281
	100.0	39.6	26.0	2.1	0.2	0.2	0.9	30.9
平成27年度	771	445	264	27	2	4	14	15
	100.0	57.7	34.2	3.5	0.3	0.5	1.8	1.9

国の調査（厚生労働省※1）と比較すると、『令和5年度（厚生労働省）』では“連携している”が75.8%であるのに対し、『令和7年度（今回調査）』では90.4%と14.6ポイント（90.4%－75.8%）上回っている。

■院内スタッフの連携について（単数回答/国の調査との比較）



	n	よく連携している	ある程度連携している	あまり連携していない	まったく連携していない	どちらともいえない	わからない	無回答
令和7年度(今回調査)	934	558	287	18	2	12	20	37
令和5年度※1※2(厚生労働省)	10,562	4,005	3,999	408	109	1,500	-	541

※1 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省
 ※2 選択肢は「十分共有されていた」「ある程度共有されていた」「あまり共有されていなかった」「全く共有されていなかった」「どちらともいえない」となっている。

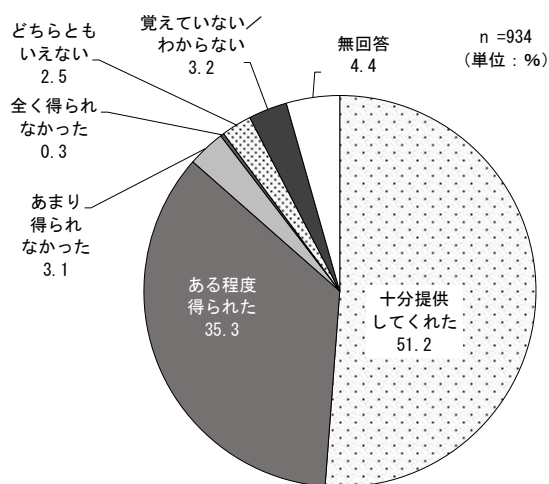
問 18 医師等からの情報提供

問 18 「がん治療」を決めるまでの間、医師、看護師、他のスタッフは、治療について、あなたが欲しいと思った情報を提供しましたか。（「がん治療」には治療しないという方針も含まれます。）【〇はひとつだけ】

医師等からの情報提供については、「十分提供してくれた」が 51.2%と最も高く、次いで「ある程度得られた」が 35.3%、「あまり得られなかった」が 3.1%の順となっている。

また“情報を得られた”（「十分提供してくれた」＋「ある程度得られた」）は 86.5%となっている。

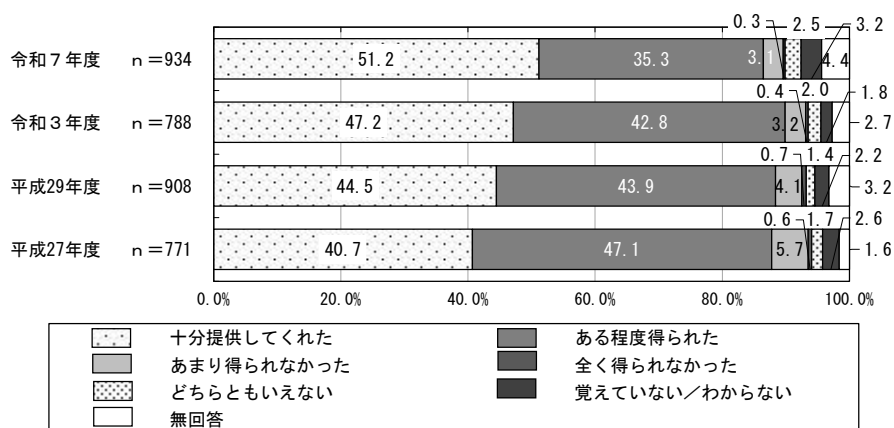
■医師等からの情報提供（単数回答/全体）



n 数	十分提供してくれた	ある程度提供してくれた	あまり提供してくれなかった	全く提供してくれなかった	どちらともいえない	覚えていない／わからない	無回答
934	478	330	29	3	23	30	41
100.0	51.2	35.3	3.1	0.3	2.5	3.2	4.4

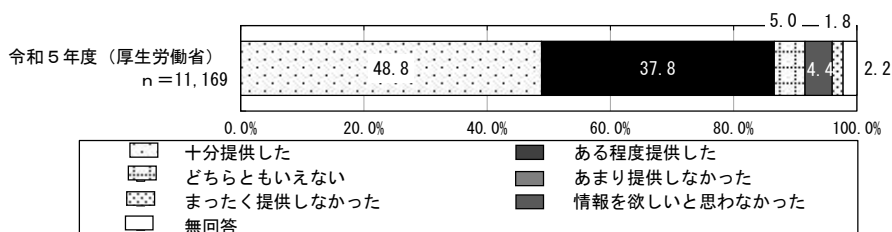
年度間比較をすると、『令和3年度』で“情報を得られた”が 90.0%、『令和7年度』では“情報を得られた”が 86.5%となっており、3.5ポイント（86.5%－90.0%）下回っている。

■医師等からの情報提供（単数回答/年度間比較）



	n 数	十分 提供 してく れた	ある 程度 得られ た	あま り得ら れなかつ た	全く 得られ なかつ た	どち らとも いえな い	覚え ていな い／わ からな い	無回 答
令和7年度	934 100.0	478 51.2	330 35.3	29 3.1	3 0.3	23 2.5	30 3.2	41 4.4
令和3年度	788 100.0	372 47.2	337 42.8	25 3.2	3 0.4	16 2.0	14 1.8	21 2.7
平成29年度	908 100.0	404 44.5	399 43.9	37 4.1	6 0.7	13 1.4	20 2.2	29 3.2
平成27年度	771 100.0	314 40.7	363 47.1	44 5.7	5 0.6	13 1.7	20 2.6	12 1.6

—参考— 医師等からの情報提供 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省



※ 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省

（注）厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と回答欄がやや異なるため、参考として記した。

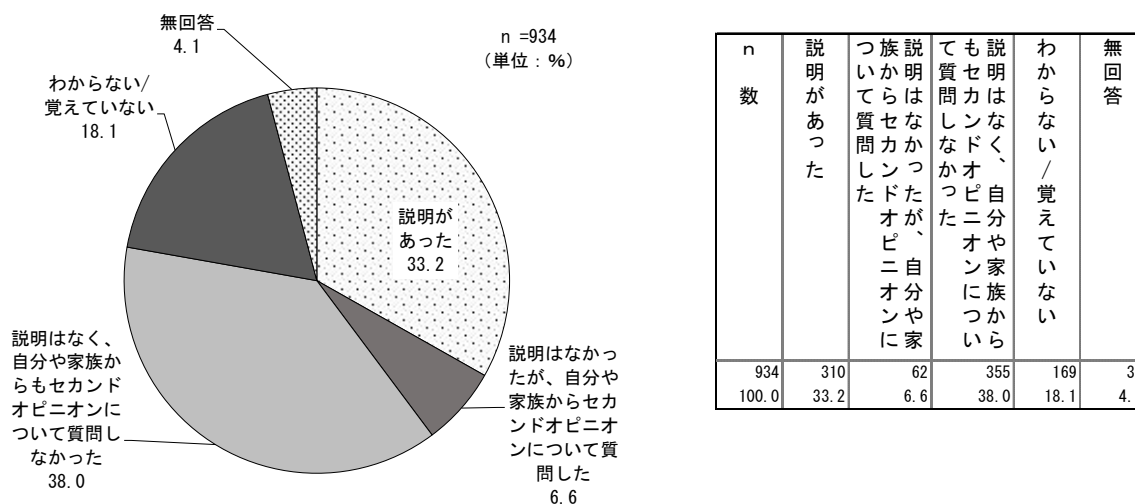
	n 数	十分 提供 してく れた	ある 程度 提供し た	どち らとも いえな い	あま り提 供し なかつ た	た ま た く 提 供し な かつ た	無回 答
令和5年度 （厚生労働省）	11,169 100.0	5,456 48.8	4,224 37.8	555 5.0	488 4.4	205 1.8	241 2.2

問 19 セカンドオピニオンについて担当医からの説明の有無

問 19 がん治療が始まる前にほかの医師の意見を聞く「セカンドオピニオン」を受けられることについて担当医から説明はありましたか。【〇はひとつだけ】

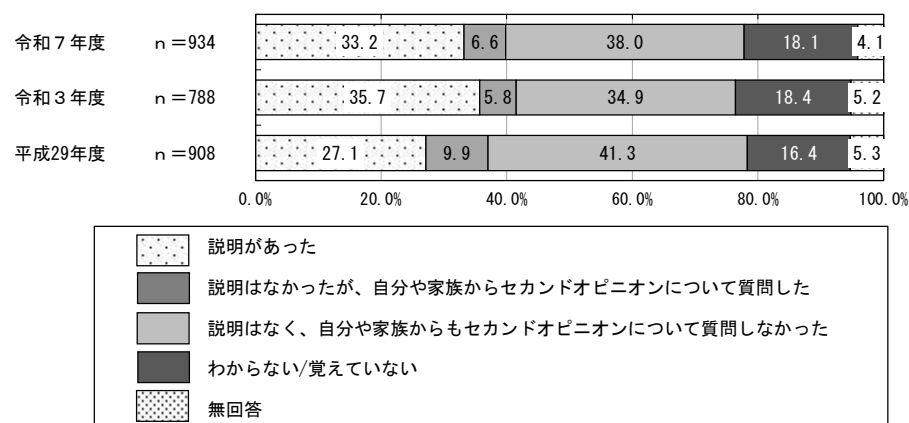
セカンドオピニオンについて担当医からの説明の有無については、「説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問しなかった」が 38.0%と最も高く、次いで「説明があった」が 33.2%、「わからない/覚えていない」が 18.1%の順となっている。

■セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無（単数回答/全体）



年度間比較をすると、『令和3年度』で「説明があった」が 35.7%、『令和7年度』では 33.2%となっており、2.5ポイント（33.2%－35.7%）下回っている。

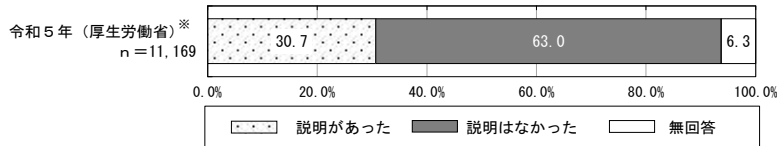
■セカンドオピニオンについて担当医から説明の有無（単数回答/年度間比較）



	n 数	説明 があ った	家 族 に つ い て 質 問 し た	説 明 は な か つ た が 、 自 分 や オ ピ ニ オ ン	つ ら い も セ カ ン ド オ ピ ニ オ ン に	説 明 は な く 、 自 分 や 家 族 に	覚 え か ら な い / 無 回 答	無 回 答
令和7年度	934 100.0	310 33.2	62 6.6	355 38.0	169 18.1	38 4.1		
令和3年度	788 100.0	281 35.7	46 5.8	275 34.9	145 18.4	41 5.2		
平成29年度	908 100.0	246 27.1	90 9.9	375 41.3	149 16.4	48 5.3		

—参考— セカンドオピニオンについて担当医からの説明の有無 患者体験調査（令和5年度）

厚生労働省



	n 数	説 明 が あ っ た	説 明 は な か つ た	無 回 答
令和5年度※ (厚生労働省)	11,169 100.0	3,428 30.7	7,033 63.0	708 6.3

※ 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省

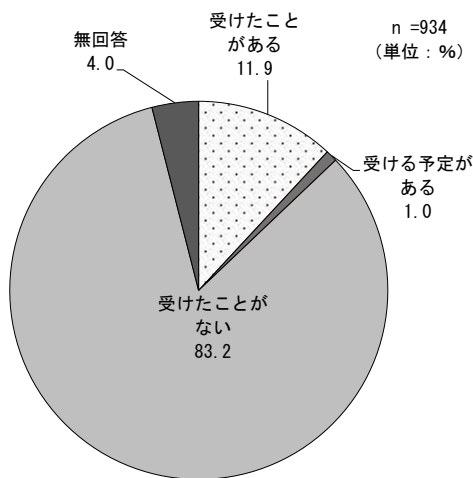
（注）厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と回答欄が異なるため、参考として記した。

問20 セカンドオピニオンの経験の有無

問20 セカンドオピニオンを受けたことがありますか。【〇はひとつだけ】

セカンドオピニオンの経験の有無については、「受けたことがない」が83.2%と最も高く、次いで「受けたことがある」が11.9%、「受ける予定がある」が1.0%の順となっている。

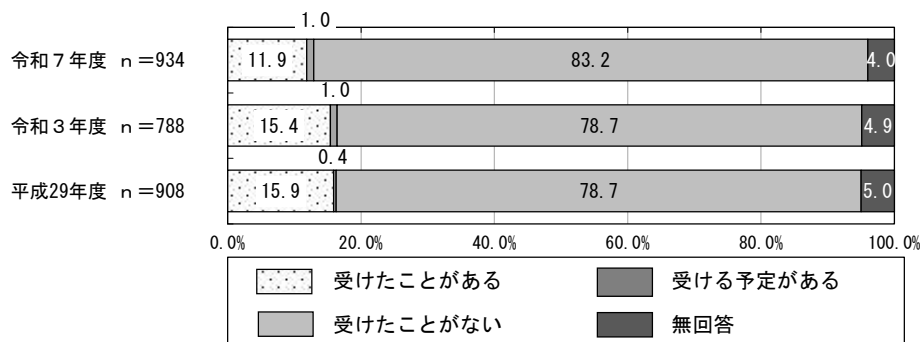
■セカンドオピニオンの経験の有無（単数回答/全体）



n 数	受 け た こ と が あ る	受 け る 予 定 が あ る	受 け た こ と が な い	無 回 答
934 100.0	111 11.9	9 1.0	777 83.2	37 4.0

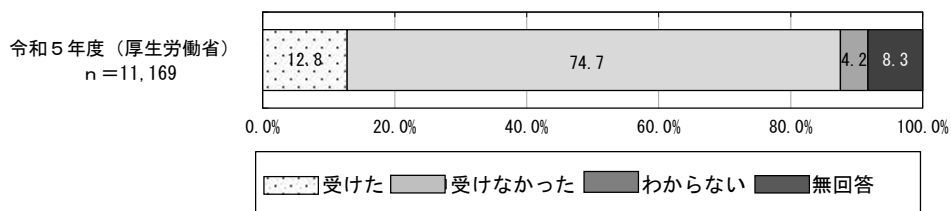
年度間比較をすると、『令和3年度』で「受けたことがある」が15.4%、『令和7年度』では11.9%となっており、3.5ポイント（11.9%－15.4%）下回っている。

■セカンドオピニオンの経験の有無（単数回答/年度間比較）



	n	受けたことがある	受ける予定がある	受けたことがない	無回答
令和7年度	934	111	9	777	37
	100.0	11.9	1.0	83.2	4.0
令和3年度	788	281	46	275	41
	100.0	15.4	1.0	78.7	4.9
平成29年度	908	246	90	375	48
	100.0	15.9	0.4	78.7	5.0

—参考— セカンドオピニオンの経験の有無 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省



※ 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省

（注）厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と回答欄がやや異なるため、参考として記した。

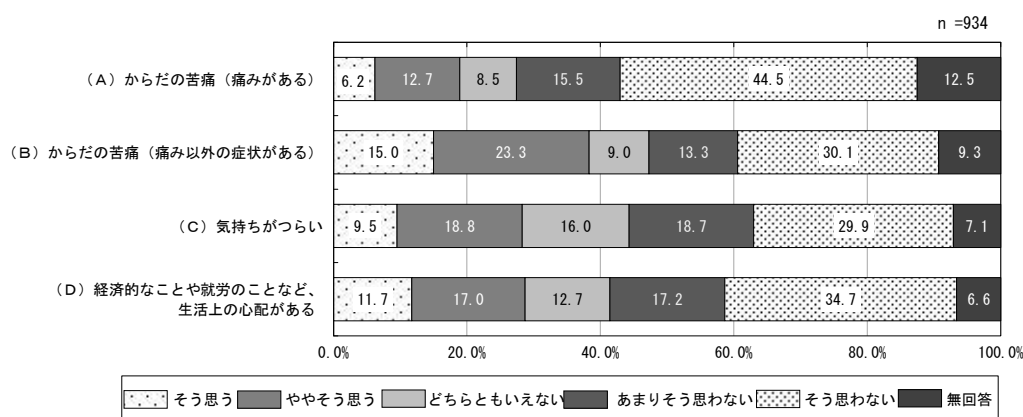
	n	受けた	受けなかった	わからない	無回答
令和5年度 （厚生労働省）	11,169	1,427	8,347	473	922
	100.0	12.8	74.7	4.2	8.3

問 21 現在の心身の状態

問 21 現在の心身の状態についてお聞かせください。【それぞれ○はひとつだけ】

- (A) からだの苦痛（痛みがある）については、「そう思わない」が44.5%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が15.5%、「ややそう思う」が12.7%の順となっている。
 “思う”（「そう思う」+「ややそう思う」）は18.9%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」+「そう思わない」）は60.0%となっている。
- (B) からだの苦痛（痛み以外の症状がある）については、「そう思わない」が30.1%と最も高く、次いで「ややそう思う」が23.3%、「そう思う」が15.0%の順となっている。
 “思う”は38.3%、一方“思わない”は43.4%となっている。
- (C) 気持ちがつらいについては、「そう思わない」が29.9%と最も高く、次いで「ややそう思う」が18.8%、「あまりそう思わない」が18.7%の順となっている。
 “思う”は28.3%、一方“思わない”は48.6%となっている。
- (D) 経済的なことや就労のことなど、生活上の心配があるについては、「そう思わない」が34.7%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が17.2%、「ややそう思う」が17.0%の順となっている。
 “思う”は28.7%、一方“思わない”は51.9%となっている。

■現在の心身の状態（単数回答/全体）

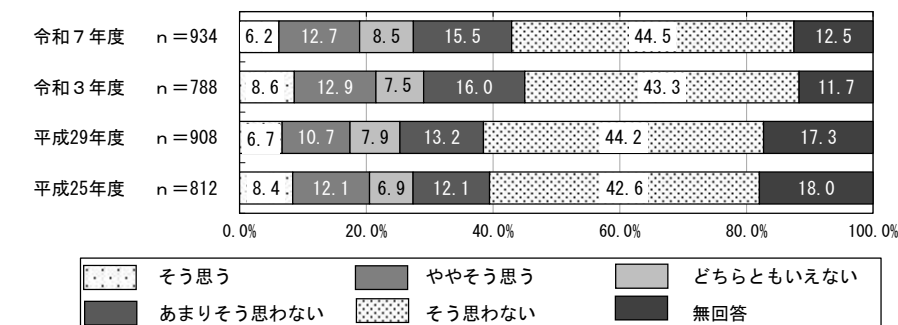


	n	そう 思 う	や や そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
(A) からだの苦痛 （痛みがある）	934	58	119	79	145	416	117
(B) からだの苦痛 （痛み以外の症状がある）	934	140	218	84	124	281	87
(C) 気持ちがつらい	934	89	176	149	175	279	66
(D) 経済的なことや就労の ことなど、生活上の心配がある	934	109	159	119	161	324	62

(A) からだの苦痛（痛みがある）

年度間比較をすると、『令和3年度』では“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が21.5%、『令和7年度』では18.9%と2.6ポイント（18.9%－21.5%）下回り、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）は0.7ポイント（60.0%－59.3%）上回っている。

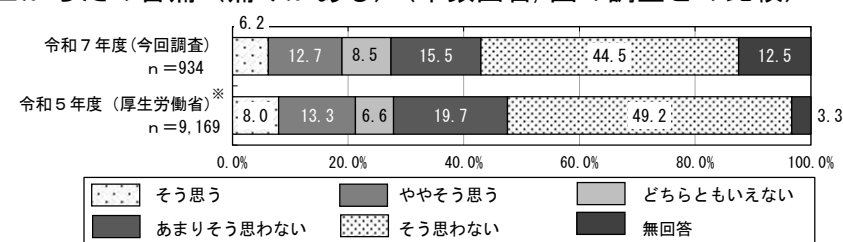
■からだの苦痛（痛みがある）（単数回答/年度間比較）



	n	思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和7年度	934	58	119	79	145	416	117
令和3年度	788	68	102	59	126	341	92
平成29年度	908	61	97	72	120	401	157
平成25年度	812	68	98	56	98	346	146

国の調査（厚生労働省*）と比較すると、『令和5年度（厚生労働省）』では“思う”が21.3%、『令和7年度』では18.9%と、2.4ポイント（18.9%－21.3%）下回っており、“思わない”は8.9ポイント（60.0%－68.9%）下回っている。

■からだの苦痛（痛みがある）（単数回答/国の調査との比較）



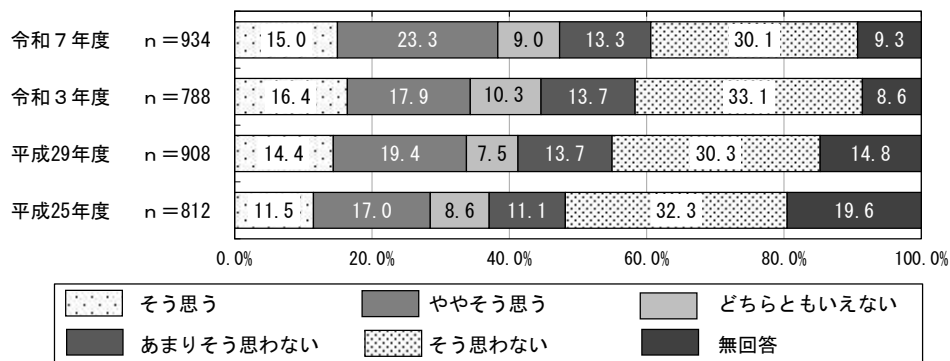
※ 患者体験調査（令和5年度）厚生労働省

	n	思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和7年度（今回調査）	934	58	119	79	145	416	117
令和5年度*（厚生労働省）	9,169	730	1,218	606	1,806	4,511	298

(B) からだの苦痛（痛み以外の症状がある）

年度間比較をすると、『令和3年度』では“思う”（「思う」＋「やや思う」）が34.3%、『令和7年度』が38.3%と4.0ポイント（38.3%－34.3%）上回っており、“思わない”（「思わない」＋「あまり思わない」）は3.4ポイント（43.4%－46.8%）下回っている。

■からだの苦痛（痛み以外の症状がある）（単数回答/年度間比較）

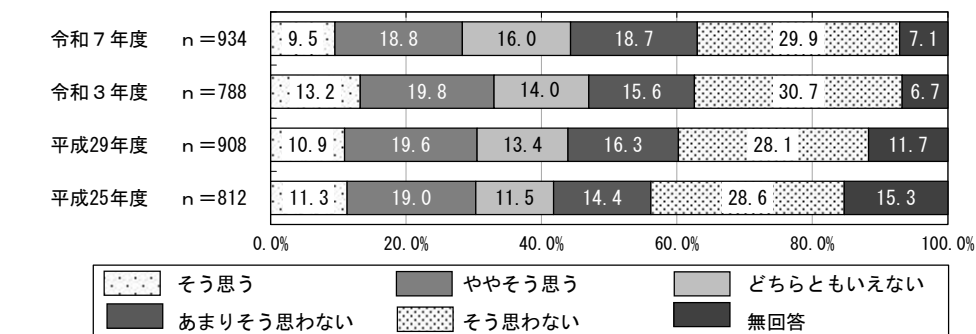


	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない	無回答
令和7年度	934	140	218	84	124	281	87
令和3年度	788	129	141	81	108	261	68
平成29年度	908	131	176	68	124	275	134
平成25年度	812	93	138	70	90	262	159

(C) 気持ちがつらい

年度間比較をすると、『令和3年度』では“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が33.0%、『令和7年度』が28.3%と4.7ポイント（28.3%－33.0%）下回っており、“思わない”（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）が2.3ポイント（48.6%－46.3%）上回っている。

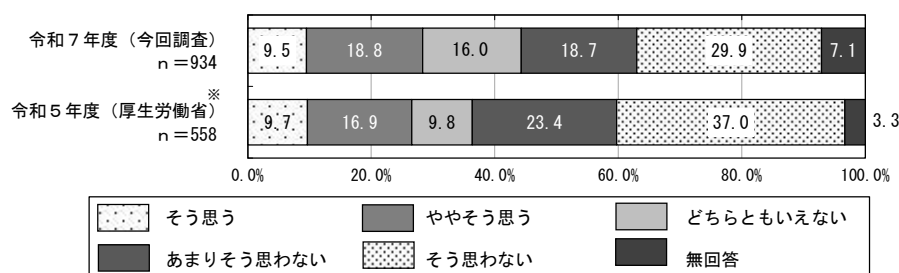
■気持ちがつらい（単数回答/年度間比較）



	n	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和7年度	934	89	176	149	175	279	66
令和3年度	788	104	156	110	123	242	53
平成29年度	908	99	178	122	148	255	106
平成25年度	812	92	154	93	117	232	124

国の調査（厚生労働省[※]）と比較すると、『令和7年度』が『令和5年度（厚生労働省）』より“思う”が1.7ポイント（28.3%－26.6%）上回り、一方“思わない”が11.8ポイント（48.6%－60.4%）下回っている。

■気持ちがつらい（単数回答/国の調査との比較）



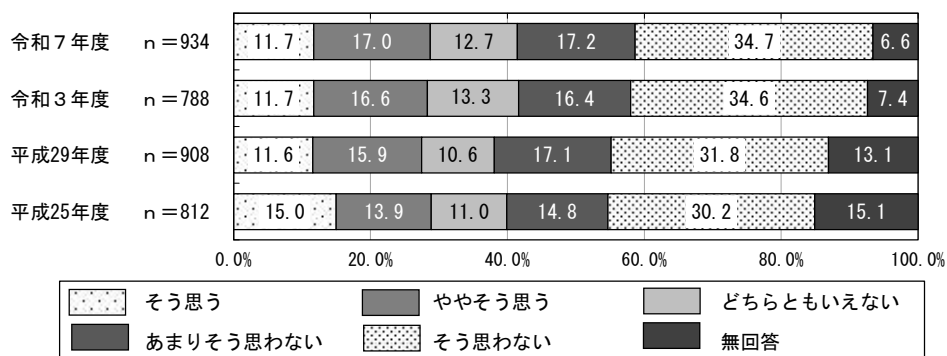
※ 患者体験調査（令和5年度）厚生労働省

	n	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和7年度（今回調査）	934	89	176	149	175	279	66
令和5年度 [※] （厚生労働省）	9,169	885	1,548	897	2,142	3,396	301

(D) 経済的なことや就労のことなど、生活上の心配がある

年度間比較をすると、『令和3年度』では“思う”（「思う」＋「やや思う」）が28.3%、『令和7年度』が28.7%と0.4ポイント（28.7%－28.3%）上回っており、“思わない”（「思わない」＋「あまり思わない」）が0.9ポイント（51.9%－51.0%）上回っている。

■経済的なことや就労のことなど、生活上の心配がある単数回答/年度間比較



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	思わない	無回答
令和7年度	934	109	159	119	161	324	62
令和3年度	788	92	131	105	129	273	58
平成29年度	908	105	144	96	155	289	119
平成25年度	812	122	113	89	120	245	123

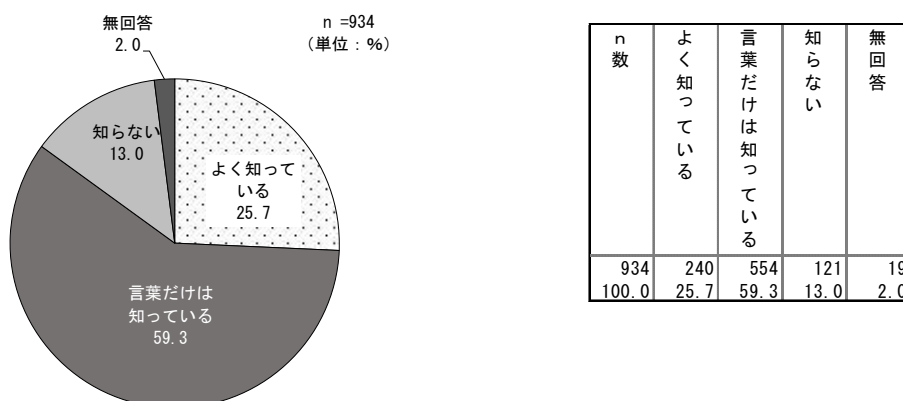
問 22 緩和ケアの認知度

問 22 「がん医療における緩和ケア（以下「緩和ケア」）」とは、がんに伴うからだの苦痛と気持ちのつらさを和らげるとともに、がんになったことによる様々な不安に対し、それを解消することですが、あなたは、がん医療における「緩和ケア」について知っていますか。
【〇はひとつだけ】

緩和ケアの認知度については、「言葉だけは知っている」が 59.3%と最も高く、次いで「よく知っている」が 25.7%、「知らない」が 13.0%の順となっている。

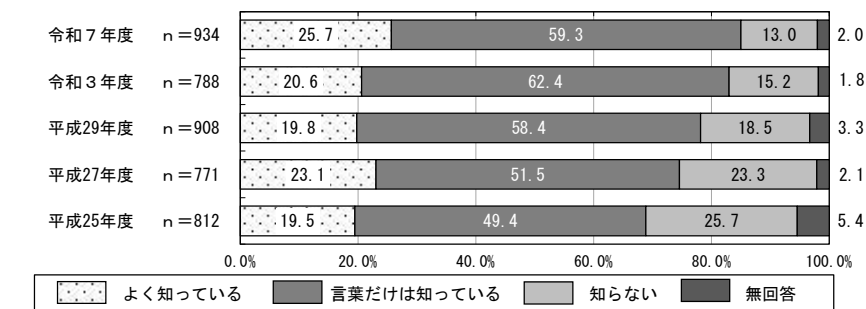
また“知っている”（「よく知っている」＋「言葉だけは知っている」）は 85.0%となっている。

■緩和ケアの認知度（単数回答/全体）



年度間比較をすると、『平成 25 年度』で“知っている”（「よく知っている」＋「言葉だけは知っている」）が 68.9%であったものが、調査年毎に増加し『令和 7 年度』では 85.0%となっており、16.1 ポイント（85.0%－68.9%）上回っている。

■緩和ケアの認知度（単数回答/年度間比較）



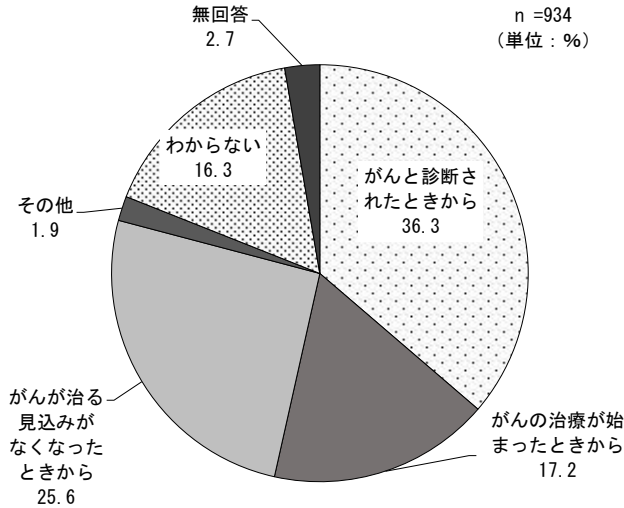
	n	よく知っている	言葉だけは知っている	知らない	無回答
令和 7 年度	934	240	554	121	19
令和 3 年度	788	162	492	120	14
平成 29 年度	908	180	530	168	30
平成 27 年度	771	178	397	180	16
平成 25 年度	812	158	401	209	44

問 23 緩和ケアを開始すべき時期の認識

問 23 「緩和ケア」はいつから実施されるべきものと思っていますか。【○はひとつだけ】

緩和ケアを開始すべき時期の認識については、「がんと診断されたときから」が36.3%と最も高く、次いで「がんが治る見込みがなくなったときから」が25.6%、「がんの治療が始まったときから」が17.2%の順となっている。

■緩和ケアを開始すべき時期の認識（単数回答/全体）



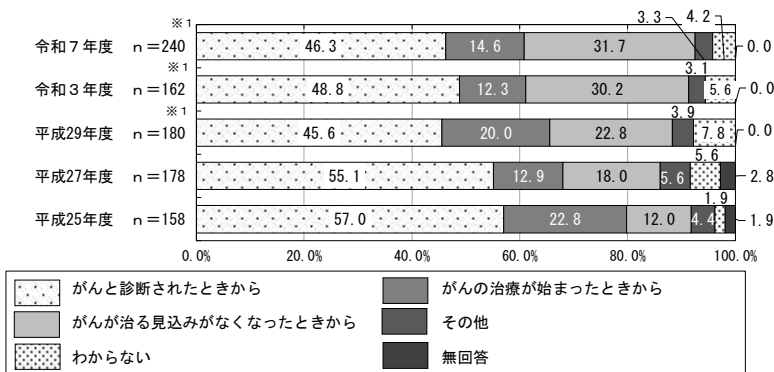
n 数	から がんと 診断さ れたと とき	が ん の 治 療 が 始 ま っ た	が ん が 治 る 見 込 み が な く な っ た	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
934	339	161	239	18	152	25
100.0	36.3	17.2	25.6	1.9	16.3	2.7

【その他】

- ・本人が必要とするときから（8件）
- ・身体的、精神的な苦痛に耐えられなくなった時（3件）
- ・人によって違う（2件）。
- ・苦しくなってからで良い（2件）
- ・本人の意志がうすらいだ時から。
- ・緩和ケアの窓口は病院内にあるがケアをどのような時期に行えば良いのかよくわからない。

年度間比較をすると、『令和3年度』で「がんと診断されたときから」が48.8%であったものが、『令和7年度』では46.3%となっており、2.5ポイント（46.3%－48.8%）下回っている。

■緩和ケアを開始すべき時期の認識（単数回答/年度間比較）

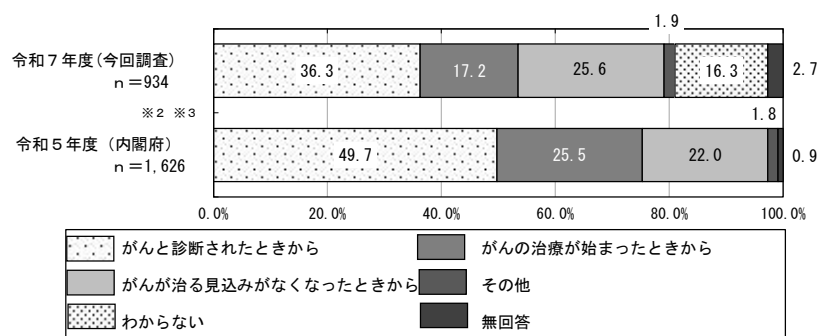


※1 『平成25年度』『平成27年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和7年度』の間22、『令和3年度』の間20、『平成29年度』の間21で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

	n 数	ら が ん と 診 断 さ れ た と き か	き が ん の 治 療 が 始 ま っ た と	な が ん が 治 る 見 込 み が な く な っ た と き か	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
令和7年度※1	240 100.0	111 46.3	35 14.6	76 31.7	8 3.3	10 4.2	0 0.0
令和3年度※1	162 100.0	79 48.8	20 12.3	49 30.2	5 3.1	9 5.6	0 0.0
平成29年度※1	180 100.0	82 45.6	36 20.0	41 22.8	7 3.9	14 7.8	0 0.0
平成27年度	178 100.0	98 55.1	23 12.9	32 18.0	10 5.6	10 5.6	5 2.8
平成25年度	158 100.0	90 57.0	36 22.8	19 12.0	7 4.4	3 1.9	3 1.9

国の調査（内閣府※2）と比較すると、『令和5年度（内閣府）』では「がんと診断されたときから」が49.7%であるのに対し、『令和7年度』では36.3%と13.4ポイント（36.3%－49.7%）下回っている。

■緩和ケアを開始すべき時期の認識（単数回答/国の調査との比較）



	n 数	ら が ん と 診 断 さ れ た と き か	き が ん の 治 療 が 始 ま っ た と	な が ん が 治 る 見 込 み が な く な っ た と き か	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
令和7年度	934 100.0	339 36.3	161 17.2	239 25.6	18 1.9	152 16.3	25 2.7
令和5年度※2 ※3 （内閣府）	1,626 100.0	- 49.7	- 25.5	- 22	- 1.8	- -	- 0.9

※2 がん対策に関する世論調査（令和5年10月）内閣府

※3 内閣府の調査データで選択肢「わからない」は、報告書では回答なし扱いとしている。

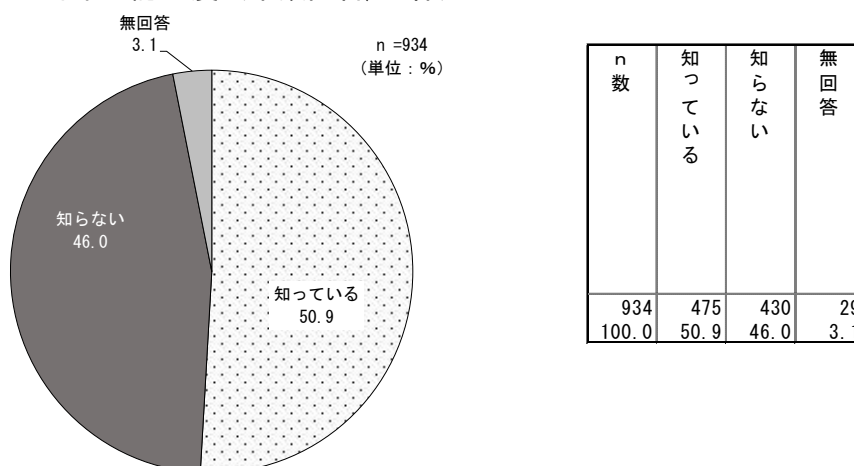
問 24 緩和ケア外来の認知度

問 24 がん診療連携拠点病院等内に設置されている「緩和ケア外来」（注参照）を知っていますか。
【〇はひとつだけ】

（注）緩和ケア外来：一定の要件を満たす医療機関として国や県が指定した「がん診療連携拠点病院」等には、通院中の患者さんが緩和ケアを受けられる「緩和ケア外来」が設置されている。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院、市立奈良病院、南奈良総合医療センター、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院、奈良県西和医療センターに設置。

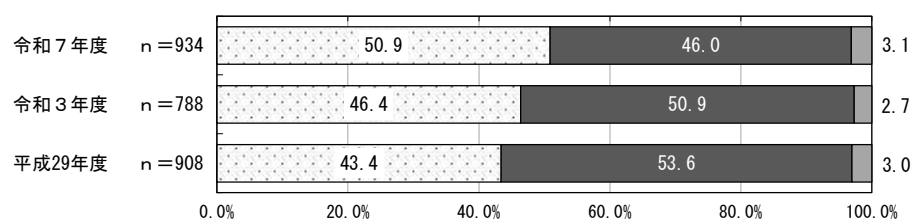
緩和ケア外来の認知度については、「知っている」が 50.9%、「知らない」が 46.0%となっている。

■緩和ケア外来の認知度（単数回答/全体）



年度間比較をすると、『令和 3 年度』で「知っている」が 46.4%、『令和 7 年度』では 50.9%となっており 4.5 ポイント（50.9%－46.4%）上回っている。

■緩和ケア外来の認知度（単数回答/年度間比較）



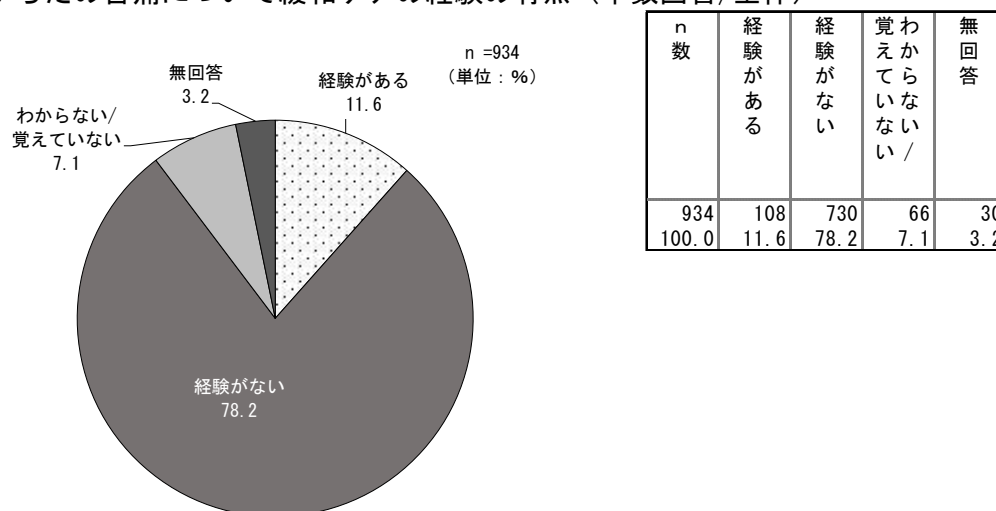
	n 数	知っている	知らない	無回答
令和 7 年度	934 100.0	475 50.9	430 46.0	29 3.1
令和 3 年度	788 100.0	366 46.4	401 50.9	21 2.7
平成 29 年度	908 100.0	394 43.4	487 53.6	27 3.0

問 25 からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無

問 25 「からだの苦痛」について、(主治医、緩和ケアチーム、緩和ケア外来などで) 緩和ケアを受けた経験はありますか。【〇はひとつだけ】

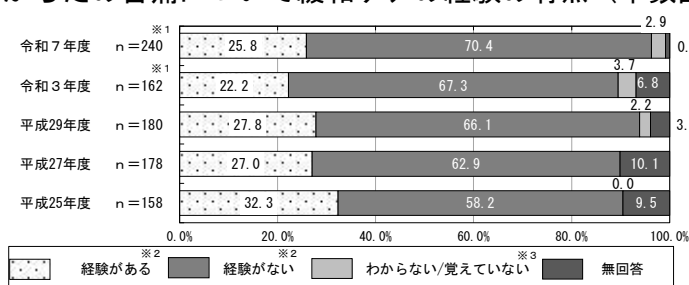
からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無については、「経験がない」が 78.2%と最も高く、次いで「経験がある」が 11.6%、「わからない/覚えていない」が 7.1%の順となっている。

■からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無 (単数回答/全体)



年度間比較をすると、『令和3年度※¹』で「経験がある」が 22.2%であったものが、『令和7年度※¹』では 25.8%となっており、3.6ポイント (25.8% - 22.2%) 上回っている。

■からだの苦痛について緩和ケアの経験の有無 (単数回答/年度間比較)



- ※¹ 『平成25年度』『平成27年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和7年度』の間22、『令和3年度』の間20、『平成29年度』の間21で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している
- ※² 選択肢「経験がある」「経験がない」は『平成25年度』『平成27年度』では、「ある」「ない」となっている
- ※³ 選択肢「わからない/覚えていない」は平成29年度より調査項目として追加している

	n 数	経験がある ※ ²	経験がない ※ ²	覚えていない / わからない ※ ³	無回答
令和7年度※ ¹	240	62	169	7	2
	100.0	25.8	70.4	2.9	0.8
令和3年度※ ¹	162	36	109	6	11
	100.0	22.2	67.3	3.7	6.8
平成29年度※ ¹	180	50	119	4	7
	100.0	27.8	66.1	2.2	3.9
平成27年度	178	48	112	-	18
	100.0	27.0	62.9	-	10.1
平成25年度	158	51	92	-	15
	100.0	32.3	58.2	-	9.5

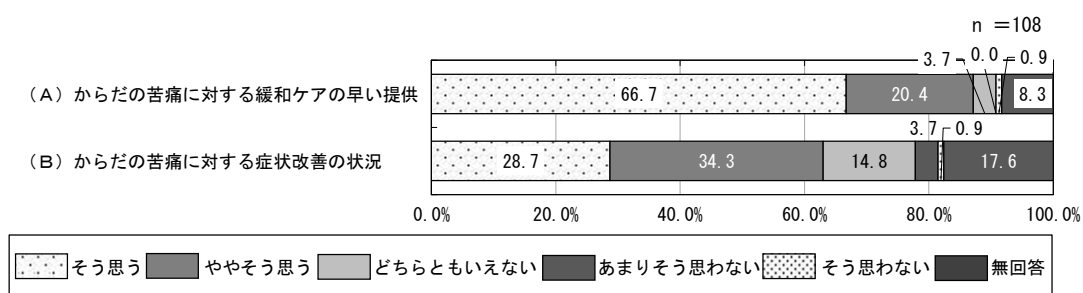
問 26 からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供・症状の改善

問 26 問 25で「からだの苦痛」について、緩和ケアを受けた経験のある方にお伺いします。
 「からだの苦痛」に対する緩和ケアは、希望に応じてすぐに提供されましたか。
 また、症状は改善しましたか。【それぞれ〇はひとつだけ】

(A) からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供については、「そう思う」が 66.7%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 20.4%、「どちらともいえない」が 3.7%の順となっている。「思う」（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 87.1%、一方「思わない」（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 0.9%となっている。

(B) からだの苦痛に対する症状改善の状況については、「ややそう思う」が 34.3%と最も高く、次いで「そう思う」が 28.7%、「どちらともいえない」が 14.8%の順となっている。「思う」が 63.0%、一方「思わない」が 4.6%となっている。

■からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供・症状の改善（単数回答/全体）

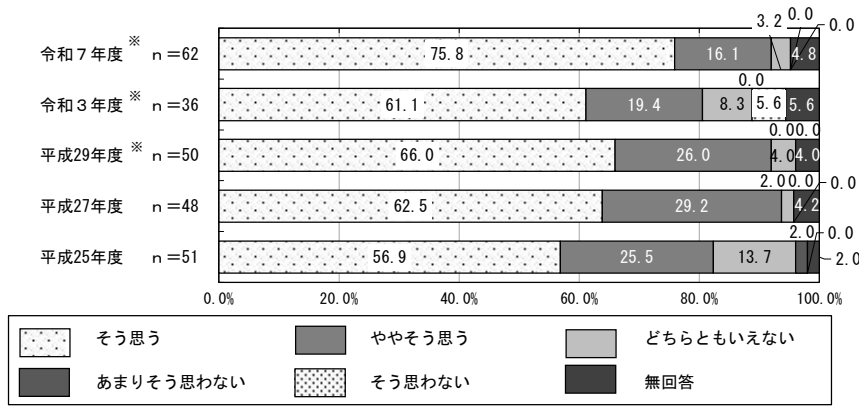


	n	そう 思 う	や や そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
(A) からだの苦痛に対する 緩和ケアの早い提供	108 100.0	72 66.7	22 20.4	4 3.7	0 0.0	1 0.9	9 8.3
(B) からだの苦痛に対する 症状改善の状況	108 100.0	31 28.7	37 34.3	16 14.8	4 3.7	1 0.9	19 17.6

(A) からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供

年度間比較をすると、『令和3年度※』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が80.5%であったものが『令和7年度※』では91.9%となっており、11.4ポイント（91.9%－80.5%）上回っている。

■からだの苦痛に対する緩和ケアの早い提供（単数回答/年度間比較）



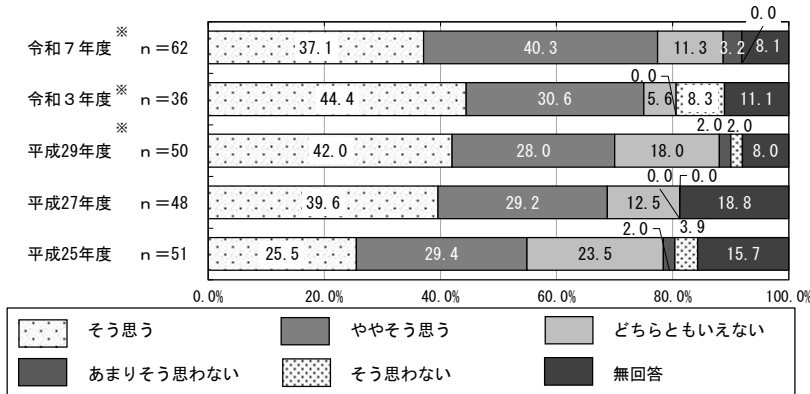
※ 『平成25年度』『平成27年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和7年度』の間22、『令和3年度』の間20、『平成29年度』の間21で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和7年度※	62	47	10	2	0	0	3
令和3年度※	36	22	7	3	0	2	2
平成29年度※	50	33	13	2	0	0	2
平成27年度	48	30	14	2	0	0	2
平成25年度	51	29	13	7	1	0	1

(B) からだの苦痛に対する症状改善の状況

年度間比較をすると、『令和3年度※』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が75.0%であったものが『令和7年度※』では77.4%となっており、2.4ポイント（77.4%－75.0%）上回っている。

■からだの苦痛に対する症状改善の状況（単数回答/年度間比較）



※ 『平成25年度』『平成27年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和7年度』の間22、『令和3年度』の間20、『平成29年度』の間21で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

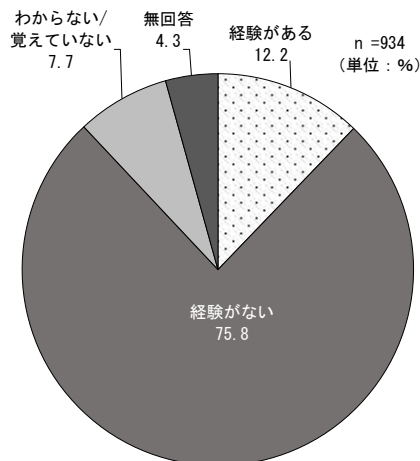
	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和7年度※	62	23	25	7	2	0	5
	100.0	37.1	40.3	11.3	3.2	0.0	8.1
令和3年度※	36	16	11	2	0	3	4
	100.0	44.4	30.6	5.6	0.0	8.3	11.1
平成29年度※	50	21	14	9	1	1	4
	100.0	42.0	28.0	18.0	2.0	2.0	8.0
平成27年度	48	19	14	6	0	0	9
	100.0	39.6	29.2	12.5	0.0	0.0	18.8
平成25年度	51	13	15	12	1	2	8
	100.0	25.5	29.4	23.5	2.0	3.9	15.7

問 27 気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無

問 27 「**気持ちのつらさ**」について、(主治医、緩和ケアチーム、緩和ケア外来などで) 緩和ケアを受けた経験はありますか。【〇はひとつだけ】

気持ちのつらさについては、「経験がない」が 75.8%と最も高く、次いで「経験がある」が 12.2%、「わからない/覚えていない」が 7.7%の順となっている。

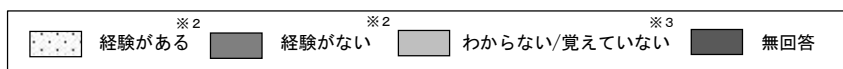
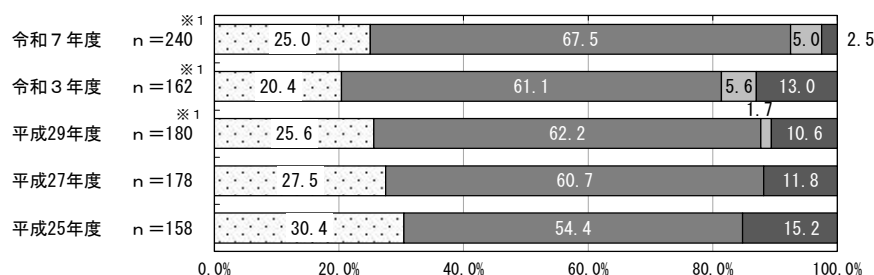
■気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無 (単数回答/全体)



n 数	経験がある	経験がない	覚えていない / わからない	無回答
934	114	708	72	40
100.0	12.2	75.8	7.7	4.3

年度間比較をすると、『令和3年度※¹』で「経験がない」が 61.1%であったものが、『令和7年度※¹』では 67.5%となっており、6.4ポイント (67.5% - 61.1%) 上回っている。

■気持ちのつらさについて緩和ケアの経験の有無 (単数回答/年度間比較)



	n	経験がある	経験がない	覚えていない / わからない	無回答
		※ ²	※ ²	※ ³	
令和7年度※ ¹	240	60	162	12	6
	100.0	25.0	67.5	5.0	2.5
令和3年度※ ¹	162	33	99	9	21
	100.0	20.4	61.1	5.6	13.0
平成29年度※ ¹	180	46	112	3	19
	100.0	25.6	62.2	1.7	10.6
平成27年度	178	49	108	-	21
	100.0	27.5	60.7	-	11.8
平成25年度	158	48	86	-	24
	100.0	30.4	54.4	-	15.2

※¹ 『平成25年度』『平成27年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和7年度』の間22、『令和3年度』の間20、『平成29年度』の間21で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

※² 選択肢「経験がある」「経験がない」は『平成25年度』『平成27年度』では、「ある」「ない」となっている

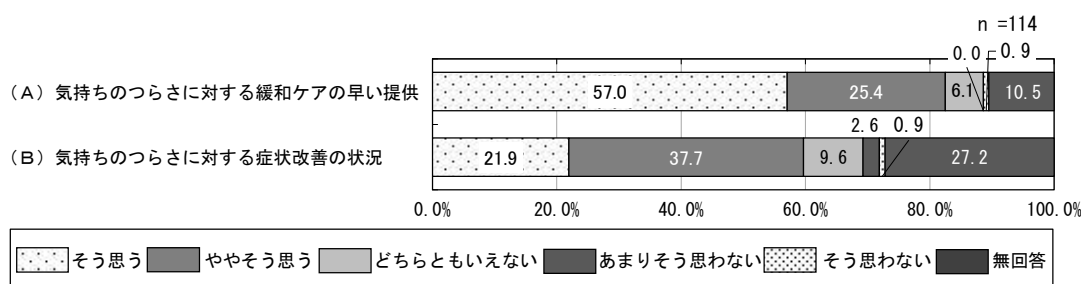
※³ 選択肢「わからない/覚えていない」は平成29年度より調査項目として追加している

問 28 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供・症状の改善

問 28 問 27 で「気持ちのつらさ」について、緩和ケアを受けた経験のある方にお伺いします。
 「気持ちのつらさ」に対する緩和ケアは、希望に応じてすぐに提供されましたか。
 また、症状は改善しましたか。【それぞれ〇はひとつだけ】

- (A) 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供については、「そう思う」が 57.0% と最も高く、次いで「ややそう思う」が 25.4%、「どちらともいえない」が 6.1% の順となっている。
 “思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 82.4%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 0.9% となっている。
- (B) 気持ちのつらさに対する症状改善の状況については、「ややそう思う」が 37.7% と最も高く、次いで「そう思う」が 21.9%、「どちらともいえない」が 9.6% の順となっている。
 “思う”が 59.6%、一方“思わない”が 3.5% となっている。

■気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供・症状の改善（単数回答/全体）

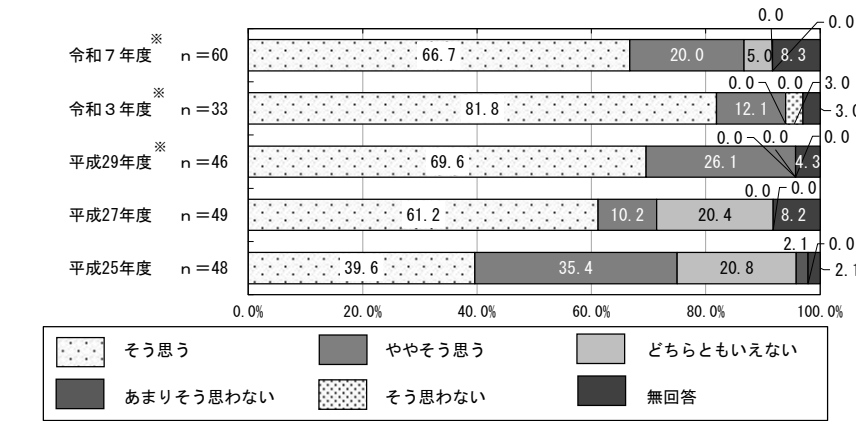


	n	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
(A) 気持ちのつらさに対する 緩和ケアの早い提供	114 100.0	65 57.0	29 25.4	7 6.1	0 0.0	1 0.9	12 10.5
(B) 気持ちのつらさに対する 症状改善の状況	114 100.0	25 21.9	43 37.7	11 9.6	3 2.6	1 0.9	31 27.2

(A) 気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供

年度間比較をすると、『令和3年度※』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が93.9%であったものが、『令和7年度※』では86.7%となっており、7.2ポイント（86.7%－93.9%）下回っている。

■気持ちのつらさに対する緩和ケアの早い提供（単数回答/年度間比較）



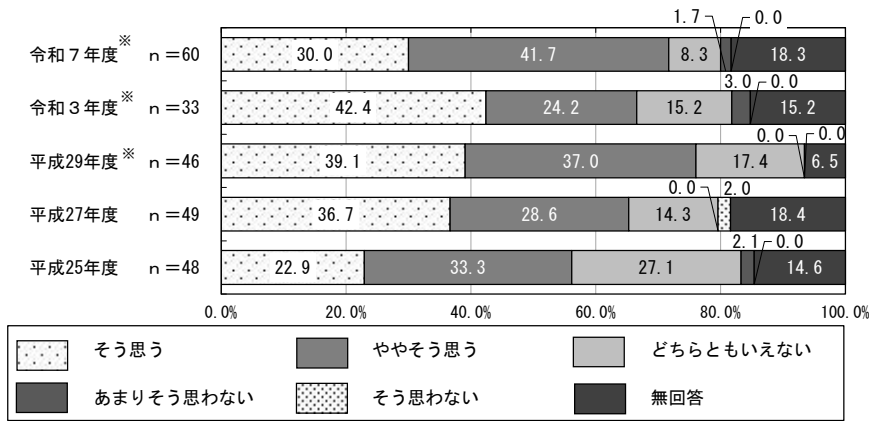
※ 『平成25年度』『平成27年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和7年度』の間22、『令和3年度』の間20、『平成29年度』の間21で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和7年度※	60	40	12	3	0	0	5
令和3年度※	33	27	4	0	0	1	1
平成29年度※	46	32	12	0	0	0	2
平成27年度	49	30	5	5	0	0	4
平成25年度	48	19	17	10	1	0	1

(B) 気持ちのつらさに対する症状改善の状況

年度間比較をすると、『令和3年度※』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が66.6%であったものが、『令和7年度※』では71.7%となっており、5.1ポイント（71.7%－66.6%）上回っている。

■気持ちのつらさに対する症状改善の状況（単数回答/年度間比較）



※ 『平成25年度』『平成27年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『令和7年度』の間22、『令和3年度』の間20、『平成29年度』の間21で「よく知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
令和7年度※	60	18	25	5	1	0	11
令和3年度※	33	14	8	5	1	0	5
平成29年度※	46	18	17	8	0	0	3
平成27年度	49	18	14	7	0	1	9
平成25年度	48	11	16	13	1	0	7

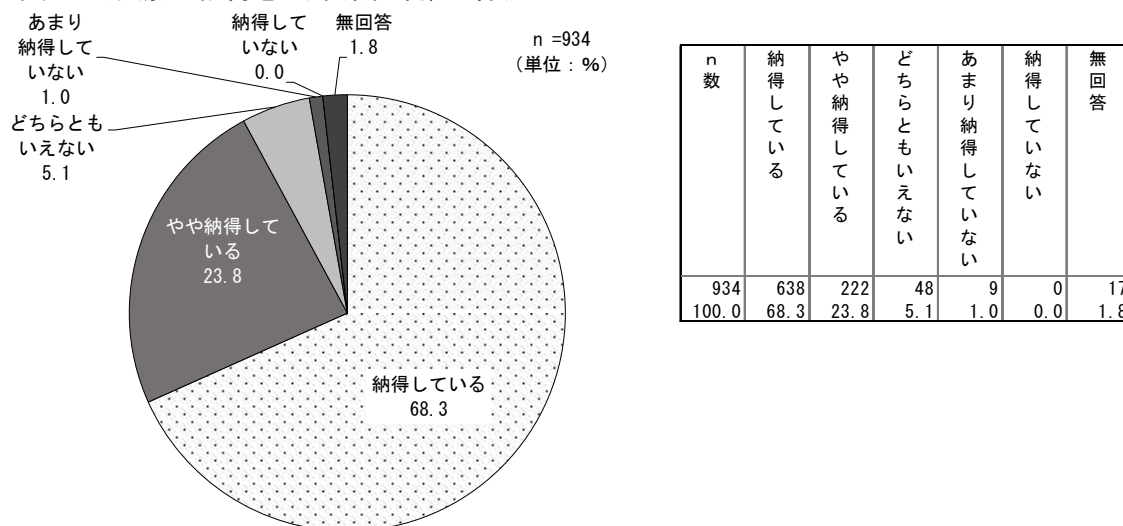
問 29 受けた治療の納得感

問 29 あなたはこれまで受けた治療に納得していますか。【○はひとつだけ】

受けた治療の納得感については、「納得している」が68.3%と最も高く、次いで「やや納得している」が23.8%、「どちらともいえない」が5.1%の順となっている。

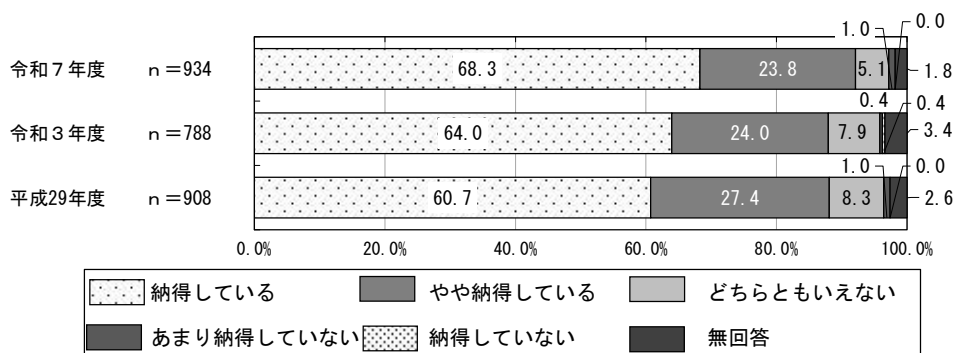
“納得している”（「納得している」＋「やや納得している」）が92.1%、一方“納得していない”（「あまり納得していない」＋「納得していない」）が1.0%となっている。

■受けた治療の納得感（単数回答/全体）



年度間比較をすると、『令和3年度』では“納得している”が88.0%であるのに対し、『令和7年度』では92.1%と4.1ポイント（92.1%－88.0%）上回っている。

■受けた治療の納得感（単数回答/年度間比較）



	n	納得している	やや納得している	どちらともいえない	あまり納得していない	納得していない	無回答
令和7年度	934	638	222	48	9	0	17
	100.0	68.3	23.8	5.1	1.0	0.0	1.8
令和3年度	788	504	189	62	3	3	27
	100.0	64.0	24.0	7.9	0.4	0.4	3.4
平成29年度	908	551	249	75	9	0	24
	100.0	60.7	27.4	8.3	1.0	0.0	2.6

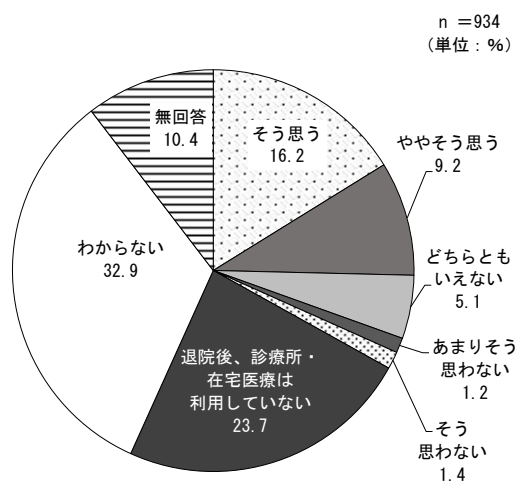
2-2. 地域連携について

問 30 在宅医療・移行時の情報伝達について

問 30 病院から診療所・在宅医療（看護も含む）へ移った際、病院での情報（診療方針）が診療所・訪問看護ステーションに円滑に伝わったと思いますか。【〇はひとつだけ】

在宅医療・移行時の情報伝達については、「わからない」が32.9%と最も高く、次いで「退院後、診療所・在宅医療は利用していない」が23.7%、「そう思う」が16.2%の順となっている。
 “思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が25.4%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が2.6%となっている。

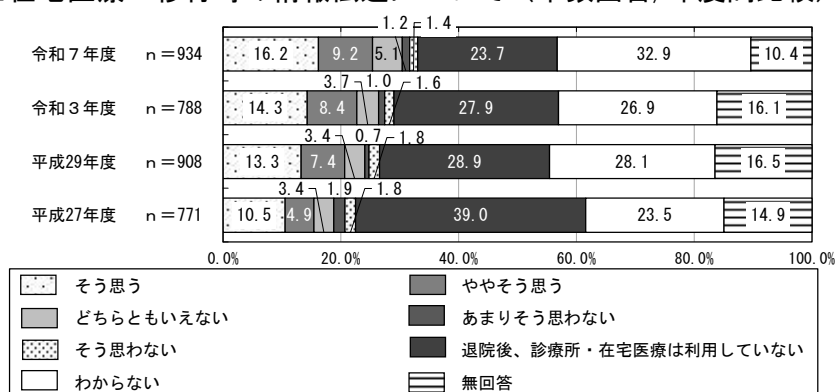
■在宅医療・移行時の情報伝達について（単数回答/全体）



n 数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	退院後、診療所・在宅医療は利用していない	わからない	無回答
934	151	86	48	11	13	221	307	97
100.0	16.2	9.2	5.1	1.2	1.4	23.7	32.9	10.4

年度間比較をすると、『令和3年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が22.7%であったものが、『令和7年度』では25.4%となっており、2.7ポイント（25.4%－22.7%）上回っている。

■在宅医療・移行時の情報伝達について（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	退院後、診療所・在宅医療は利用していない	わからない	無回答
令和7年度	934	151	86	48	11	13	221	307	97
令和3年度	788	113	66	29	8	13	220	212	127
平成29年度	908	121	67	31	6	16	262	255	150
平成27年度	771	81	38	26	15	14	301	181	115

2-3. 今後の療養について

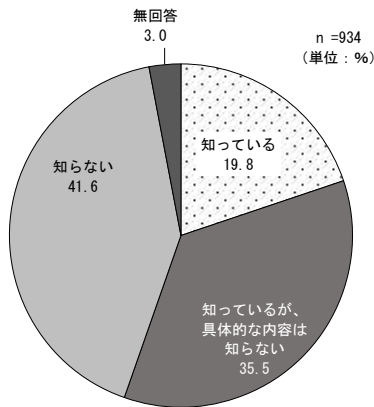
問 31 在宅緩和ケアの認知度

問 31 在宅で緩和ケアを受けられること（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

（注）在宅での緩和ケア：在宅医やかかりつけ医による訪問診療や往診により、在宅での緩和ケアを受けること。

在宅緩和ケアの認知度については、「知らない」が41.6%と最も高く、次いで「知っているが、具体的な内容は知らない」が35.5%、「知っている」が19.8%の順となっている。

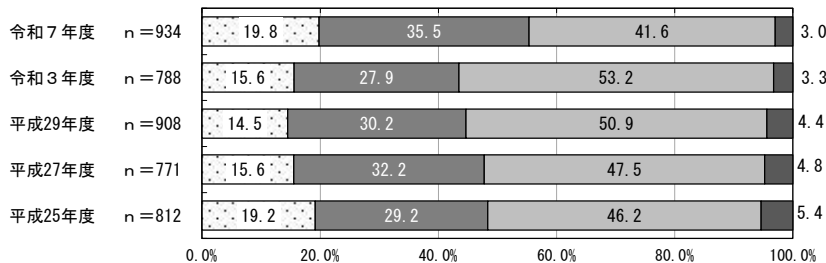
■在宅緩和ケアの認知度（単数回答/全体）



n 数	知っている	知っているが、具体的な内容は知らない	知らない	無回答
934	185	332	389	28
100.0	19.8	35.5	41.6	3.0

年度間比較をすると、『令和3年度』では「知らない」が53.2%であったものが、『令和7年度』では41.6%となっており、11.6ポイント（41.6%－53.2%）下回っている。

■在宅緩和ケアの認知度（単数回答/年度間比較）



知っている
 知っているが、具体的な内容は知らない
 知らない
 無回答

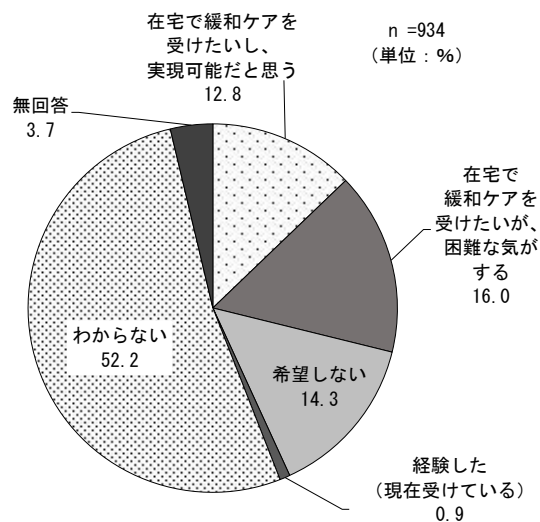
	n 数	知っている	知っているが、具体的な内容は知らない	知らない	無回答
令和7年度	934	185	332	389	28
令和3年度	788	123	220	419	26
平成29年度	908	132	274	462	40
平成27年度	771	120	248	366	37
平成25年度	812	156	237	375	44
	100.0	19.8	35.5	41.6	3.0

問 32 在宅緩和ケアへの考え

問 32 在宅での緩和ケアについて、どのようにお考えですか。【〇はひとつだけ】

在宅緩和ケアへの考えについては、「わからない」が52.2%と最も高く、次いで「在宅で緩和ケアを受けたいが、困難な気がする」が16.0%、「希望しない」が14.3%の順となっている。一方「経験した（現在受けている）」が0.9%となっている。

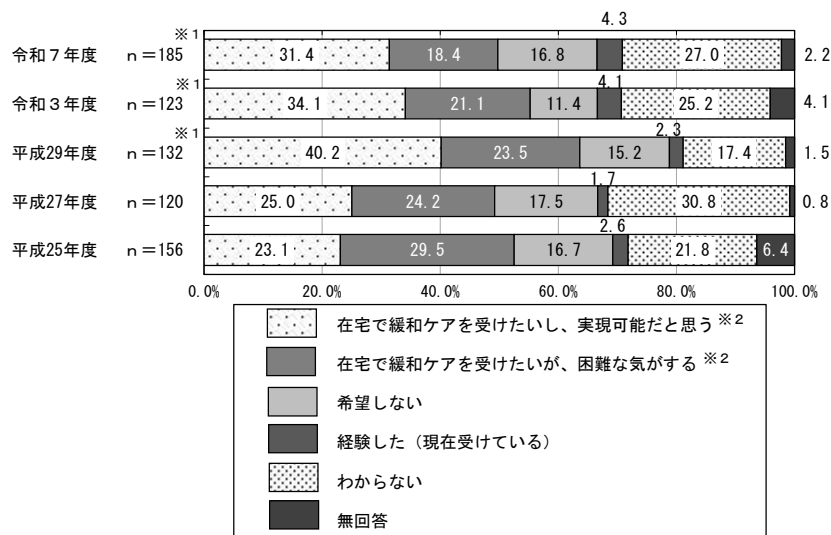
■在宅緩和ケアへの考え（単数回答/全体）



n 数	在宅で 緩和ケアを 受けたい が、実現 可能だ と思う	在宅で 緩和ケア を受け たいが、 困難な 気がする	希望 しない	経験 した (現在 受けて いる)	わか らな い	無 回 答
934	120	149	134	8	488	35
100.0	12.8	16.0	14.3	0.9	52.2	3.7

年度間比較をすると、『令和3年度』※1で「在宅で緩和ケアを受けたいし、実現可能だと思う」が34.1%であったものが、『令和7年度』※1では31.4%となっており、2.7ポイント(31.4%－34.1%)下回っている。

■在宅緩和ケアへの考え（単数回答/年度間比較）



※1 『平成25年度』『平成27年度』とデータ抽出条件を同じにするため、『平成29年度』の間28、『令和3年度』の間27、『令和7年度』の間31で「知っている」と回答した人のデータを抽出し再集計している

※2 選択肢「在宅で緩和ケアを受けたいし、実現可能だと思う」「在宅で緩和ケアを受けたいが、困難な気がする」は『平成25年度』『平成27年度』では「受けたいし、実現可能だと思う」「受けたいが、困難な気がする」となっている

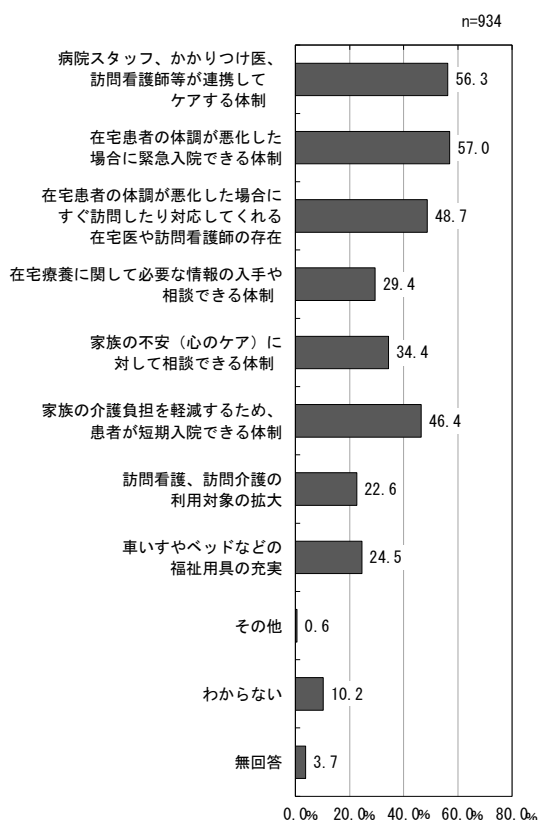
	n	し、在宅で緩和ケアを受けたい ※2	が、在宅で緩和ケアを受けたい ※2	希望しない	経験した（現在受けている）	わからない	無回答
令和7年度※1	185 100.0	58 31.4	34 18.4	31 16.8	8 4.3	50 27.0	4 2.2
令和3年度※1	123 100.0	42 34.1	26 21.1	14 11.4	5 4.1	31 25.2	5 4.1
平成29年度※1	132 100.0	53 40.2	31 23.5	20 15.2	3 2.3	23 17.4	2 1.5
平成27年度	120 100.0	30 25.0	29 24.2	21 17.5	2 1.7	37 30.8	1 0.8
平成25年度	156 100.0	36 23.1	46 29.5	26 16.7	4 2.6	34 21.8	10 6.4

問 33 自宅で療養するために必要なこと

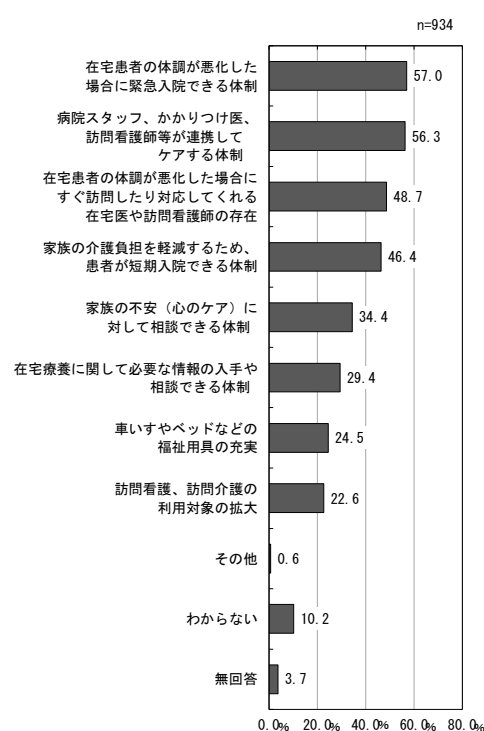
問 33 安心して自宅で療養するために必要なことは、何だと思えますか。【〇はいくつでも】

自宅で療養するために必要なことについては、「在宅患者の体調が悪化した場合に緊急入院できる体制」が57.0%と最も高く、次いで「病院スタッフ、かかりつけ医、訪問看護師等が連携してケアする体制」が56.3%、「在宅患者の体調が悪化した場合にすぐ訪問したり対応してくれる在宅医や訪問看護師の存在」が48.7%となっている。

■自宅で療養するために必要なこと（複数回答/全体）



—参考— 自宅で療養するために必要なことの割合の高いもの順グラフ



n	看 護 師 等 が 連 携 し て か か り つ け 医 、 訪 問 	急 在 宅 医 院 入 院 で き る 体 調 が 悪 化 し た 場 合 に 緊 急 入 院 で き る 体 制	在 宅 医 や 訪 問 看 護 師 の 存 在	在 宅 療 養 に 関 し て 必 要 な 情 報 の 入 手 可 能 な 体 制	在 宅 療 養 に 関 し て 必 要 な 情 報 の 入 手 可 能 な 体 制	家 族 の 不 安 （ 心 の ケ ア ） に 対 し て 相 談 で き る 体 制	家 族 の 介 護 負 担 を 軽 減 す る た め 、 患 者 が 短 期 入 院 で き る 体 制	大 訪 問 看 護 、 訪 問 介 護 の 利 用 対 象 の 拡 大	実 車 い す や ベ ッ ド な ど の 福 祉 用 具 の 充 実	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
934	526	532	455	275	321	433	211	229	6	95	35	
100.0	56.3	57.0	48.7	29.4	34.4	46.4	22.6	24.5	0.6	10.2	3.7	

【その他】

- ・在宅療養に必要な材料を配送してくれる調剤薬局
- ・利用できるものをすべて教えてくれるシステム
- ・家族の負担にならないこと

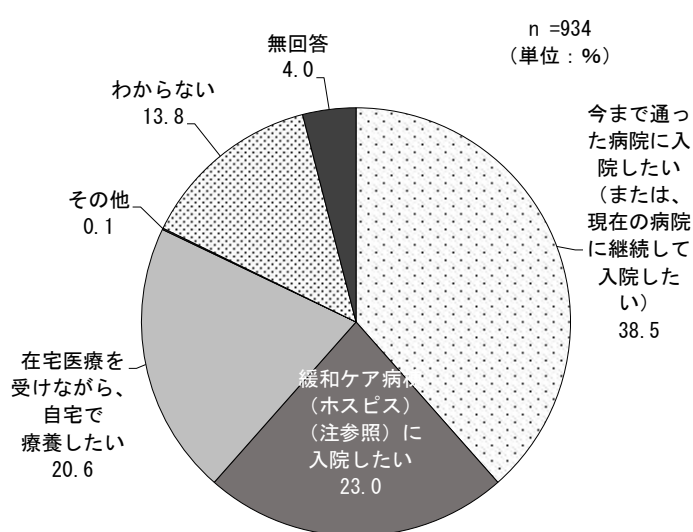
問 34 希望する療養場所

問 34 もし、がんが進行し、自宅や病院で療養中に、からだの苦痛や気持ちのつらさ等の症状の改善がみられない時、療養場所を選択することができるのであれば、どこで過ごしたいと思いますか。【〇はひとつだけ】

(注) 緩和ケア病棟：緩和ケアを専門に提供する病棟。「病気を治す」ことを目的とした治療はしないが、からだの苦痛や気持ちのつらさを和らげるための治療は積極的に行う。

希望する療養場所については、「今まで通った病院に入院したい（または、現在の病院に継続して入院したい）」が 38.5%と最も高く、次いで「緩和ケア病棟（ホスピス）（注参照）に入院したい」が 23.0%、「在宅医療を受けながら、自宅で療養したい」が 20.6%の順となっている。

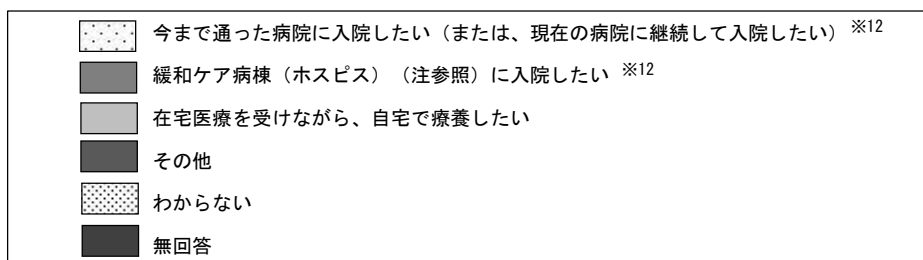
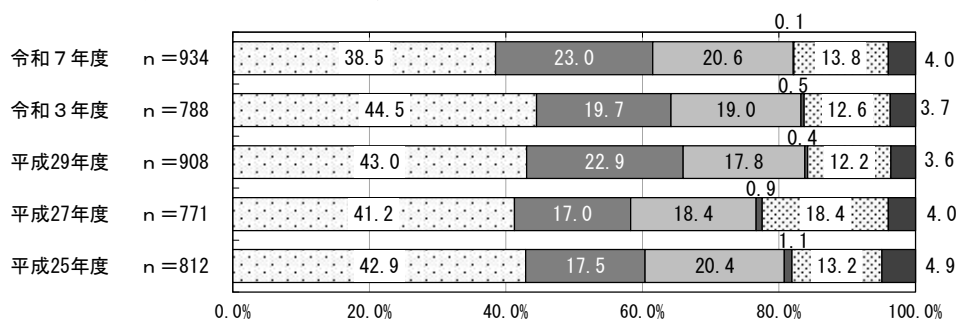
■希望する療養場所（単数回答/全体）



n 数	続いて（今まで通った病院に入院したい）	緩和ケア病棟（ホスピス）（注参照）に入院したい	在宅医療を受けながら、自宅で療養したい	その他	わからない	無回答
934	360	215	192	1	129	37
100.0	38.5	23.0	20.6	0.1	13.8	4.0

年度間比較をすると、『令和3年度』で「緩和ケア病棟（ホスピス）（注参照）に入院したい」が19.7%であったものが、『令和7年度』では23.0%となっており、3.3ポイント（23.0%－19.7%）上回っている。

■希望する療養場所（単数回答/年度間比較）



	n	い 病 院 に 入 院 し た い ※	今 ま で 通 っ た 病 院 に 入 院 し た い ※	ス ホ ピ ス に 入 院 し た い ※	自 宅 医 療 を 受 け な が ら 、 自 宅 で 療 養 し た い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
令和7年度	934 100.0	360 38.5	215 23.0	192 20.6	1 0.1	129 13.8	37 4.0	
令和3年度	788 100.0	351 44.5	155 19.7	150 19.0	4 0.5	99 12.6	29 3.7	
平成29年度	908 100.0	390 43.0	208 22.9	162 17.8	4 0.4	111 12.2	33 3.6	
平成27年度	771 100.0	318 41.2	131 17.0	142 18.4	7 0.9	142 18.4	31 4.0	
平成25年度	812 100.0	348 42.9	142 17.5	166 20.4	9 1.1	107 13.2	40 4.9	

※ 選択肢「今まで通った病院に入院したい (または、現在の病院に継続して入院したい)」「緩和ケア病棟 (ホスピス) (注参照) に入院したい」は『平成25年度』『平成27年度』では「なるべく早く今まで通った病院に入院したい (または、現在の病院に継続して入院したい)」「なるべく早く緩和ケア病棟 (ホスピス) (注参照) に入院したい」となっている

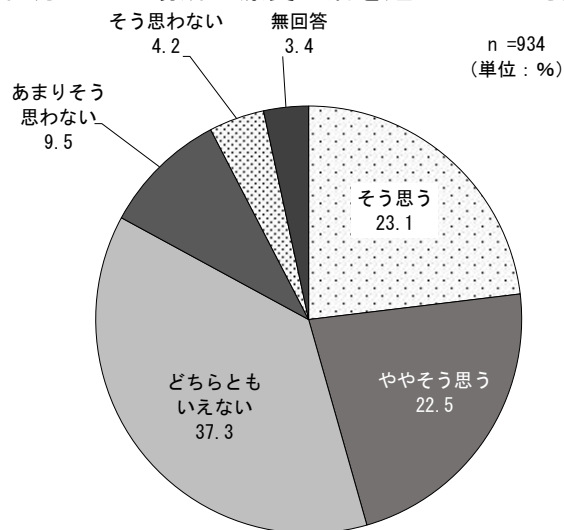
問 35 自分の望む場所での療養生活

問 35 あなたは自分の望む場所で療養生活を送ることが可能だと思いますか。
【〇はひとつだけ】

自分の望む場所で療養生活を送ることが可能であると思うがん患者の割合については、「どちらともいえない」が 37.3%と最も高く、次いで「そう思う」が 23.1%、「ややそう思う」が 22.5%の順となっている。

“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 45.6%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 13.7%となっている。

■自分の望む場所で療養生活を送ることが可能であると思う患者の割合



n 数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
934	216	210	348	89	39	32
100.0	23.1	22.5	37.3	9.5	4.2	3.4

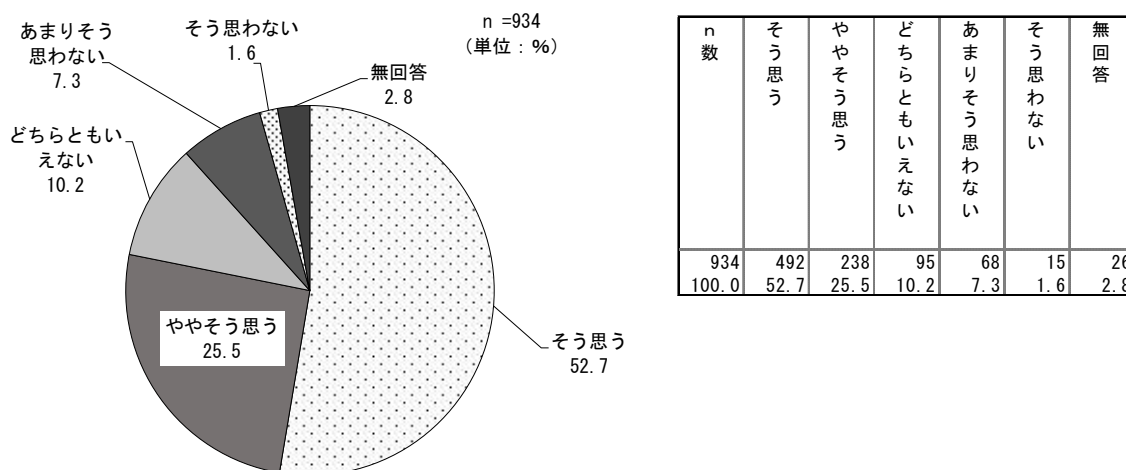
問 36 自分らしい日常生活の有無

問 36 現在、自分らしい日常生活を送れていると思いますか。【○はひとつだけ】

現在自分らしい日常生活を送れていると感じる患者の割合については、「そう思う」が52.7%と最も高く、次いで「ややそう思う」が25.5%、「どちらともいえない」が10.2%の順となっている。

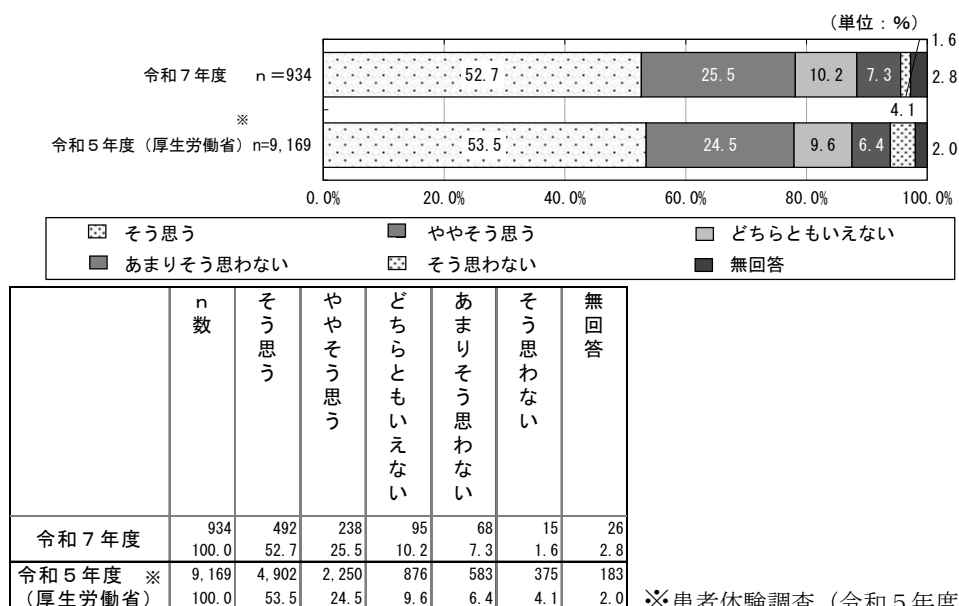
“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が78.2%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が8.9%となっている。

■現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合（単数回答/全体）



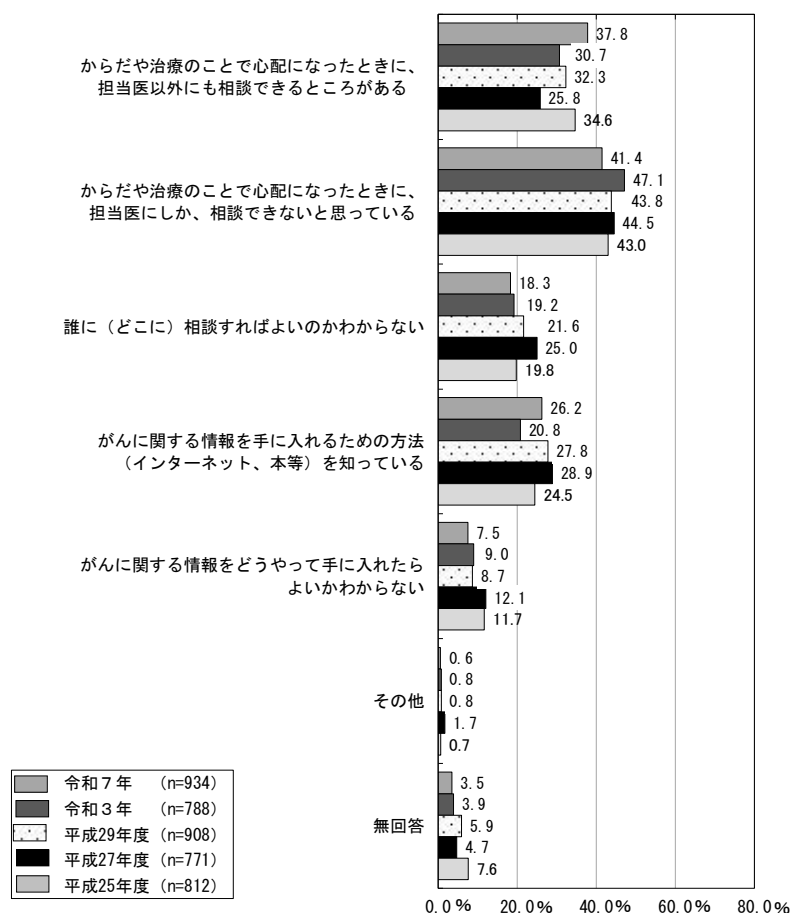
国の調査（厚生労働省※）と比較すると、『令和5年度（厚生労働省）』では“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が78.0%であるのに対し、『令和7年度』では78.2%と0.2ポイント（78.2%－78.0%）上回っている。

■現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合（単数回答/国調査との比較）



年度間比較をすると、『平成25年度』『平成29年度』『令和3年度』『令和7年度』で「からだや治療のことで心配になったときに、担当医以外にも相談できるところがある」が2番目に高くなっており、『平成27年度』では25.8%と3番目に高くなっている。

■がん医療に関する相談支援及び情報提供（複数回答/年度間比較）



	n	こ ろ が 外 な だ あ に も た 相 談 き の で に こ と と 当 心	医 配 か ら だ や 治 療 の こ と に 心 配 な っ た と き に 、 担 当 医 に し か 、 相 談 で き な い と 思 っ て い る	か ら だ や 治 療 の こ と に 心 配 な っ た と き に 、 誰 に （ ど こ に ） 相 談 す れ ば よ い の か わ ら な い	知 っ て い る 方 法 （ イ ン タ ー ネ ッ ト 、 本 等 ） を し ら べ て い る	か ら だ や 治 療 の こ と に 心 配 な っ た と き に 、 誰 に （ ど こ に ） 相 談 す れ ば よ い の か わ ら な い	そ の 他	無 回 答
令和7年度	934	353 37.8	387 41.4	171 18.3	245 26.2	70 7.5	6 0.6	33 3.5
令和3年度	788	242 30.7	371 47.1	151 19.2	164 20.8	71 9.0	6 0.8	31 3.9
平成29年度	908	293 32.3	398 43.8	196 21.6	252 27.8	79 8.7	7 0.8	54 5.9
平成27年度	771	199 25.8	343 44.5	193 25.0	223 28.9	93 12.1	13 1.7	36 4.7
平成25年度	812	281 34.6	349 43.0	161 19.8	199 24.5	95 11.7	6 0.7	62 7.6

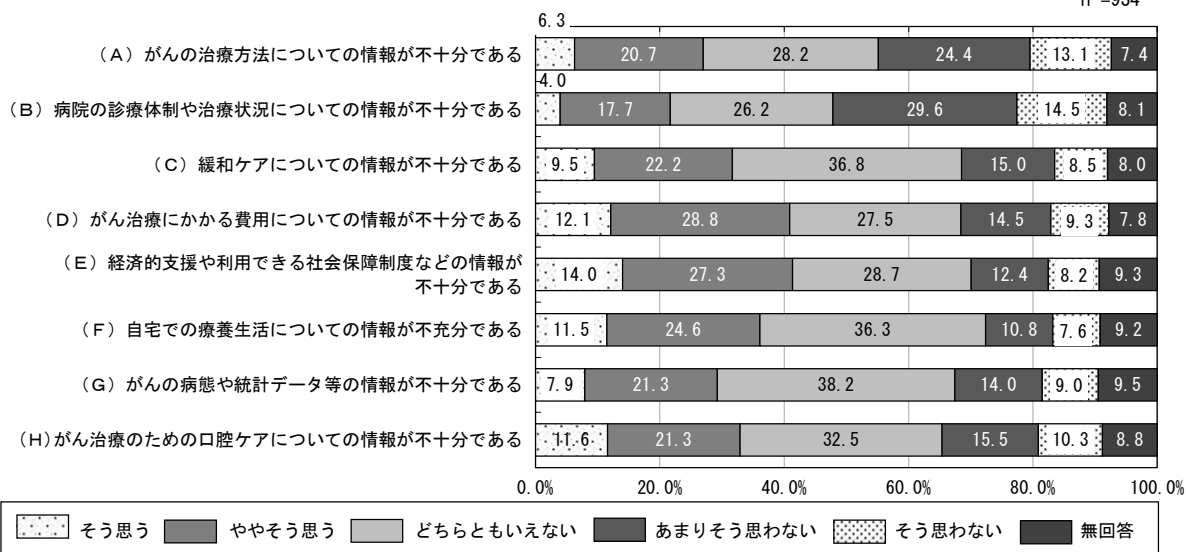
問 38 がんに関する情報の充実度

問 38 あなたが知りたいがんに関する情報についてあてはまるものをお答えください。
【それぞれ○はひとつだけ】

- (A) がんの治療方法についての情報不足については、「どちらともいえない」が 28.2%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が 24.4%、「ややそう思う」が 20.7%の順となっている。“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 27.0%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 37.5%となっており、“思わない”が 10.5 ポイント（37.5%－27.0%）上回っている。
- (B) 病院の診療体制や治療状況についての情報不足については、「あまりそう思わない」が 29.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が 26.2%、「ややそう思う」が 17.7%の順となっている。“思う”が 21.7%、一方“思わない”が 44.1%となっており、“思わない”が 22.4 ポイント（44.1%－21.7%）上回っている。
- (C) 緩和ケアについての情報不足については、「どちらともいえない」が 36.8%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 22.2%、「あまりそう思わない」が 15.0%の順となっている。“思う”が 31.7%、一方“思わない”が 23.5%となっており、“思わない”が 8.2 ポイント（23.5%－31.7%）下回っている。
- (D) がん治療にかかる費用についての情報不足については、「ややそう思う」が 28.8%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が 27.5%、「あまりそう思わない」が 14.5%の順となっている。“思う”が 40.9%、一方“思わない”が 23.8%となっており、“思わない”が 17.1 ポイント（23.8%－40.9%）下回っている。
- (E) 経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足については、「どちらともいえない」が 28.7%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 27.3%、「そう思う」が 14.0%の順となっている。“思う”が 41.3%、一方“思わない”が 20.6%となっており、“思わない”が 20.7 ポイント（20.6%－41.3%）下回っている。
- (F) 自宅での療養生活についての情報不足については、「どちらともいえない」が 36.3%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 24.6%、「そう思う」が 11.5%の順となっている。“思う”が 36.1%、一方“思わない”が 18.4%となっており、“思わない”が 17.7 ポイント（18.4%－36.1%）下回っている。
- (G) がんの病態や統計データ等の情報不足については、「どちらともいえない」が 38.2%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 21.3%、「あまりそう思わない」が 14.0%の順となっている。“思う”が 29.2%、一方“思わない”が 23.0%となっており、“思わない”が 6.2 ポイント（23.0%－29.2%）下回っている。
- (H) がん治療のための口腔ケアについての情報不足は、「どちらともいえない」が 32.5%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 21.3%、「あまりそう思わない」が 15.5%の順となっている。“思う”が 32.9%、一方“思わない”が 25.8%となっており、“思わない”が 7.1 ポイント（25.8%－32.9%）下回っている。

■がんに関する情報の充実度（単数回答/全体）

n =934



	n	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
(A) がんの治療方法についての情報が不十分である	934 100.0	59 6.3	193 20.7	263 28.2	228 24.4	122 13.1	69 7.4
(B) 病院の診療体制や治療状況についての情報が不十分である	934 100.0	37 4.0	165 17.7	245 26.2	276 29.6	135 14.5	76 8.1
(C) 緩和ケアについての情報が不十分である	934 100.0	89 9.5	207 22.2	344 36.8	140 15.0	79 8.5	75 8.0
(D) がん治療にかかる費用についての情報が不十分である	934 100.0	113 12.1	269 28.8	257 27.5	135 14.5	87 9.3	73 7.8
(E) 経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報が不十分である	934 100.0	131 14.0	255 27.3	268 28.7	116 12.4	77 8.2	87 9.3
(F) 自宅での療養生活についての情報が不十分である	934 100.0	107 11.5	230 24.6	339 36.3	101 10.8	71 7.6	86 9.2
(G) がんの病態や統計データ等の情報が不十分である	934 100.0	74 7.9	199 21.3	357 38.2	131 14.0	84 9.0	89 9.5
(H) がん治療のための口腔ケアについての情報が不十分である	934 100.0	108 11.6	199 21.3	304 32.5	145 15.5	96 10.3	82 8.8

情報不足について尋ねた8つの項目についてみると、『(E) 経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足』が3.3となっており、「そう思う」程度が最も高くなっている。

一方、『(B) 病院の診療体制や治療状況についての情報不足』が2.6となっており、「そう思う」程度が最も低くなっている。

『令和7年度』を『令和3年度』『平成29年度』『平成27年度』『平成25年度』と比較すると、徐々に「そう思う」程度が低くなってきているが、令和3年度より高くなっている項目もある。

■がんに関する情報の充実度比較（項目別）

	(A) がんの 治療 方法に ついて の情報 不足	(B) 病院の 診療体 制や治 療状況 の情報 不足	(C) 緩和ケ アにつ いての 情報不 足	(D) がん治 療にか かる費 用につ いての 情報不 足	(E) 経済的 支援や 利用で きる社 会保障 制度な どの情 報不足	(F) 自宅の 療養生 活につ いての 情報不 足	(G) がんの 病態や 統計デ ータ等 の情報 不足	(H) がん治 療のた めの口 腔ケア につ いての 情報不 足
令和7年度	2.8	2.6	3.1	3.2	3.3	3.2	3.1	3.1
令和3年度	2.8	2.6	3.1	3.2	3.2	3.2	3.1	3.2
平成29年度	2.9	2.7	3.2	3.3	3.4	3.3	3.1	-
平成27年度	3.0	2.8	3.3	3.5	3.5	3.5	3.2	-
平成25年度	3.1	2.8	3.4	3.6	3.7	3.6	3.4	-

点数配点表

5：そう思う	4：ややそう思う	3：どちらともいえない
2：あまりそう思わない	1：そう思わない	

$$\text{がんに関する情報の必要度} = \frac{\sum \text{各回答} \times \text{点数}}{\text{無回答} \cdot \text{「特に知りたくない」を除いた有効回答数}}$$

(注1) 令和3年度からは、「(H) がん治療のための口腔ケアについての情報が不十分である」の設問が追加された。

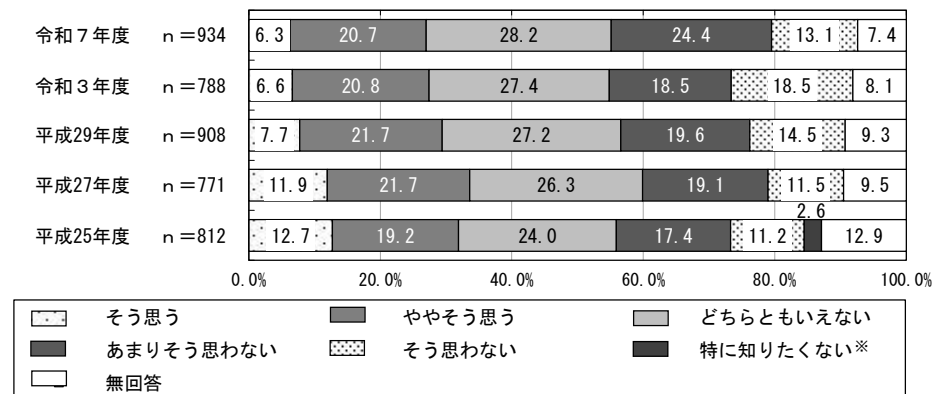
(注2) 「特に知りたくない」は『平成25年度』の選択肢となっている。

(A) がんの治療方法についての情報不足

年度間比較をすると、『平成 25 年度』から『平成 27 年度』にかけて“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）の割合は増加しているが、『平成 27 年度』から『令和 7 年度』にかけては減少している。

『令和 7 年度』では『令和 3 年度』と比べ“思う”が 0.4 ポイント（27.0－27.4%）下回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 0.5 ポイント（37.5－37.0%）上回っている。

■がんの治療方法についての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない※	無回答
令和7年度	934	59	193	263	228	122	-	69
令和3年度	788	52	164	216	146	146	-	64
平成29年度	908	70	197	247	178	132	-	84
平成27年度	771	92	167	203	147	89	-	73
平成25年度	812	103	156	195	141	91	21	105

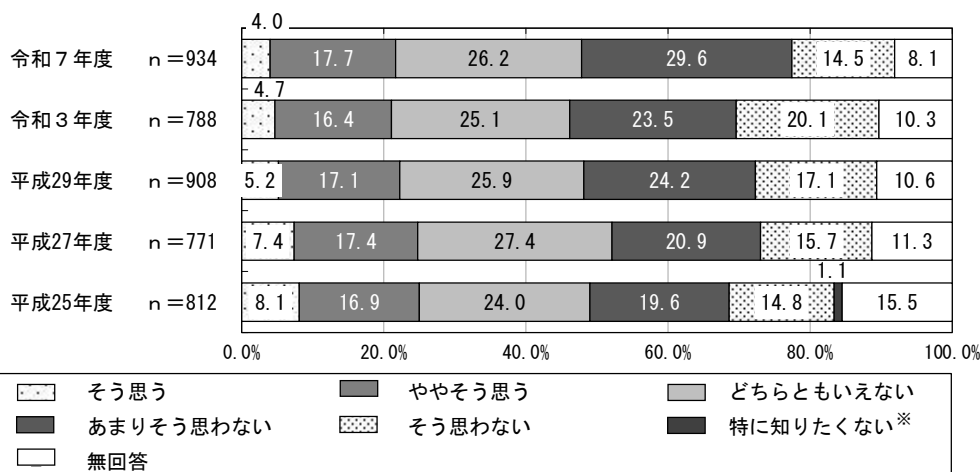
※ 選択肢「特に知りたくない」は平成 25 年度のみ調査

(B) 病院の診療体制や治療状況についての情報不足

年度間比較をすると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が 25.0%であったが、『令和 7 年度』では 21.7%と減少している。

『令和 7 年度』では『令和 3 年度』と比べ“思う”が 0.6 ポイント（21.7－21.1%）上回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 0.5 ポイント（44.1－43.6%）上回っている。

■病院の診療体制や治療状況についての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない*	無回答
令和 7 年度	934	37	165	245	276	135	-	76
令和 3 年度	788	37	129	198	185	158	-	81
平成 29 年度	908	47	155	235	220	155	-	96
平成 27 年度	771	57	134	211	161	121	-	87
平成 25 年度	812	66	137	195	159	120	9	126

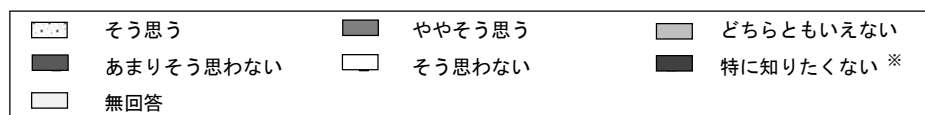
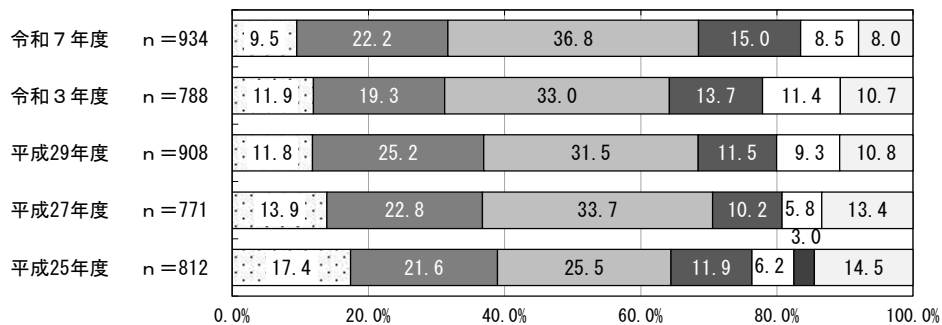
※ 選択肢「特に知りたくない」は平成 25 年度のみ調査

(C) 緩和ケアについての情報不足

年度間比較をすると、『平成 25 年度』で“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 39.0%であったものが、『令和 7 年度』では 31.7%と減少している。

『令和 7 年度』では『令和 3 年度』と比べ“思う”が 0.5 ポイント（31.7－31.2%）上回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 1.6 ポイント（23.5－25.1%）下回っている。

■緩和ケアについての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	そう 思う	やや そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	特 に 知 り た く な い ※	無 回 答
令和 7 年度	934	89	207	344	140	79	-	75
令和 3 年度	788	94	152	260	108	90	-	84
平成 29 年度	908	107	229	286	104	84	-	98
平成 27 年度	771	107	176	260	79	45	-	103
平成 25 年度	812	141	175	207	97	50	24	118

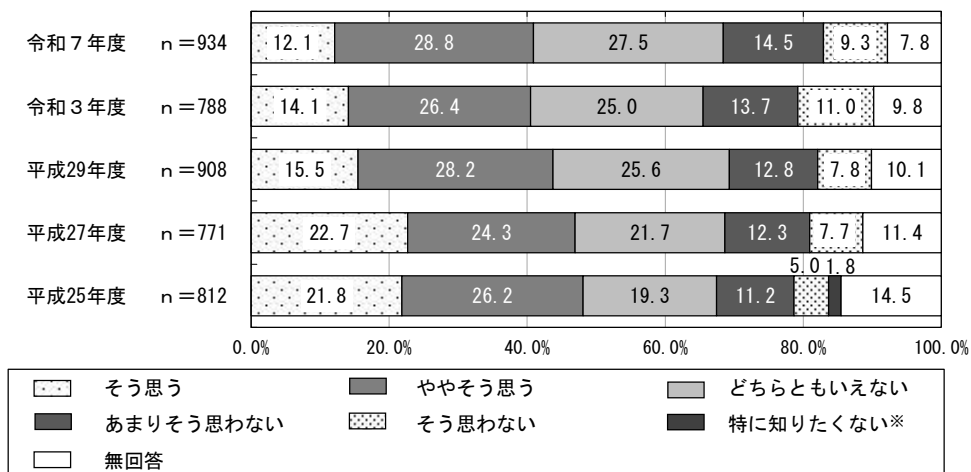
※ 選択肢「特に知りたくない」は平成 25 年度のみ調査

(D) がん治療にかかる費用についての情報不足

年度間比較をすると、『平成25年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が48.0%であったものが、『令和7年度』では40.9%と減少している。

『令和7年度』では『令和3年度』と比べ“思う”が0.4ポイント（40.9%－40.5%）上回り、一方“思わない”（「あまり思わない」＋「そう思わない」）が0.9ポイント（23.8%－24.7%）下回っている。

■がん治療にかかる費用についての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	そう思わない	特に知りたくない*	無回答
令和7年度	934	113	269	257	135	87	-	73
令和3年度	788	111	208	197	108	87	-	77
平成29年度	908	141	256	232	116	71	-	92
平成27年度	771	175	187	167	95	59	-	88
平成25年度	812	177	213	157	91	41	15	118

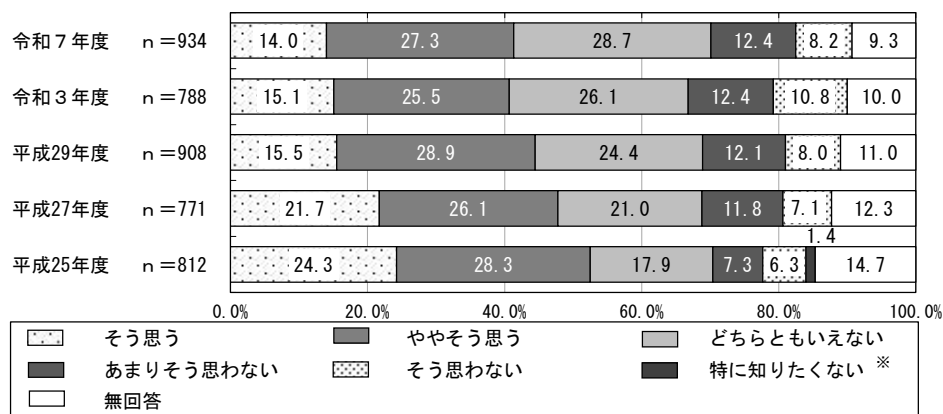
※ 選択肢「特に知りたくない」は平成25年度のみ調査

(E) 経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足

年度間比較をすると、『平成25年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が52.6%であったものが、『令和7年度』では41.3%と減少している。

『令和7年度』では『令和3年度』と比べ“思う”が0.7ポイント（41.3%－40.6%）上回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が2.6ポイント（20.6%－23.2%）下回っている。

■経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない*	無回答
令和7年度	934	131	255	268	116	77	-	87
令和3年度	788	119	201	206	98	85	-	79
平成29年度	908	141	262	222	110	73	-	100
平成27年度	771	167	201	162	91	55	-	95
平成25年度	812	197	230	145	59	51	11	119

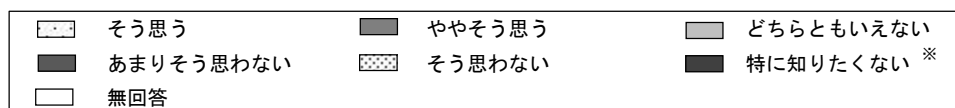
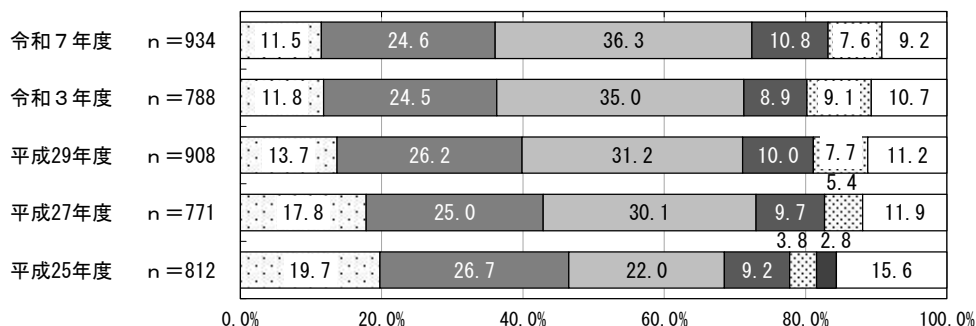
※ 選択肢「特に知りたくない」は平成25年度のみ調査

(F) 自宅での療養生活についての情報不足

年度間比較をすると、『平成 25 年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が 46.4%であったものが、『令和 7 年度』では 36.1%と減少している。

『令和 7 年度』では『令和 3 年度』と比べ“思う”が 0.2 ポイント（36.1%－36.3%）下回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 0.4 ポイント（18.4%－18.0%）上回っている。

■ 自宅での療養生活についての情報不足（単数回答/年度間比較）



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない ※	無回答
令和 7 年度	934	107	230	339	101	71	-	86
令和 3 年度	788	93	193	276	70	72	-	84
平成 29 年度	908	124	238	283	91	70	-	102
平成 27 年度	771	137	193	232	75	42	-	92
平成 25 年度	812	160	217	179	75	31	23	127
	100.0	11.5	24.6	36.3	10.8	7.6	-	9.2
	100.0	11.8	24.5	35.0	8.9	9.1	-	10.7
	100.0	13.7	26.2	31.2	10.0	7.7	-	11.2
	100.0	17.8	25.0	30.1	9.7	5.4	-	11.9
	100.0	19.7	26.7	22.0	9.2	3.8 2.8	-	15.6

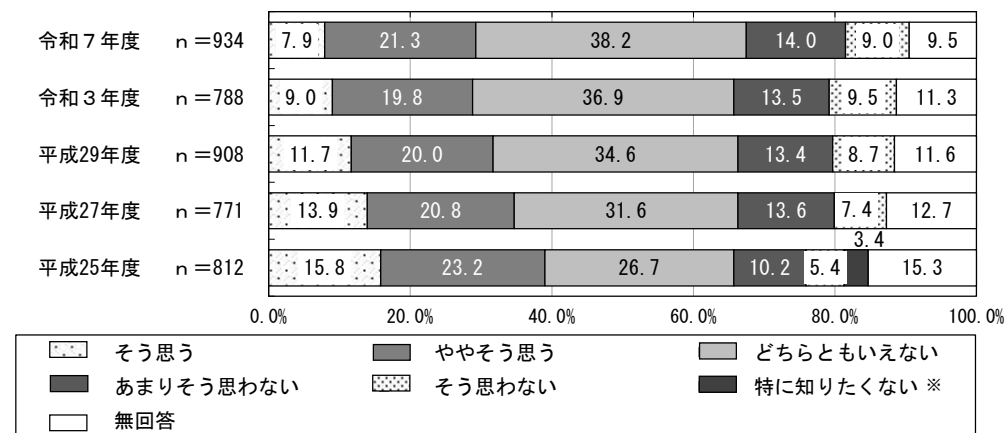
※ 選択肢「特に知りたくない」は平成 25 年度のみ調査

(G) がんの病態や統計データ等の情報不足

年度間比較をすると、『平成25年度』で“思う”(「思う」+「やや思う」)が39.0%であったものが、『令和7年度』では29.2%となっている。

『令和7年度』では『令和3年度』と比べ“思う”が0.4ポイント(29.2%–28.8%)上回り、一方“思わない”(「あまりそう思わない」+「そう思わない」)が同率ポイント(23.0%–23.0%)となっている。

■がんの病態や統計データ等の情報不足(単数回答/年度間比較)



	n	思う	やや思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	特に知りたくない	無回答
令和7年度	934	74	199	357	131	84	-	89
令和3年度	788	71	156	291	106	75	-	89
平成29年度	908	106	182	314	122	79	-	105
平成27年度	771	107	160	244	105	57	-	98
平成25年度	812	128	188	217	83	44	28	124

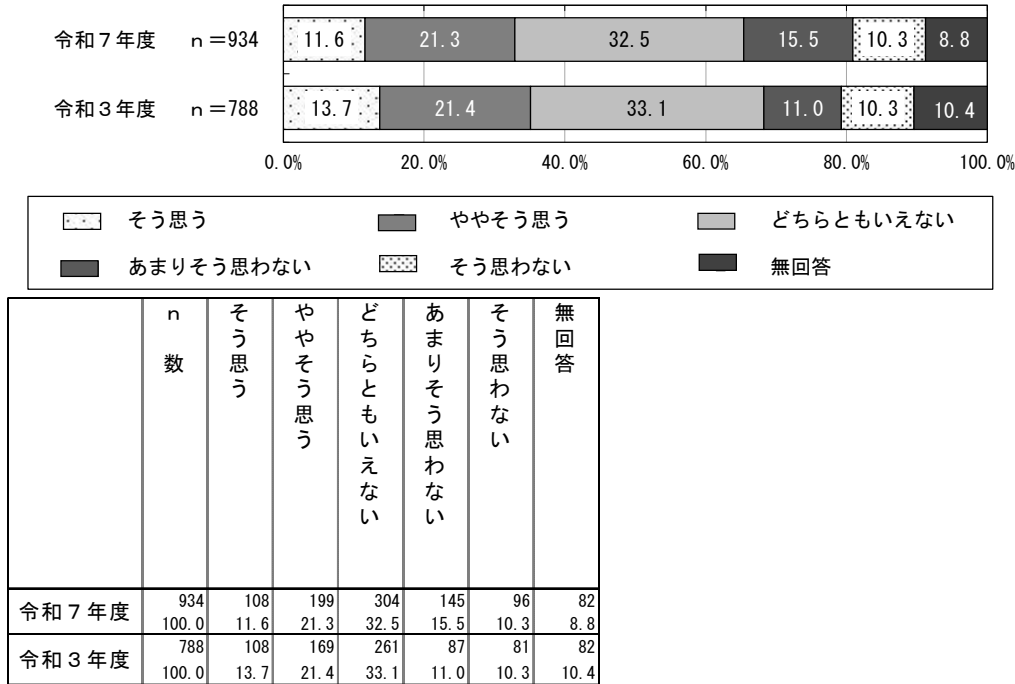
※ 選択肢「特に知りたくない」は平成25年度のみ調査

(H) がん治療のための口腔ケアについての情報不足

年度間比較をすると、『令和3年度』で“思う”（「思う」＋「やや思う」）が35.1%であったものが、『令和7年度』では32.9%となっている。

『令和7年度』では『令和3年度』と比べ“思う”が2.2ポイント（32.9%－35.1%）下回り、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が4.5ポイント（25.8%－21.3%）上回っている。

■がん治療のための口腔ケアについての情報不足（単数回答/年度間比較）



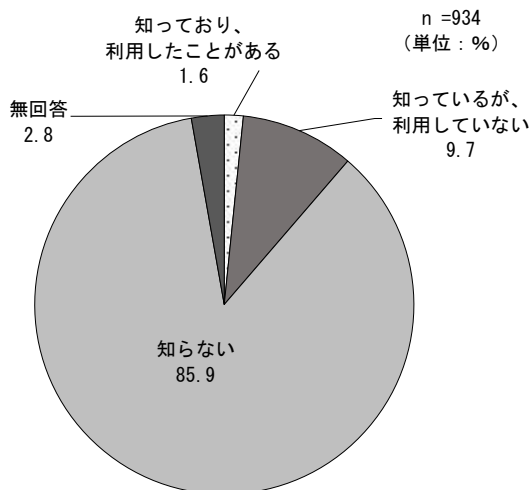
問 39 がんネットならの利用度

問 39 奈良県が、県内のがん情報を総合的に発信している「がんネットなら」（注参照）を利用したことがありますか。【〇はひとつだけ】

（注）がんネットなら：インターネットを利用して、奈良県にお住まいのがん患者さんやご家族の皆さんが療養生活を送る際に役立つ情報や、県内で開催されるがんに関するイベント・研修情報など幅広く発信している。

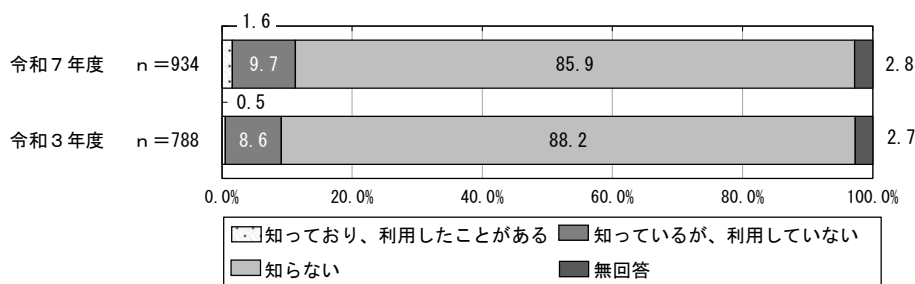
がんネットならの利用度については、「知らない」が85.9%と最も高く、次いで「知っているが、利用していない」が9.7%、「知っているが、利用したことがある」が1.6%の順となっている。

■がんネットならの利用度（単数回答/全体）



n数	知っているが、利用したことがある	知っているが、利用していない	知らない	無回答
934	15	91	802	26
100.0	1.6	9.7	85.9	2.8

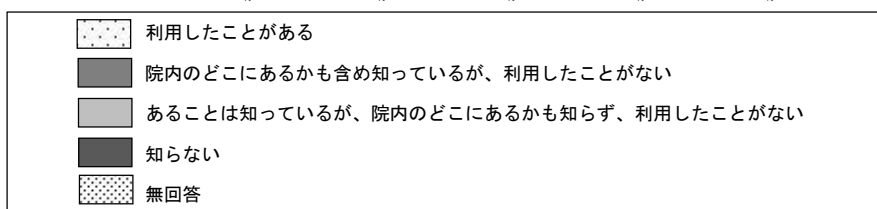
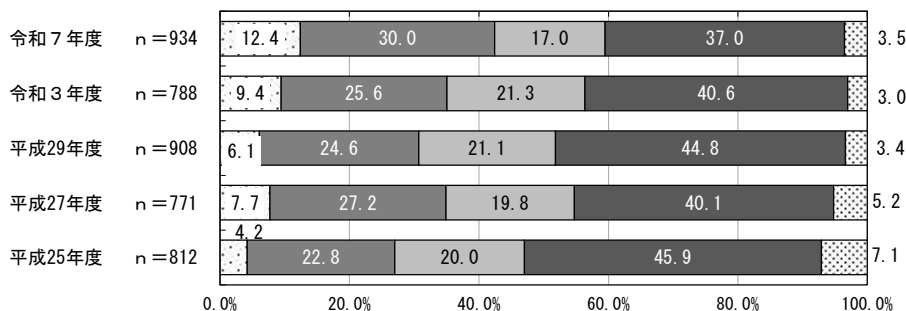
年度間比較をすると、『令和3年度』で“知っている”（「知っているが、利用したことがある」＋「知っているが、利用していない」）が9.1%であったものが、『令和7年度』では11.3%となっており、2.2ポイント（11.3%－9.1%）上回っている。



	n数	知っているが、利用したことがある	知っているが、利用していない	知らない	無回答
令和7年度	934 100.0	15 1.6	91 9.7	802 85.9	26 2.8
令和3年度	788 100.0	4 0.5	68 8.6	695 88.2	21 2.7

年度間比較をすると、『令和3年度』では「利用したことがある」が9.4%であったのに対し、『令和7年度』では12.4%となっており、3.0ポイント（12.4%－9.4%）上回っている。

■がん相談支援センターの利用の有無（単数回答/年度間比較）



	n	利用したことがある	院内のどこにあるかも含め知っているが、利用したことがない	あることは知っているが、院内のどこにあるかも知らず、利用したことがない	知らない	無回答
令和7年度	934	116	280	159	346	33
令和3年度	788	74	202	168	320	24
平成29年度	908	55	223	192	407	31
平成27年度	771	59	210	153	309	40
平成25年度	812	34	185	162	373	58

一参考ー がん相談支援センターの利用の有無 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省

※ 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省
 （注）厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と回答欄がやや異なるため、参考として記した。

	n	知っている	知らない	無回答
令和5年度※ （厚生労働省）	11,169	6,313	4,573	283
	100.0	56.5	40.9	2.5

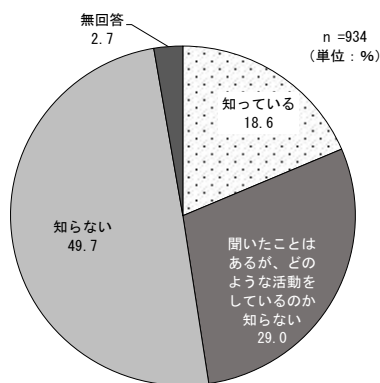
	n	利用したことがある	利用したことはない	無回答
令和5年度※ （厚生労働省）	6,313	1,367	4,937	9
	100.0	21.7	78.2	0.1

問 41 患者サロンの認知度

問 41 「患者サロン」（がん患者やその家族など、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場）があることを知っていますか。【〇はひとつだけ】

患者サロンの認知度については、「知らない」が 49.7%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない」が 29.0%、「知っている」が 18.6%の順となっている。

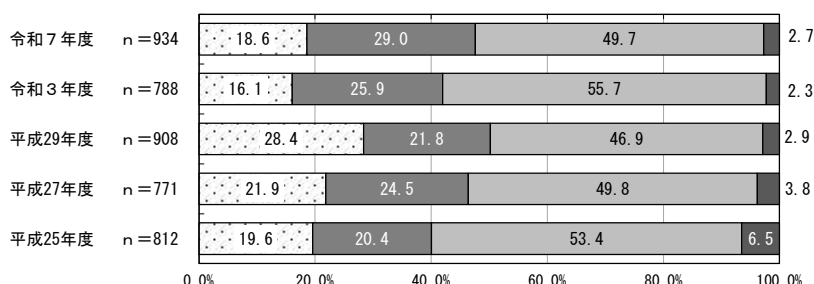
■患者サロンの認知度（単数回答/全体）



n 数	知っている	聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない	知らない	無回答
934	174	271	464	25
100.0	18.6	29.0	49.7	2.7

年度間比較をすると、『令和 3 年度』で「知っている」が 16.1%であったものが、『令和 7 年度』では 18.6%となっており、2.5 ポイント (18.6%－16.1%) 上回っている。

■患者サロンの認知度（単数回答/年度間比較）



	知っている
	聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない
	知らない
	無回答

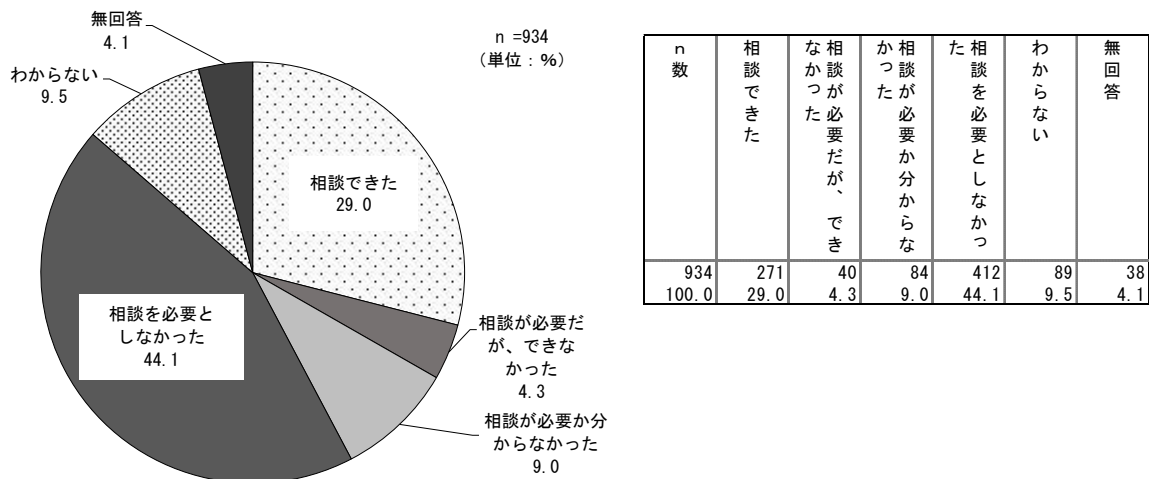
	n 数	知っている	聞いたことはあるが、どのような活動をしているのか知らない	知らない	無回答
令和 7 年度	934 100.0	174 18.6	271 29.0	464 49.7	25 2.7
令和 3 年度	788 100.0	127 16.1	204 25.9	439 55.7	18 2.3
平成 29 年度	908 100.0	258 28.4	198 21.8	426 46.9	26 2.9
平成 27 年度	771 100.0	169 21.9	189 24.5	384 49.8	29 3.8
平成 25 年度	812 100.0	159 19.6	166 20.4	434 53.4	53 6.5

問 42 がん治療による外見変化の悩みの相談先

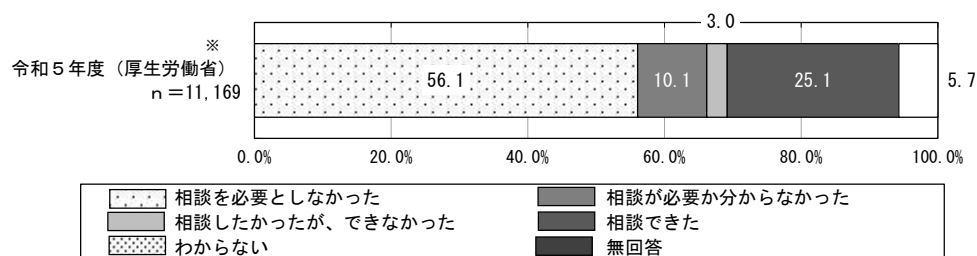
問 42 がんの治療による外見の変化（脱毛や皮膚障害などを含む）に関する悩みを誰かに相談できましたか。【〇はひとつだけ】

がん治療による外見変化の悩みの相談先については、「相談を必要としなかった」が44.1%と最も高く、次いで「相談できた」が29.0%、「わからない」が9.5%の順となっている。

■がん治療による外見変化の悩みの相談先（単数回答/全体）



—参考— がん治療による外見変化の悩みの相談先 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省



	n 数	か相談を必要としな	な相談が必要かから	た相談が必要かから	相談できた	無回答
令和5年度※1 (厚生労働省)	11,169	6,264	1,126	339	2,807	633
	100.0	56.1	10.1	3.0	25.1	5.7

※ 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省

（注）厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と質問内容がやや異なるため、参考として記した。

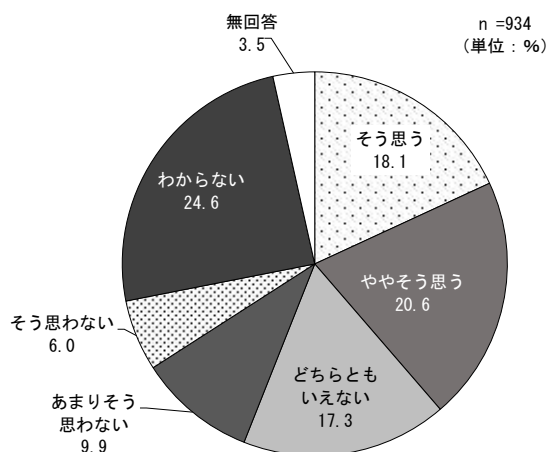
問 43 支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感

問 43 がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの相談支援によって現在は軽減されたと思いますか。【○はひとつだけ】

支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感については、「わからない」が 24.6%と最も高く、次いで「ややそう思う」が 20.6%、「そう思う」が 18.1%の順となっている。

“思う”（「そう思う」＋「ややそう思う」）が 38.7%、一方“思わない”（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が 15.9%となっており、“思う”が 22.8 ポイント（38.7%－15.9%）上回っている。

■支援によるがんに関する心配・悩みの軽減感（単数回答/全体）



n 数	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
934	169	192	162	92	56	230	33
100.0	18.1	20.6	17.3	9.9	6.0	24.6	3.5

2-5. 治療と就労について

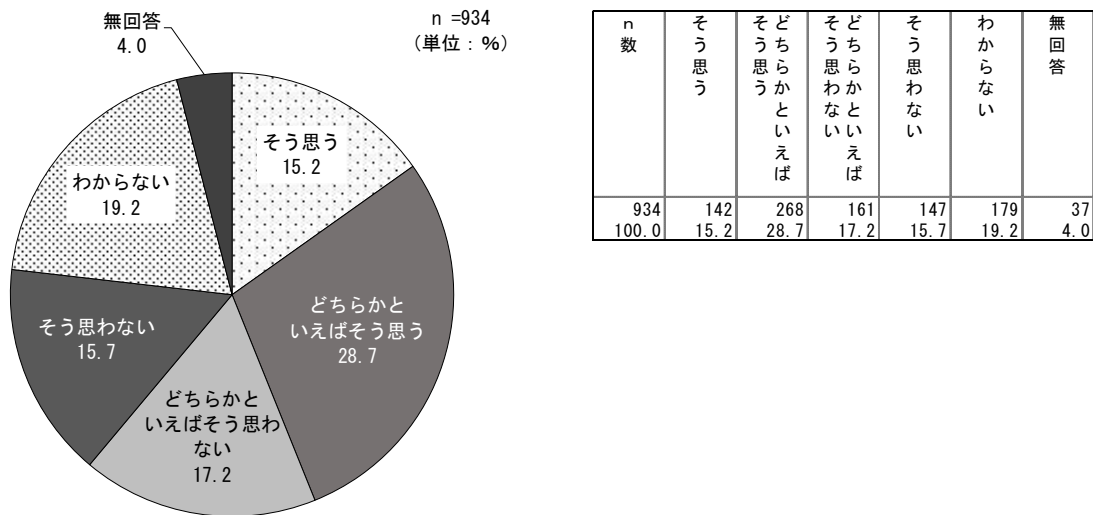
問 44 がん治療と継続就労についての認識

問 44 現在の日本は、がん治療を受けながら、働きつづけられる環境だと思いますか。
【〇はひとつだけ】

がん治療を受けながら働きつづけられる環境だと思うかについては、「どちらかといえばそう思う」が 28.7%と最も高く、次いで「わからない」が 19.2%、「どちらかといえばそう思わない」が 17.2%の順となっている。

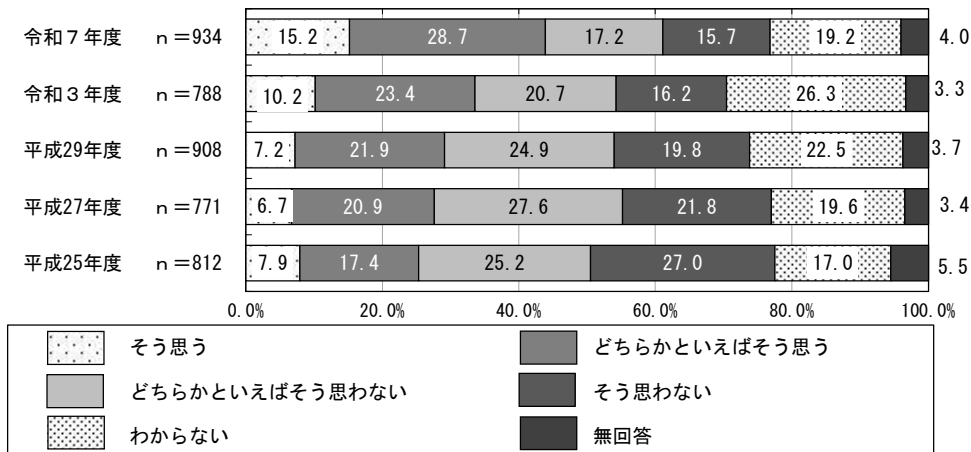
“思う”（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が 43.9%、一方“思わない”（「どちらかといえばそう思わない」＋「そう思わない」）が 32.9%となっており、“思う”が 11.0 ポイント（43.9%－32.9%）上回っている。

■がん治療と継続就労についての認識（単数回答/全体）



年度間比較をすると、『令和3年度』で“思う”（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）が 33.6%であったものが、『令和7年度』では 43.9%となっており、10.3 ポイント（43.9%－33.6%）上回っている。

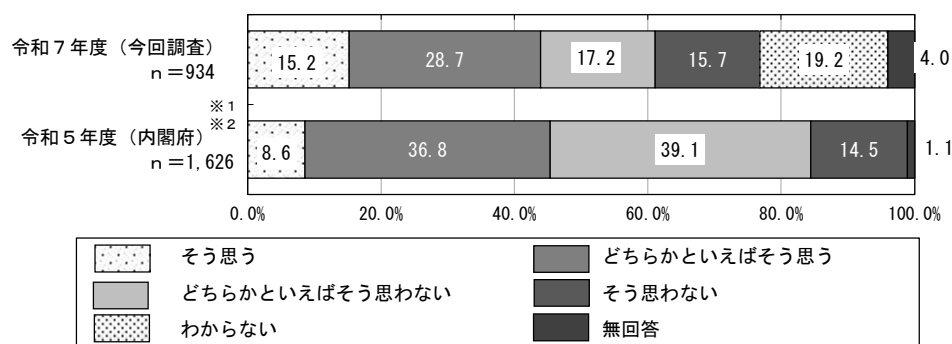
■がん治療と継続就労についての認識（単数回答/年度間比較）



	n 数	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
令和7年度	934 100.0	142 15.2	268 28.7	161 17.2	147 15.7	179 19.2	37 4.0
令和3年度	788 100.0	80 10.2	184 23.4	163 20.7	128 16.2	207 26.3	26 3.3
平成29年度	908 100.0	65 7.2	199 21.9	226 24.9	180 19.8	204 22.5	34 3.7
平成27年度	771 100.0	52 6.7	161 20.9	213 27.6	168 21.8	151 19.6	26 3.4
平成25年度	812 100.0	64 7.9	141 17.4	205 25.2	219 27.0	135 17.0	45 5.5

国の調査（内閣府[※]）と比較すると、『令和5年度（内閣府）』では“思う”が45.4%であるのに対し、『令和7年度（今回調査）』では43.9%と1.5ポイント（43.9%－45.4%）下回っている。

■がん治療と継続就労についての認識（単数回答/国の調査との比較）



	n 数	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
令和7年度 （今回調査）	934 100.0	142 15.2	268 28.7	161 17.2	147 15.7	179 19.2	37 4.0
令和5年度 ^{※1} ^{※2} （内閣府）	1,626 100.0	-	-	-	-	-	-

※1 がん対策に関する世論調査（令和5年7月） 内閣府

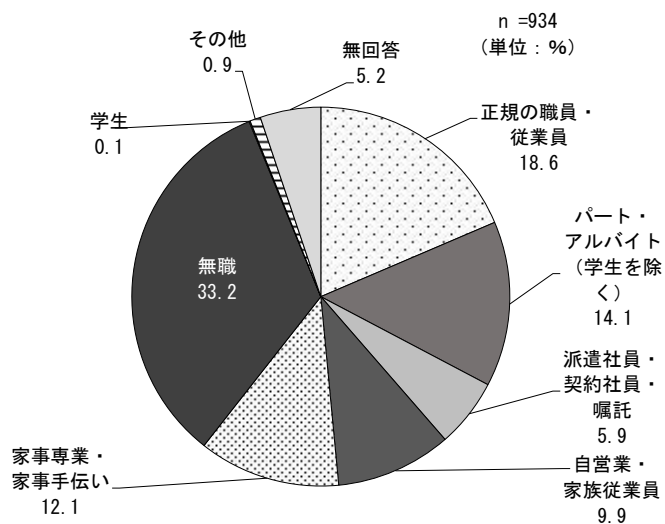
※2 内閣府調査には、「わからない」の回答が設定されていなかった。

問 45 がん診断時の就労状況

問 45 **がんと最初に診断された時の、患者さんご本人の就労状況**について教えてください。
【〇はひとつだけ】

がんと最初に診断された時の就労状況については、「無職」が 33.2%と最も高く、次いで「正規の職員・従業員」が 18.6%、「パート・アルバイト」が 14.1%の順となっている。

■がん診断時の就労状況（単数回答/全体）



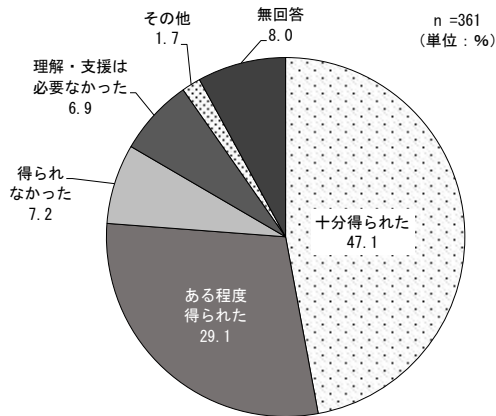
n 数	正規の職員・従業員	パート・アルバイト (学生を除く)	嘱託 派遣社員・契約社員・	自営業・家族従業員	家事専業・家事手伝い	無職	学生	その他	無回答
934	174	132	55	92	113	310	1	8	49
100.0	18.6	14.1	5.9	9.9	12.1	33.2	0.1	0.9	5.2

問 46 仕事の継続に関する事業主の理解・支援

問 46 問 45 で 「1, 正規の職員・従業員」、 「2, パート・アルバイト (学生を除く)」、 「3, 派遣社員・契約社員・嘱託」と回答された方にお伺いします。
 がんと診断され、検査や治療が進む中、仕事の継続に対する事業主の理解・支援は得られましたか。【○はひとつだけ】

がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）であった方の仕事の継続に関する事業主の理解・支援については、「十分得られた」が47.1%と最も高く、次いで「ある程度得られた」が29.1%、「得られなかった」が7.2%の順となっている。

■仕事の継続に関する事業主の理解・支援（単数回答/全体）



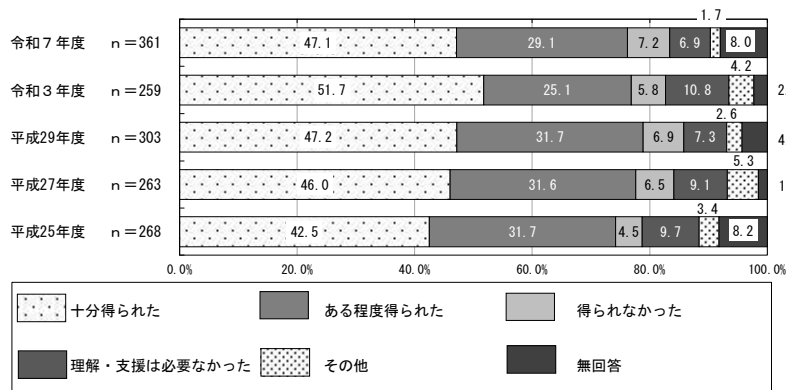
n 数	十分得られた	ある程度得られた	得られなかった	理解・支援は必要なかった	その他	無回答
361	170	105	26	25	6	29
100.0	47.1	29.1	7.2	6.9	1.7	8.0

【その他】

- ・定年後に治療、手術した
- ・続ける意思がなかったのですぐやめた。
- ・年なので仕事をやめました

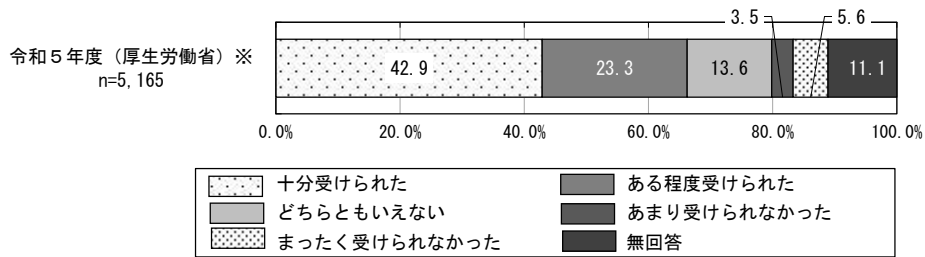
年度間比較をすると、『令和3年度』で「十分得られた」が51.7%であったものが、『令和7年度』では47.1%となっており、4.6ポイント（47.1%－51.7%）下回っている。

■仕事の継続に関する事業主の理解・支援（単数回答/年度間比較）



	n	十分得られた	ある程度得られた	得られなかった	理解・支援は必要なかった	その他	無回答
令和7年度	361	170	105	26	25	6	29
令和3年度	259	134	65	15	28	11	6
平成29年度	303	143	96	21	22	8	13
平成27年度	263	121	83	17	24	14	4
平成25年度	268	114	85	12	26	9	22
	100.0	47.1	29.1	7.2	6.9	1.7	8.0
	100.0	51.7	25.1	5.8	10.8	4.2	2.3
	100.0	47.2	31.7	6.9	7.3	2.6	4.3
	100.0	46.0	31.6	6.5	9.1	5.3	1.5
	100.0	42.5	31.7	4.5	9.7	3.4	8.2

—参考— 仕事の継続に関する事業主の理解・支援 患者体験調査（令和5年度）厚生労働省



	n	十分受けられた	ある程度受けられた	どちらともいえない	ななかつた受けられた	ななかつた受けられ	まったく受けられ	無回答
令和5年度※ (厚生労働省)	5,165	2,217	1,203	701	181	290	573	
	100.0	42.9	23.3	13.6	3.5	5.6	11.1	

※ 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省

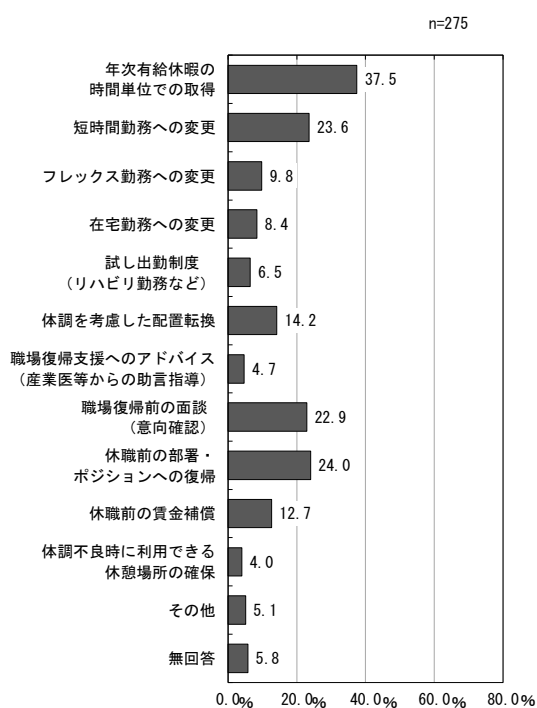
（注）厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と回答欄が異なるため、参考として記した。

問 47 仕事を継続するために受けた事業主の支援内容

問 47 問 46 で「1, 十分得られた」、「2, ある程度得られた」と回答された方にお伺いします。
 仕事の継続に対して、事業主からどのような支援を受けましたか。【〇はいくつでも】

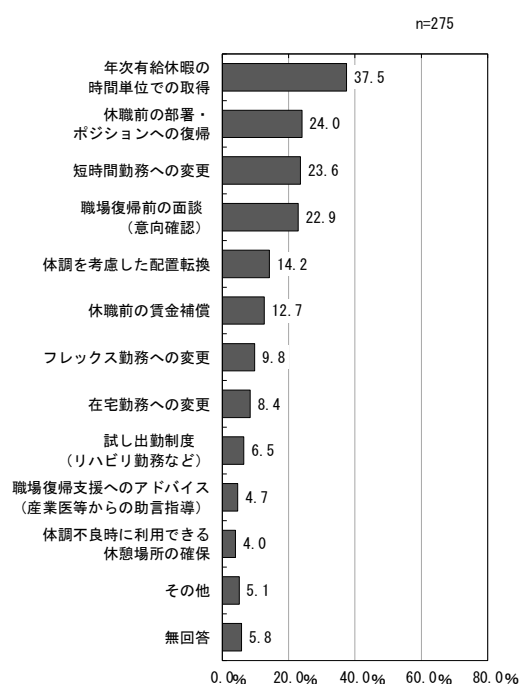
がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）で事業主の理解・支援のあった方の仕事を継続するために受けた事業主の支援内容については、「年次有給休暇の時間単位での取得」が 37.5%と最も高く、次いで「休職前の部署・ポジションへの復帰」が 24.0%、「短時間勤務への変更」が 23.6%の順となっている。

■仕事を継続するために受けた事業主の支援内容（複数回答/全体）



—参考—

仕事を継続するために受けた事業主の支援内容の割合の高いもの順グラフ



n 数	位年次有給休暇の時間単位での取得	短時間勤務への変更	更フレックス勤務への変更	在宅勤務への変更	リ試し出勤制度 (リハビリ)	換体調を考慮した配置転換	のアドバイス (産業医等からの助言指導)	職場復帰支援へのアドバイス (産業医等からの助言指導)	向職場復帰前の面談 (意向確認)	シ休職前の部署・ポジションへの復帰	休職前の賃金補償	る体調不良時に利用できる	その他	無回答
275	103	65	27	23	18	39	13	63	66	35	11	14	16	
100.0	37.5	23.6	9.8	8.4	6.5	14.2	4.7	22.9	24.0	12.7	4.0	5.1	5.8	

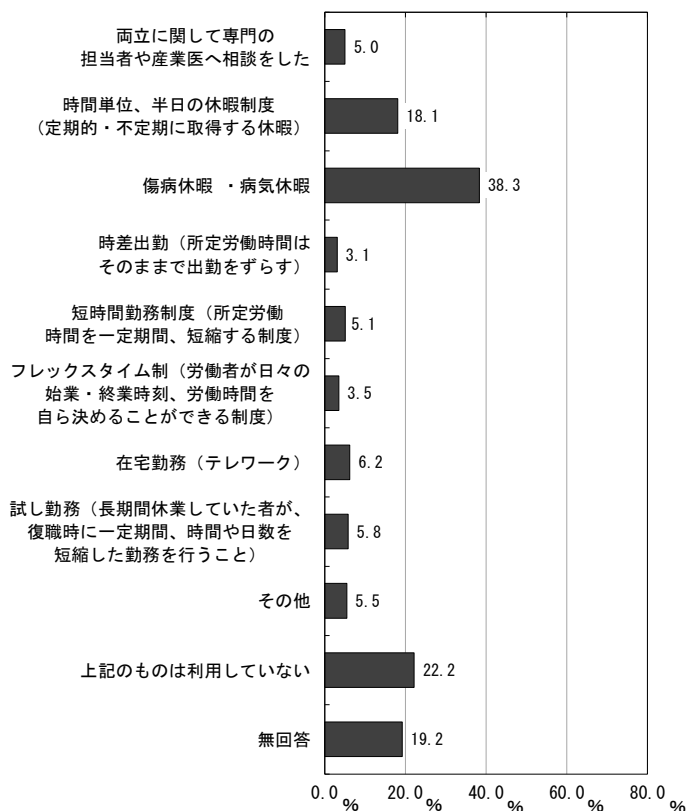
【その他】

- ・オスメイト（多目的）トイレの改修
- ・社内制度に則り支援を受けている
- ・休職する事に了承してくれた
- ・ウィッグ購入の補助金、雑務の軽減
- ・復帰を待っていてくれる
- ・見舞金等

—参考— 仕事を継続するために受けた事業主の支援内容 患者体験調査（令和5年度）

厚生労働省

令和5年度（厚生労働省）^{*}（n=4,145）



	n 数	や 両 立 に 関 し て 専 門 の 担 当 者 へ 相 談 を し た	時 間 単 位 ・ 半 日 の 休 暇 制 度 （ 定 期 的 ・ 不 定 期 に 取 得 す る 休 暇 ）	傷 病 休 暇 ・ 病 気 休 暇	そ の ま ま で 出 勤 を ず ら す	時 間 単 位 ・ 半 日 の 休 暇 制 度 （ 定 期 的 ・ 不 定 期 に 取 得 す る 休 暇 ）	短 時 間 勤 務 制 度 （ 所 定 労 働 時 間 を 一 定 期 間 、 短 縮 す る 制 度 ）	決 め る こ と が で き る 制 度 （ フ レ ク ス タ イ ム 制 ）	在 宅 勤 務 （ テ レ ワ ー ク ）	縮 小 し た 勤 務 を 行 う こ と	復 職 時 に 一 定 期 間 、 時 間 や 日 数 を 短 縮 し た 勤 務 を 行 う こ と	試 し 勤 務 （ 長 期 間 休 業 し て い た 者 が ）	そ の 他	上 記 の も の は 利 用 し て い な い	無 回 答
令和5年度※ （厚生労働省）	4,145 100.0	206 5.0	754 18.1	1,595 38.3	127 3.1	213 5.1	144 3.5	257 6.2	241 5.8	230 5.5	924 22.2	799 19.2			

※ 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省

（注）厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と回答欄が異なるため、参考として記した。

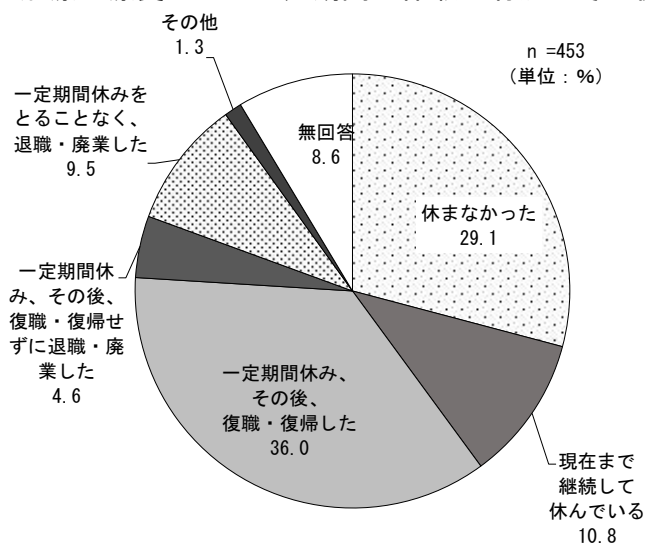
問 48 治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況

問 48 問 45 で「1, 正規の職員・従業員」、「2, パート・アルバイト (学生を除く)」、「3, 派遣社員・契約社員・嘱託」と回答された方にお伺いします。

がんで初めて治療・療養した時、一定期間 (連続して 3 か月以上) 仕事を休みましたか。また、その後復職・復帰しましたか。【○はひとつだけ】

がんと最初に診断されたときに雇用者 (正規の職員・従業員、パート・アルバイト (学生を除く)、派遣社員・契約社員・嘱託) と自営業者・家族従業員の方の治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況については、「一定期間休み、その後、復職・復帰した」が 36.0% と最も高く、次いで「休まなかった」が 29.1%、「現在まで継続して休んでいる」が 10.8% の順となっている。

■治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況 (単数回答/全体)



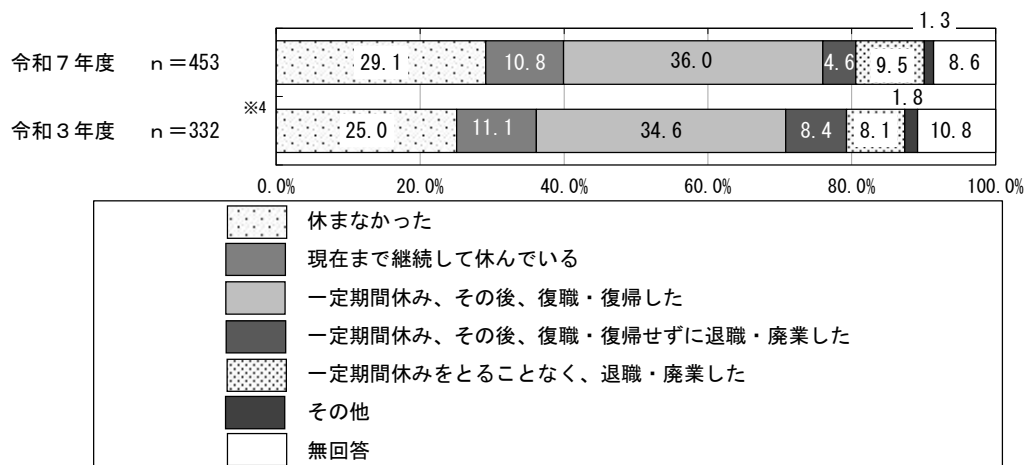
n 数	休まなかった	現在まで継続して休んでいる	後、一定期間休み、復職・復帰した	退職・復職・廃業した	一定期間休み、その後、復職・復帰せず退職・廃業した	た一定期間、間退職・廃業し	その他	無回答
453	132	49	163	21	43	6	39	
100.0	29.1	10.8	36.0	4.6	9.5	1.3	8.6	

【その他】

- ・一定期間休み、その後復職したが復職後すぐに入院で欠勤が続き会社都合で退職となった。
- ・一定期間休み復帰したが、食品をあつかうため脱毛が気になりつらく退職した。
- ・一定期間休み、その後復職し、後に退職した。

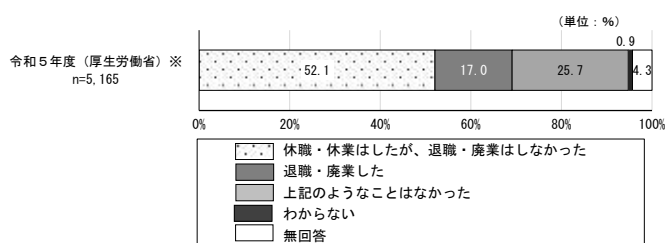
年度間比較をすると、『令和3年度』で「休まなかった」が25.0%であったものが、『令和7年度』では29.1%となっており、4.1ポイント（29.1%－25.0%）上回っている。

■治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況（単数回答/年度間比較）

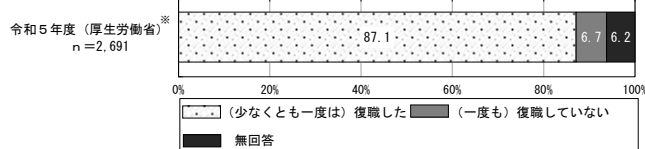


	n	休まなかった	現在まで継続して休んでいる	復帰した	一定期間休み、その後、復職・復帰した	一定期間休みに退職・廃業した	退職・廃業した	その他	無回答
令和7年度	453	132	49	163	21	43	6	39	
令和3年度	332	83	37	115	28	27	6	36	

一参考一 治療・療養による一定期間の休暇の有無とその後の仕事の状況
患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省



	n	休職・休業はしたが、退職・廃業はしなかった	退職・廃業した	上記のようなことはなかった	わからない	無回答
令和5年度	5,165	2,691	876	1,328	49	221



	n	(少なくとも一度は) 復帰した	(一度も) 復帰していない	無回答
令和5年度	2,691	2,344	179	168

※ 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省

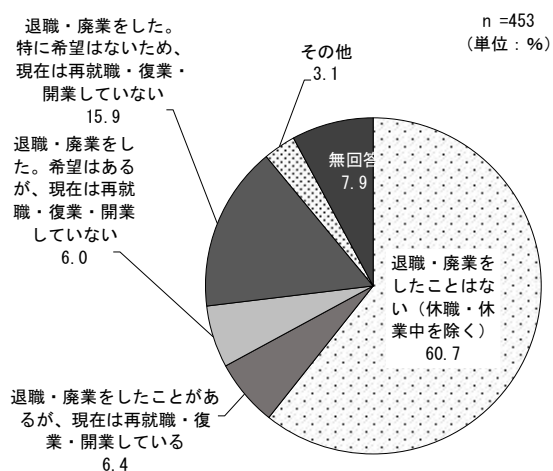
（注）厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と回答欄がやや異なるため、参考として記した。

問 49 がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況

問 49 問 45 で「1, 正規の職員・従業員」、「2, パート・アルバイト (学生を除く)」、「3, 派遣社員・契約社員・嘱託」と回答された方にお伺いします。
 がん治療・療養のための退職・廃業の有無と、現在の仕事の状況について、教えてください。
 【〇はひとつだけ】

がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）と自営業者・家族従業員の方のがん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況については、「退職・廃業をしたことはない（休職・休業中を除く）」が 60.7%と最も高く、次いで「退職・廃業をした。特に希望はないため、現在は再就職・復業・開業していない」が 15.9%、「退職・廃業をした。希望はあるが、現在は再就職・復業・開業していない」が 6.0%、「退職・廃業をしたことがあるが、現在は再就職・復業・開業している」が 6.4%の順となっている。

■がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況（単数回答/全体）

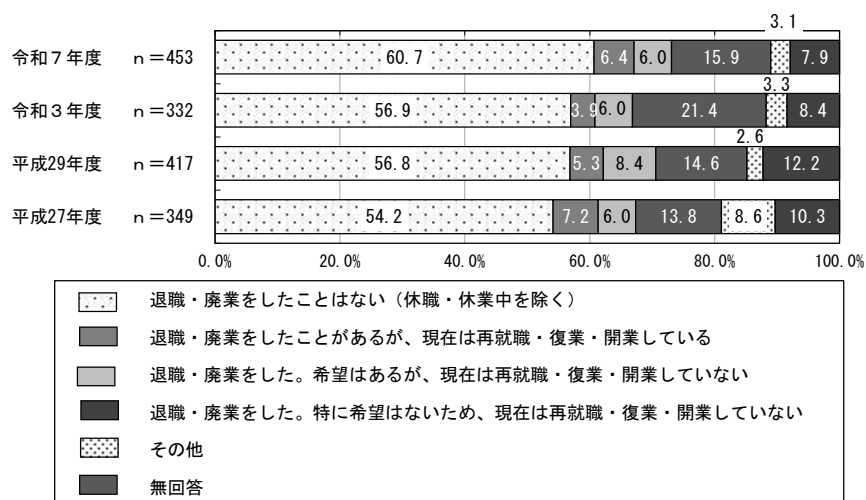


n 数	い 退 職 ・ 休 職 ・ 廃 業 を し た こ と は な い (休 職 ・ 休 業 中 を 除 く)	業 ・ 開 業 し て は 再 就 職 ・ 復 業 が あ る が、 現 在 は 再 就 職 ・ 復 業 し て い な い	退 職 ・ 開 業 し て は 再 就 職 ・ 復 業 が あ る が、 現 在 は 再 就 職 ・ 復 業 し て い な い	退 職 ・ 開 業 し て は 再 就 職 ・ 復 業 が あ る が、 現 在 は 再 就 職 ・ 復 業 し て い な い	職 ・ 復 業 ・ 開 業 し て は 再 就 職 ・ 復 業 が あ る が、 現 在 は 再 就 職 ・ 復 業 し て い な い	退 職 ・ 開 業 し た こ と は な い (休 職 ・ 休 業 中 を 除 く)	そ の 他	無 回 答
453	275	29	27	72	14	36		
100.0	60.7	6.4	6.0	15.9	3.1	7.9		

【その他】
 ・休職中（2件）
 ・廃業の検討中

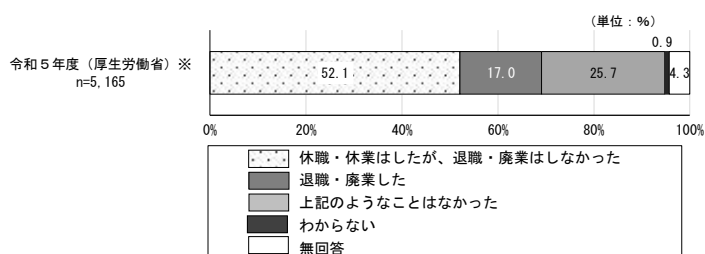
年度間比較をすると、『令和3年度』で「退職・廃業をしたことはない（休職・休業中を除く）」が56.9%であったものが、『令和7年度』では60.7%となっており、3.8ポイント（60.7%－56.9%）上回っている。

■がん治療・療養のための退職・廃業の有無と現在の仕事の状況（単数回答/年度間比較）



	n	退職・休業中を除く	現在再就職・復業・開業している	希望はあるが、現在再就職・復業・開業していない	特に希望はないため、現在再就職・復業・開業していない	その他	無回答
令和7年度	453	275	29	27	72	14	36
令和3年度	332	189	13	20	71	11	28
平成29年度	417	237	22	35	61	11	51
平成27年度	349	189	25	21	48	30	36

—参考— がんと診断された時のお仕事について、がん治療のために以下のようなことがありましたか 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省

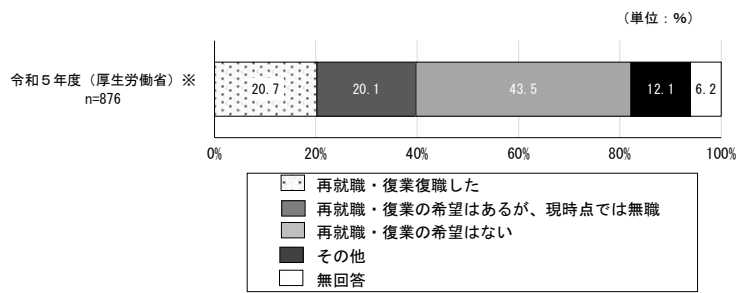


	n	休職・休業はしたが、退職・廃業はしなかった	退職・廃業した	上記のようなことはなかった	わからない	無回答
令和5年度※（厚生労働省）	5,165	2,691	876	1,328	49	221

※ 患者体験調査（令和5年度） 厚生労働省

（注）厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と質問内容が異なるため、参考として記した。

—参考— (退職・廃業したと回答した人対象) その後、どのようにされましたか 患者体験調査 (令和5年度) 厚生労働省



	n	再就職・復業復職した	再就職・復業の希望はあるが、現時点では無職	再就職・復業の希望はない	その他	無回答
令和5年度※ (厚生労働省)	876	181	176	381	106	32
	100.0	20.7	20.1	43.5	12.1	3.7

※ 患者体験調査 (令和5年度) 厚生労働省

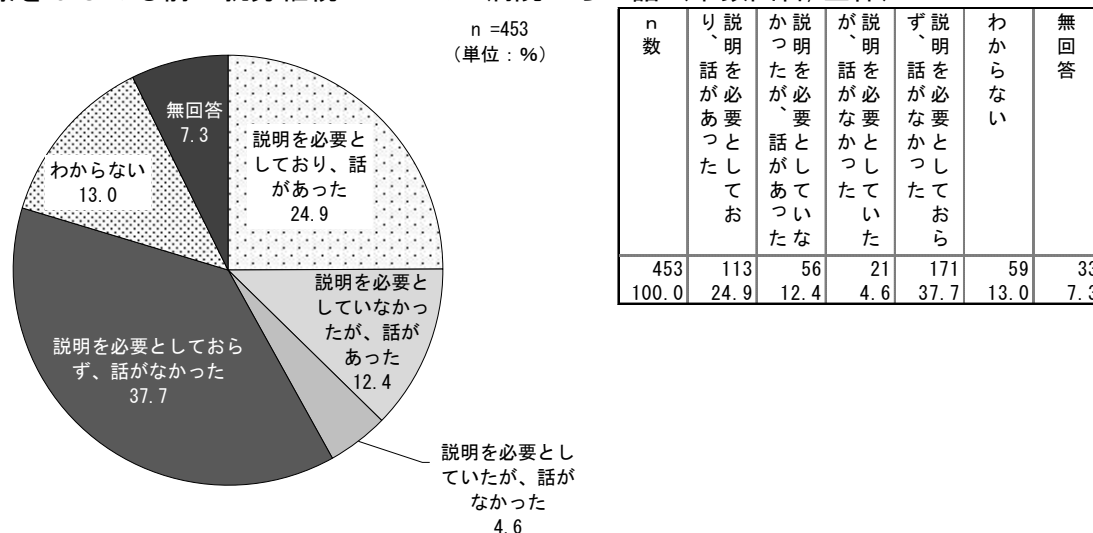
(注) 厚生労働省の「患者体験調査」は、今回調査と質問内容が異なるため、参考として記した。

問 50 治療をはじめる前の就労継続についての病院からの話

問 50 問 45 で「1, 正規の職員・従業員」、「2, パート・アルバイト (学生を除く)」、「3, 派遣社員・契約社員・嘱託」と回答された方にお伺いします。
 治療を始める前に就労の継続について病院の医療スタッフから話がありましたか。
 【〇はひとつだけ】

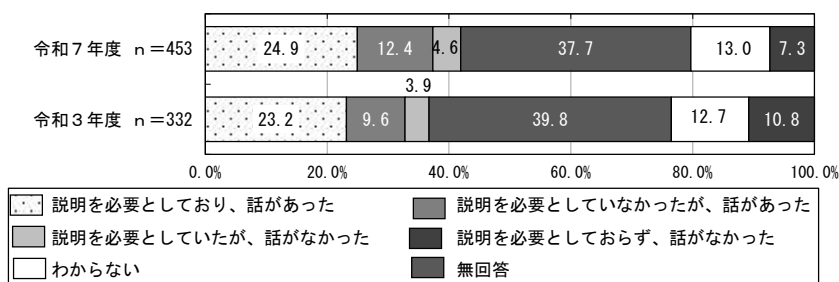
治療をはじめる前の就労継続についての病院からの話については、「説明を必要としておらず、話がなかった」が 37.7%と最も高く、次いで「説明を必要としており、話があった」が 24.9%、「わからない」が 13.0%の順となっている。

■治療をはじめる前の就労継続についての病院からの話 (単数回答/全体)



年度間比較をすると、『令和 3 年度』で“話があった”(「説明を必要としており、話があった」+「説明を必要としていなかったが、話があった」)が 32.8%であったものが、『令和 7 年度』では 37.3%となっており、4.5 ポイント (37.3% - 32.8%) 上回っている。

■治療をはじめる前の就労継続についての病院からの話 (単数回答/年度間比較)



	n 数	説明を必要としており、話があった	説明を必要としていたが、話がなかった	説明を必要としておらず、話がなかった	わからない	無回答
令和 7 年度	453	113	56	21	171	59
令和 3 年度	332	77	32	13	132	42
	100.0	24.9	12.4	4.6	37.7	13.0
	100.0	23.2	9.6	3.9	39.8	12.7
						10.8

問 51 仕事を継続するために必要な対応・制度

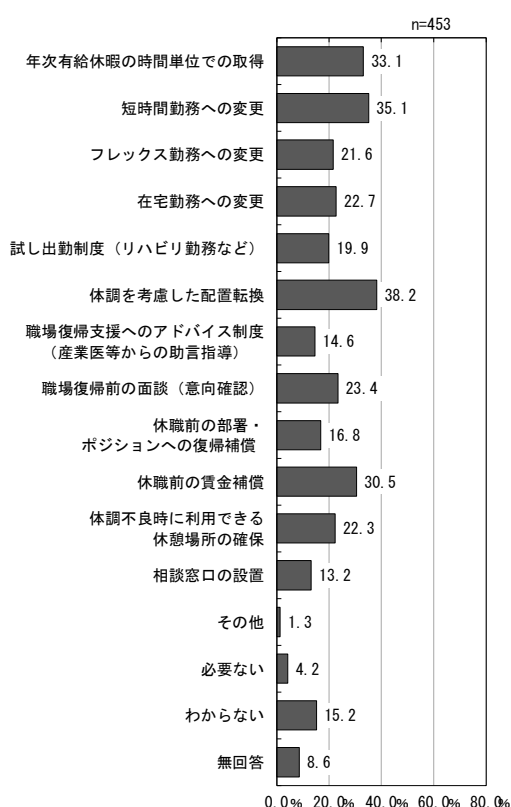
問 51 問 45 で「1, 正規の職員・従業員」、「2, パート・アルバイト (学生を除く)」、「3, 派遣社員・契約社員・嘱託」と回答された方にお伺いします。

がんの治療と仕事を継続する上で、どのような対応・制度が必要だと思いますか。

【〇はいくつでも】

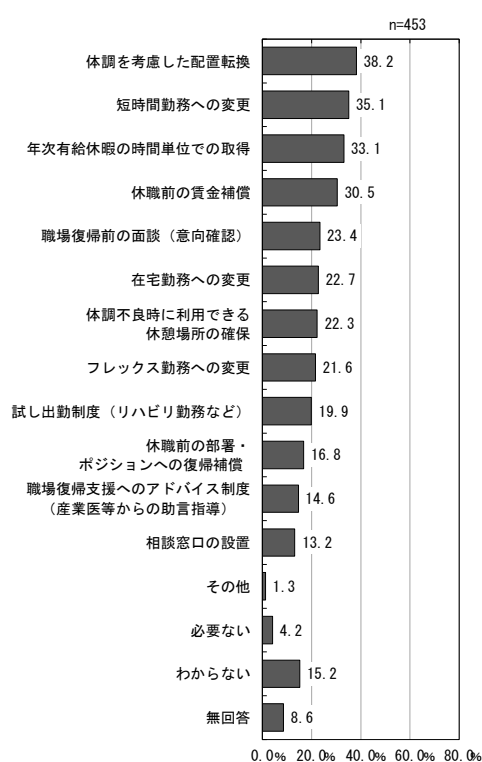
がんと最初に診断されたときに雇用者（正規の職員・従業員、パート・アルバイト（学生を除く）、派遣社員・契約社員・嘱託）と自営業者・家族従業員の方の仕事を継続するために必要な対応・制度については、「体調を考慮した配置転換」が 38.2%と最も高く、次いで「短時間勤務への変更」が 35.1%、「年次有給休暇の時間単位での取得」が 33.1%の順となっている。

■仕事を継続するために必要な対応・制度（複数回答/全体）



—参考—

仕事を継続するために必要な対応・制度の割合の高いもの順グラフ



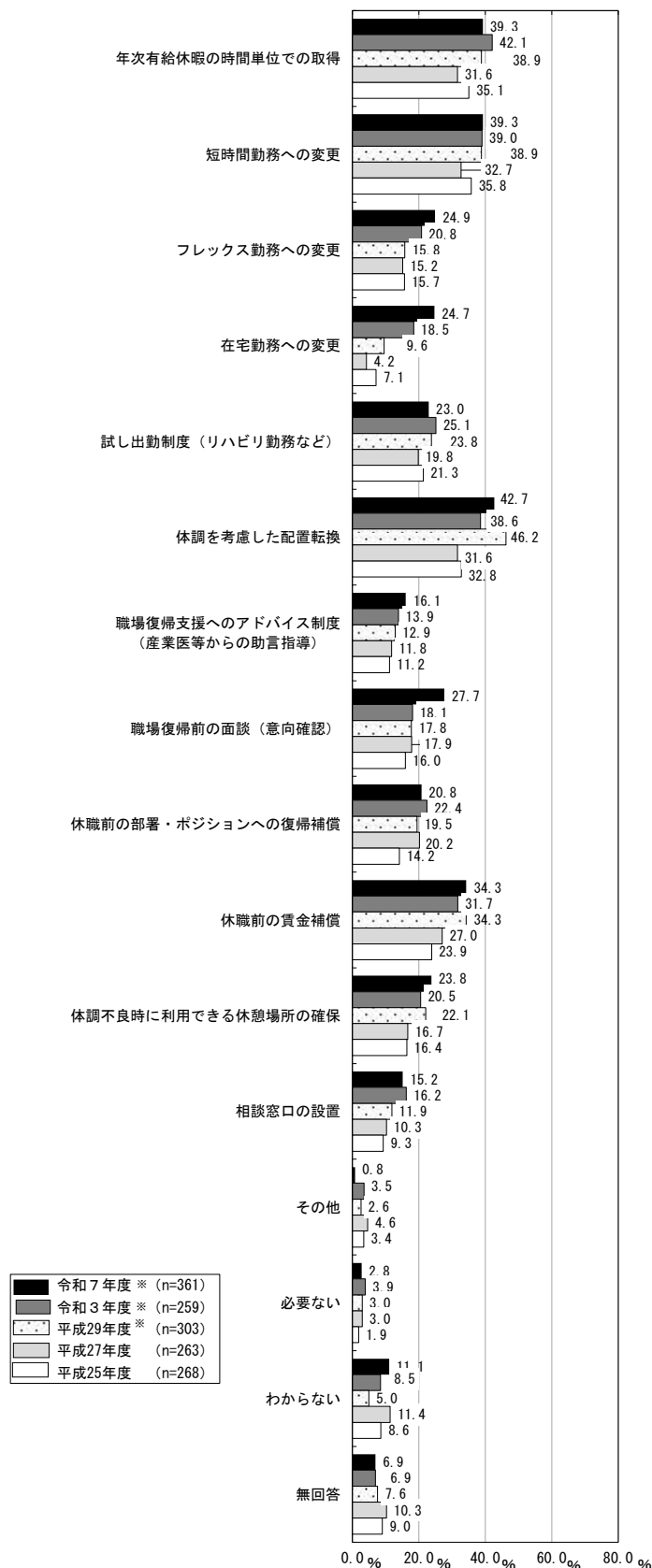
n	取得	短時間勤務への変更	フレックス勤務への変更	在宅勤務への変更	試し出勤制度（リハビリ勤務など）	体調を考慮した配置転換	職場復帰支援へのアドバイス（産業医等からの助言指導）	職場復帰前の面談（意向確認）	退職前の部署・ポジションへの復帰補償	退職前の賃金補償	体調不良時に利用できる休憩場所の確保	相談窓口の設置	その他	必要ない	わからない	無回答
453	150	159	98	103	90	173	66	106	76	138	101	60	6	19	69	39
100.0	33.1	35.1	21.6	22.7	19.9	38.2	14.6	23.4	16.8	30.5	22.3	13.2	1.3	4.2	15.2	8.6

【その他】

- ・ 傷病手当の充実
- ・ 勤務を継続できる制度
- ・ 周囲の理解
- ・ 所属長、役職者に対するがん治療と仕事の両立の研修受講

年度間比較をすると、『平成 25 年度』『平成 27 年度』は「短時間勤務への変更」、『平成 29 年度』『令和 7 年度』は「体調を考慮した配置転換」、『令和 3 年度』では「年次有給休暇の時間単位での取得」が最も高くなっている。

■仕事を継続するために必要な対応・制度（複数回答/年度間比較）

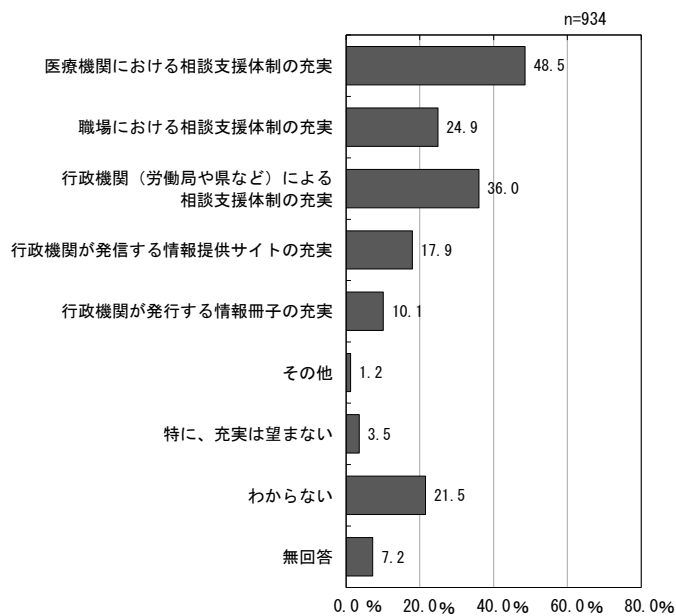


問 52 就労等の情報提供・相談支援に望むこと

問 52 生活上の困難（経済的なこと、就労のことなど）に関して情報提供や相談支援を受ける場合、どのような点について充実を望みますか。【〇はいくつでも】

就労等の情報提供・相談支援に望むことについては、「医療機関における相談支援体制の充実」が 48.5%と最も高く、次いで「行政機関（労働局や県など）による相談支援体制の充実」が 36.0%、「職場における相談支援体制の充実」が 24.9%の順となっている。

■就労等の情報提供・相談支援に望むこと（複数回答/全体）



n 数	医療 支援 体制 の充 実	職 場 の 充 実	体 制 の 充 実	な ど の 充 実	行 政 機 関 に 関 する 充 実	報 告 機 関 が 発 信 す る 情 報	報 告 機 関 が 発 行 す る 情 報	報 告 機 関 が 発 行 す る 情 報	そ の 他	特 に、 充 実 は 望 ま な い	わ か ら な い	無 回 答
934	453	233	336	167	94	11	33	201	67			
100.0	48.5	24.9	36.0	17.9	10.1	1.2	3.5	21.5	7.2			

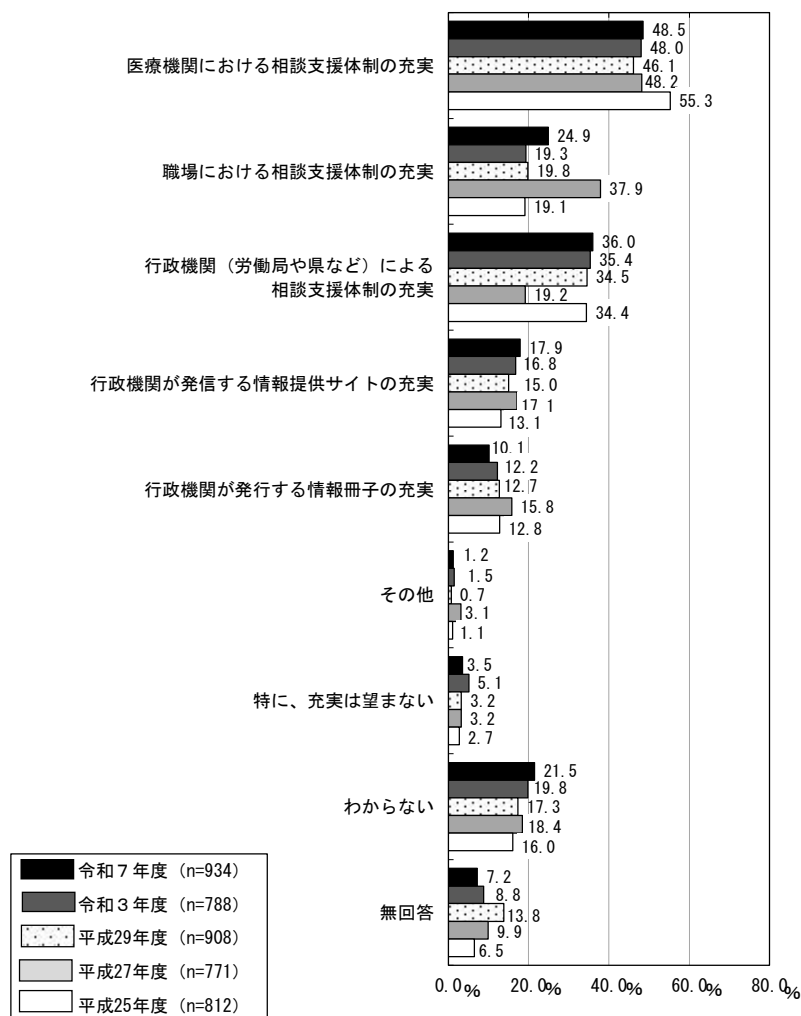
【その他】

- ・年齢の点から就職先が見つからない。
- ・国民年金のみで経済的に苦しい。高額療養費制度の限度額負担の増加は望まない
- ・未来へ向けての医療（技術の研究）への先行投資
- ・情報が市民に確実に届いているかの把握できる仕組みの充実
- ・若年層対象のまとまった金額の給付金
- ・交通費などの必要なお金や医療費の軽減

年度間比較をすると、いずれの調査年度も「医療機関における相談支援体制の充実」が最も高くなっている。

『平成 25 年度』で「医療機関における相談支援体制の充実」が 55.3%であったものが、『令和 7 年度』では 48.5%となっている。

■就労等の情報提供・相談支援に望むこと（複数回答/年度間比較）



	n	医療機関における相談支援体制の充実	職場における相談支援体制の充実	行政機関（労働局や県など）による相談支援体制の充実	行政機関が発信する情報提供	行政機関が発行する情報冊子の充実	その他	特に、充実は望まない	わからない	無回答
令和7年度	934	453 100.0	233 48.5	336 36.0	167 17.9	94 10.1	11 1.2	33 3.5	201 21.5	67 7.2
令和3年度	788	378 100.0	152 48.0	279 35.4	132 16.8	96 12.2	12 1.5	40 5.1	156 19.8	69 8.8
平成29年度	908	419 100.0	180 46.1	313 34.5	136 15.0	115 12.7	6 0.7	29 3.2	157 17.3	125 13.8
平成27年度	771	372 100.0	292 48.2	148 37.9	132 19.2	122 17.1	24 3.1	25 3.2	142 18.4	76 9.9
平成25年度	812	449 100.0	155 55.3	279 34.4	106 13.1	104 12.8	9 1.1	22 2.7	130 16.0	53 6.5

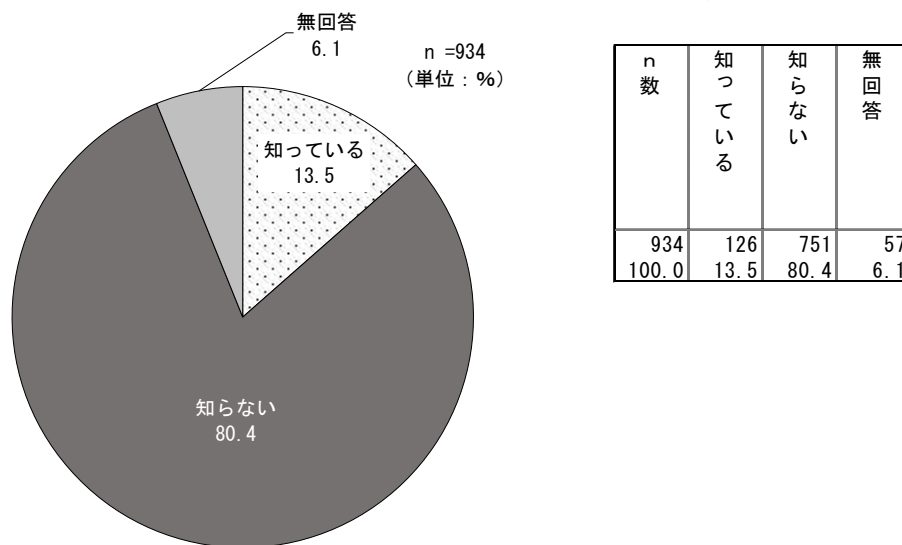
問 53 がん相談支援センターにおける就労相談の認知度

問 53 県内のがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターで実施している、がん患者を対象とした社会保険労務士による就労相談（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

（注）がん相談支援センターにおける就労相談：がん診療連携拠点病院に設置されている「がん相談支援センター」では、がんの治療と就労の両立支援に向けた取組として、社会保険労務士による就労相談窓口（予約制）を設置しており、無料で相談を受けることができる。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院、市立奈良病院に設置されている。

がん相談支援センターにおける就労相談の認知度については、「知らない」が 80.4%、一方「知っている」が 13.5%となっている。

■がん相談支援センターにおける就労相談の認知度（単数回答/全体）



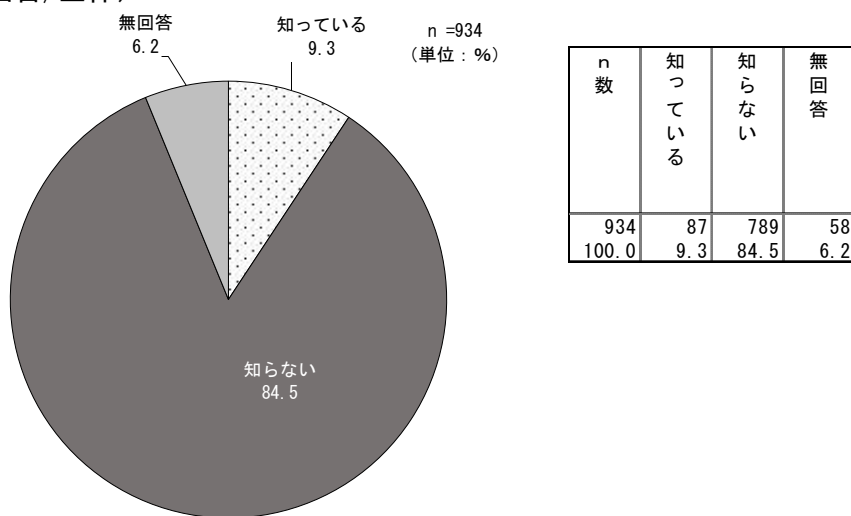
問 54 奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターにおける就職相談の認知度

問 54 奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターのがん相談支援センターがハローワークと連携して実施している、がん患者等の長期療養者を対象とした就職相談（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

（注）がん患者等の長期療養者を対象とした就職相談：奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターでは、ハローワークと連携し、ハローワークから就職支援ナビゲーターを定期的に病院へ派遣し、がん患者等の長期療養者（糖尿病や肝炎等）に対する就職相談窓口（予約制）を設置しており、無料で相談を受けることができる。

奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターにおける就職相談の認知度については、「知らない」が84.5%、一方「知っている」が9.3%となっている。

■奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターにおける就職相談の認知度
（単数回答/全体）



2-6. がん登録について

問 55 がん登録の認知度

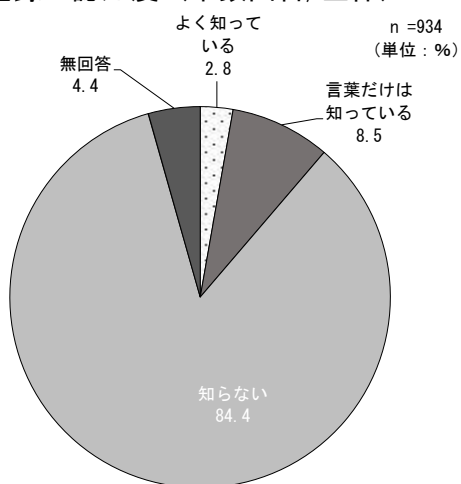
問 55 あなたは、「がん登録」（注参照）について知っていましたか。【○はひとつだけ】

（注）がん登録：今後のがん検診やがん医療の評価に役立てるため、がん患者ひとりひとりの診断データや、その後の経過、生存状況について収集することを「がん登録」という。

がん登録の認知度については、「知らない」が84.4%と最も高く、次いで「言葉だけは知っている」が8.5%、「よく知っている」が2.8%の順となっている。

“知っている”（「よく知っている」＋「言葉だけは知っている」）が11.3%となっている。

■がん登録の認知度（単数回答/全体）



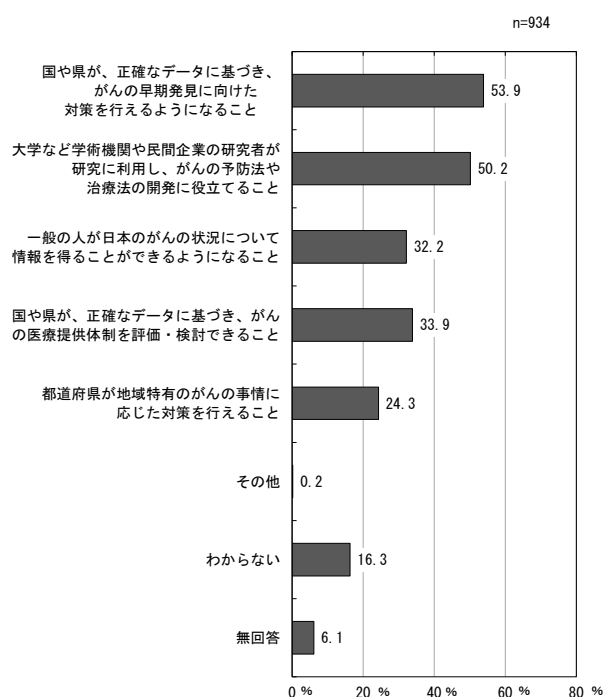
n 数	よく 知っ てい る	言 葉 だ け 知 っ て い る	知 ら な い	無 回 答
934	26	79	788	41
100.0	2.8	8.5	84.4	4.4

問 56 がん登録に期待するメリット

問 56 がん登録によって、がんに関する正確な統計が整備されると、様々なメリットが期待できます。あなたは何に期待しますか。【〇はいくつでも】

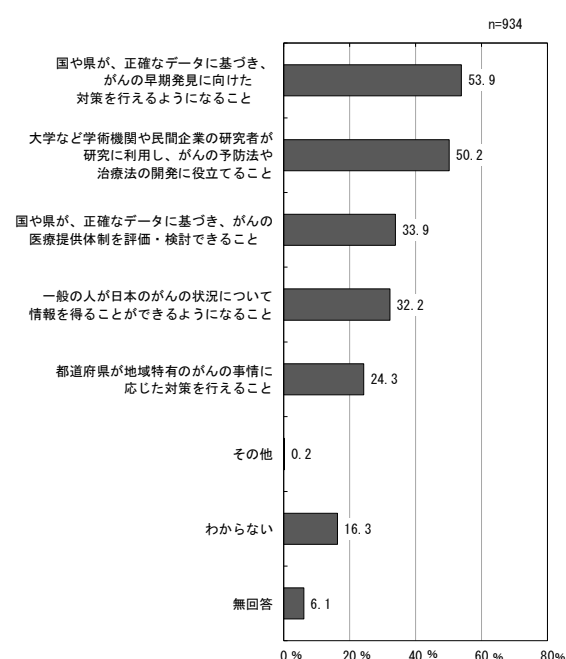
がん登録による期待するメリットについては、「国が、正確なデータに基づき、がんの早期発見に向けた対策を行えるようになること」が 53.9%と最も高く、次いで「大学など学術機関や民間企業の研究者が研究に利用し、がんの予防法や治療法の開発に役立てること」が 50.2%、「国や県が、正確なデータに基づき、がんの医療提供体制を評価・検討できること」が 33.9%の順となっている。

■がん登録による期待するメリット（複数回答/全体）



—参考—

がん登録による期待するメリットの支援内容の割合の高いもの順グラフ



n 数	早期発見に向けた対策に基づき、がんの	国が、正確なデータに基づき、がんの早期発見に向けた対策を行えるようになること	法が、研究などに活用し、がんの予防法や治療法の開発に役立てること	大学など学術機関や民間企業の研究者が研究に利用し、がんの予防法や治療法の開発に役立てること	一般の人が日本のがんの状況について情報を得ることができるようになること	国や県が、正確なデータに基づき、がんの医療提供体制を評価・検討できること	都道府県が地域特有のがんの事情に応じた対策を行えること	その他	わからない	無回答
934	503	469	301	317	227	2	152	57		
100.0	53.9	50.2	32.2	33.9	24.3	0.2	16.3	6.1		

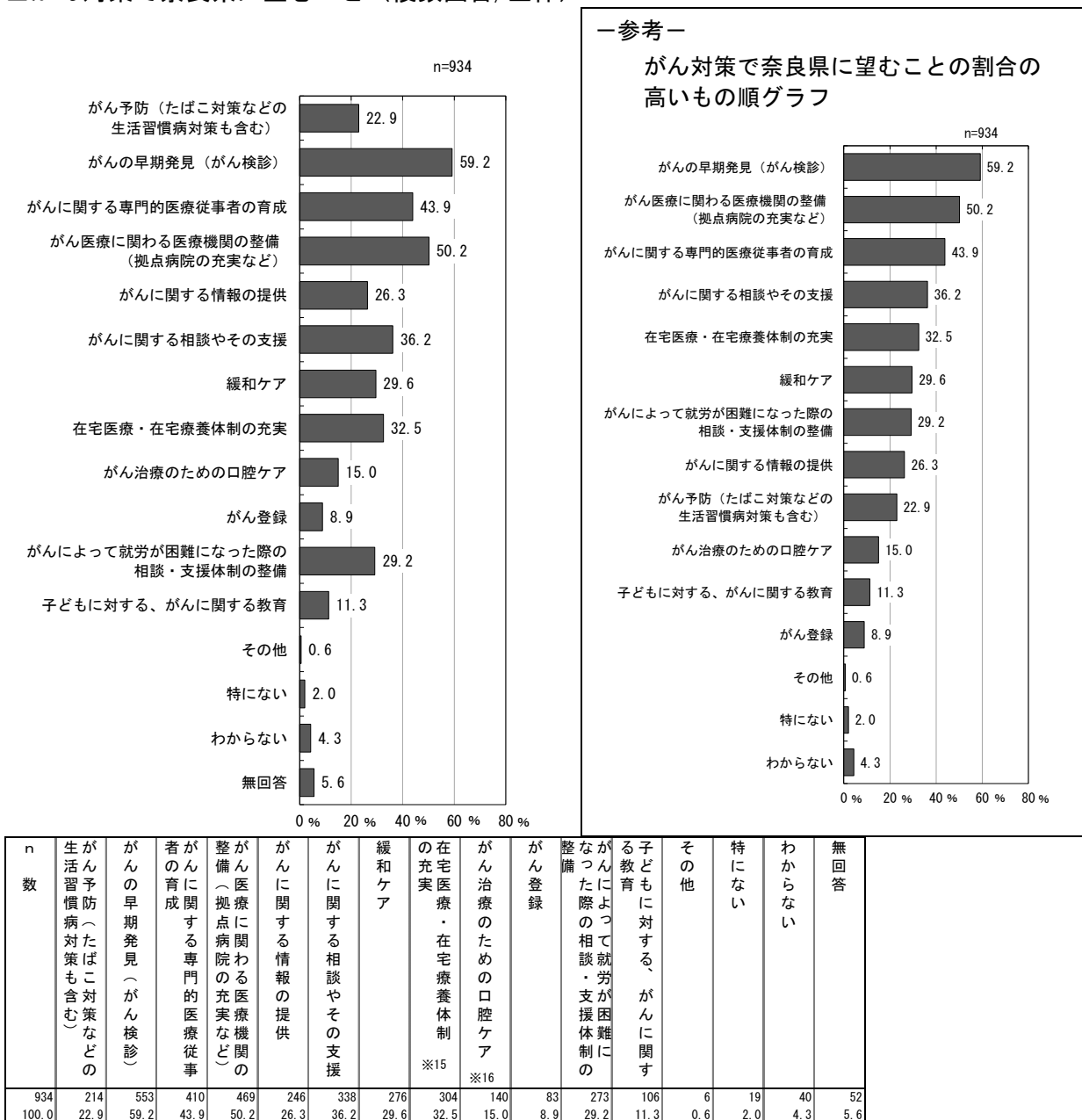
2-7. 全体的なことについて

問 57 がん対策で奈良県に望むこと

問 57 がん対策について、奈良県としてどういったことに力を入れてほしいと思いますか。
【〇はいくつでも】

がん対策で奈良県に望むことについては、「がんの早期発見（がん検診）」が 59.2%と最も高く、次いで「がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）」が 50.2%、「がんに関する専門的医療従事者の育成」が 43.9%の順となっている。

■がん対策で奈良県に望むこと（複数回答/全体）

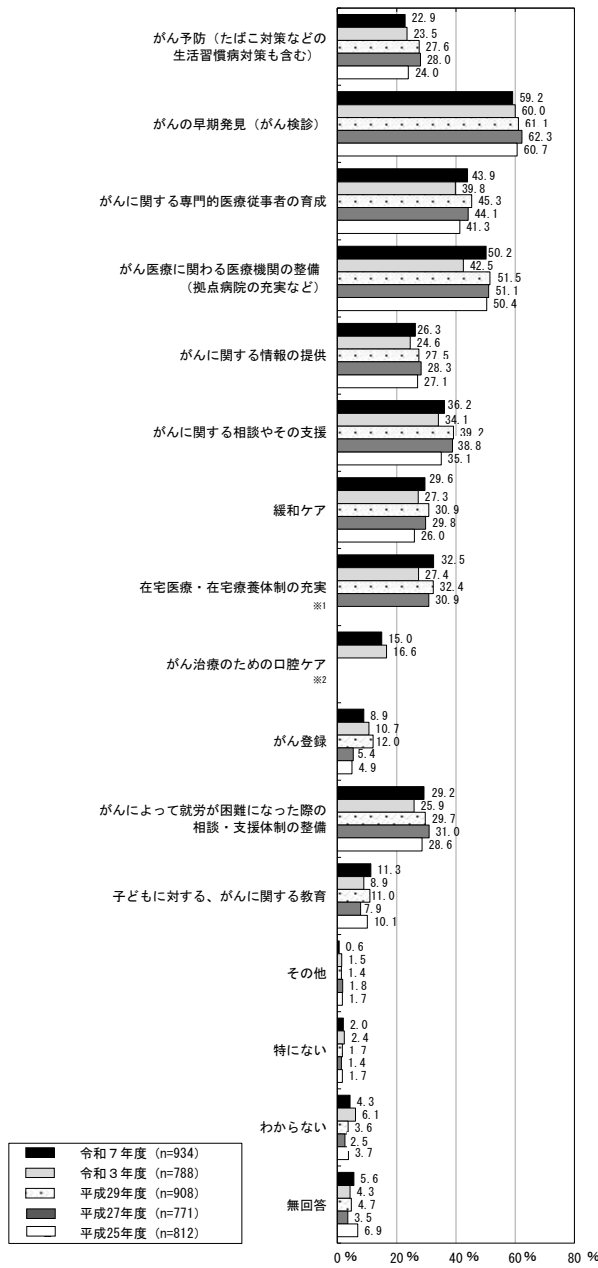


【その他】

- ・家族への心理的不安の解消を図る内容が欲しい
- ・副作用の脱毛のウィッグの購入支援（2件）
- ・経済的な支援、特にひとり親に対して医療費だけでなく生活費の支援も、また、若者に対しても同様に経済的支援がされるように願う

年度間比較をすると、いずれの調査年度も「がんの早期発見（がん検診）」が最も高くなっている。

■がん対策で奈良県に望むこと（複数回答/年度間比較）



※1 選択肢「在宅医療・在宅療養体制の充実」は平成27年より調査
 ※2 選択肢「がん治療のための口腔ケア」は令和3年度より調査

	n	がん予防（たばこ対策などの生活習慣病対策も含む）	がんの早期発見（がん検診）	がんに関する専門的医療従事者の育成（拠点病院の充実など）	がん医療に関わる医療機関の整備	がんに関する情報の提供	がんに関する相談やその支援	緩和ケア	在宅医療・在宅療養体制※1	がん治療のための口腔ケア※2	がん登録	がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備	子どもに対する、がんに関する教育	その他	特にない	わからない	無回答
令和7年度	934	214	553	410	469	246	338	276	304	140	83	273	106	6	19	40	52
令和3年度	788	185	473	314	335	194	269	215	216	131	84	204	70	12	19	48	34
平成29年度	908	251	555	411	468	250	356	281	294	-	109	270	100	13	15	33	43
平成27年度	771	216	480	340	394	218	299	230	238	-	42	239	60	14	11	19	27
平成25年度	812	195	493	335	409	220	285	211	-	-	40	232	82	14	14	30	56
	100.0	22.9	59.2	43.9	50.2	26.3	36.2	29.6	32.5	15.0	8.9	29.2	11.3	0.6	2.0	4.3	4.3
	100.0	23.5	60.0	39.8	42.5	24.6	34.1	27.3	27.4	16.6	10.7	25.9	8.9	1.5	2.4	6.1	5.6
	100.0	27.6	61.1	45.3	51.5	27.5	39.2	30.9	32.4	-	12.0	29.7	11.0	1.4	1.7	3.6	4.7
	100.0	28.0	62.3	44.1	51.1	28.3	38.8	29.8	30.9	-	5.4	31.0	7.9	1.8	1.4	2.5	3.5
	100.0	24.0	60.7	41.3	50.4	27.1	35.1	26.0	-	-	4.9	28.6	10.1	1.7	1.7	3.7	6.9

問 58 療養生活を送る中でよかったことや不満・疑問に感じたこと（自由記述）

問 58 療養生活を送る中で、よかったと感じたこと、また、不満や疑問に感じたことがあれば、自由にご記入ください。

以下では、主な意見を上位最大5件まで抽出している。

□家族、友人、知人の支え（21件）

- ・家族がいたこと
- ・兄弟、家族、友人、周囲の人の優しさに改めて気付かされた
- ・療養中は家族が支えてくれました。ありがたかったです
- ・日常生活にすぐに戻れなく、家にいる時間が増えた
- ・いろいろな人々の優しさを知ることができた

□医師の対応（35件）

- ・自身の場合は主治医に何でも相談できることが一番よかったと感じている
- ・先生が明るかった。常に出会うと名前を呼んでくれたことが嬉しかった。
- ・毎回丁寧に診察していただき安心、信頼しています
- ・相談しやすい医者とそうでない医者がある。毎日の仕事が機械化して患者のことを忘れてるような人がある。
- ・時間外でも自由に親身に私を助けてくれました。医療従事者の皆さんに感謝です。

□看護師や病院関係者の対応（55件）

- ・医師とスタッフが親身になって対応してくれている
- ・私個人の意見としては携わっていただいた医者、看護師さんが寄り添ってくれて、いつも穏やかに4年間の闘病を送らせてもらっていて感謝の毎日です。
- ・病気の先生や看護師さん、他のスタッフの方々皆親切でよくしてくださった。
- ・私の通院している病院の先生方や看護師さんの一言一言がとっても優しくて沈んだ気持ちを癒されました。予約票と共にかわいいメモ用紙に記入してくださったメッセージは私の宝物となっています。
- ・入院中の精神面のフォローをさまざまなスタッフさんにして頂き、とても感謝しています。

□治療の進め方（26件）

- ・治療法（抗がん剤）が体に合っており体調（副作用等なく）良く過ごせているのが良い
- ・がんになったことで時間を大事にするということを教わった。
- ・術後は苦痛や傷跡も徐々に消え時間は薬だなあと感じるようになりました。
- ・現状治療中の為、感じたことの判断は治療後にならないと正しくできないと思います。
- ・心の悩みは大きいですが心を開いて相談できない。

□病院の体制・設備（43件）

- ・食事がおいしくない。（3件）
- ・病院が近いので便利（2件）
- ・緩和ケア病院をもっと増やしてほしい。（2件）
- ・検査や診察の待ち時間が長い。（2件）
- ・不測の事態にも現在の病院で様々な対応をとっていただいていること。

□生きていることや健康のありがたさの再確認（35件）

- ・自宅でゆっくりできたこと、健康のありがたさを感じ1日を大切に思うようになった。（4件）
- ・ステージ1で早期発見できたので不安なく日常生活を送っています。（2件）

- ・がんと診断された時はショックでしたが早期発見でその後の再発も早期に見つかり経過観察中ですが不安なくいられます。
- ・今までの働き方、生活を見直す機会になった
- ・経過が順調なので今のところ5年間今のままであれば良いと思っています。

□医療制度（9件）

- ・身体障害者の認定や介護保険の認定を受けられて助かりました。
- ・介護保険制度について介護タクシーなど使いやすくしてほしかった。
- ・健康保険限度額適用を受けられて本当によかったと思っています。高額な医療費がかかるので本当に助かる制度です。

□会社支援のありがたさ（10件）

- ・なかなか休みが取れなかったのが、ゆっくりできたのはよかった。（2件）
- ・有休で休めた。リハビリで隔日の勤務ができた。
- ・療養補償があったこと。復職が可能であったこと
- ・仕事が休みにくい

□家族の問題（9件）

- ・自宅療養生活の際、家族のためにヘルパーさんに来ていただきましたが弱者と思うのか上から目線、言葉使いなど気になり気分が滅入ることがあり、主人もイヤだったので来ていただくのに気を使い入院している自分が病院にいて終始家族を気にかけていかなければならず入院生活はしんどかったです。
- ・がんがまだまだなおらない病気というイメージがあり年老いた母親にがんになったことを話せていません。がんに対する世間のイメージがもう少し変わればいいのと思います。
- ・年をとってからのがん発見だったのであまり不安等はなかった。主人の方がパニックになってしまったので家族のケアも必要なのかも。
- ・大腸がんが見つかり苦痛であった便の悩みや主人との間もなんとか前よりは少しましになったような。

□自分の健康、再発等への精神的不安（26件）

- ・不安に思うことをすぐに相談できたらと思うことがあった。（次回の診察時まで不安がつづくから）
- ・周りの方は自分のことのように心配してくださり、やさしくしてくださいました（家族、ご近所、職場など自分とかかわりのある方）。自分ががんであることをどこまで伝えればよいのか…心配かけてしまうので悩む。
- ・検査が多いので気分的に落ち込んでしまう。
- ・長期入院をしてたので体力が落ちてるので入院中を含めてある程度強制的リハビリ（体力回復）した方がよかったと思う。

□仕事や社会生活への復帰（8件）

- ・ほぼ療養がなく退院後の引き続きの治療（通院）の時間の相談の理解を会社から得られず会社に対しての不満がつつのる一方です。毎日1時間早退になるのでお給料が減る。
- ・術前の抗がん剤が思っていたよりも日常生活に影響があり毎日をやり過ごすのがしんどく感じました。命の大切さを学ぶことができました。限られた時間を後悔のないように生きないといけないと思いました。
- ・退院してから掃除とかできなかつた。みぞおちから恥骨まで32cm切ってたから曲がったり座ったり立ち上がるのが痛くて動けなかつた。
- ・何も良くない。治療して早く普通の生活に戻ることが必要

□医療費等経済的不安・不満（6件）

- ・私はまだ母が元気でいろいろ助けてもらえたから良かったが子育てや介護がある人は自分の病気のことだけ考えられないので大変だと思った。今私は自費で免疫療法をしているが抗がん剤は体の負担が大きい為、早く体の負担がほとんどない自己免疫治療が保険適応できたらいいと思う。
- ・がんの治療中は働くことができなくて、収入がないにもかかわらず住民税や社会保険を支払わなくてはならず、傷病手当金があるがギリギリの生活になっている。子育て世代にとっては非常に厳しいと感じている。
- ・療養を送る中、私は乳がん全摘で下着など県内には専門のショップがなくあったらいいのと思いました。ネットではなく目で見てさわって購入したいので。
- ・最善の治療を優先に金額や期間に関係なくその都度考え対応して下さった。逆にこの治療には金額がいくらかかるのか、期間はいつ終わるのか、わかる範囲で聞きたかった。

問 59 医療機関や行政に対するがん医療に関する意見（自由記述）

問 59 医療機関や行政に対し、がん医療に関して何かご意見があれば、自由にご記入ください。

以下では、A、Bそれぞれの各項目について、主な意見を上位最大5件まで抽出している。

A. 医療機関に対しての自由意見

□医師について（36件）

- ・がんの早期発見に力を入れてほしい。（2件）
- ・前にも書いたように精神科医の先生が来て、こちらの愚痴を聞いてもらうだけでも心はおちつくとと思う。心のコントロールが難しい。
- ・それぞれの患者に合った対応が必要かと思いますが専門知識を生かして患者を支えてくださることに感謝しています。
- ・いつも病院で治療中に書いてたり自分らしい活動をする事を考えてくださり、いろいろ声かけしてもらっているだけで元気をもらっていると思える。

□看護師等病院スタッフについて（15件）

- ・スタッフの皆さんは優しく親切に接してくださいました。ただただ感謝するばかりです。（3件）
- ・少しの体の違和感を告げると親身になって治療にあたって頂き、いつも早期発見で事なきを得ており、先生、看護師さんに感謝しています。
- ・看護師さんの親身になっての対応は本当にありがたいです。
- ・がん医療が点滴投与に頼る現状が続くなら点滴専門の医師あるいは看護師を養成してほしい。患者の負担は減少します。

□専門病院・医療機器の充実について（22件）

- ・ホスピス等が少ない。安心して最後が過ごせる場所（家ではない）→高齢の親（要介護者）がいる。
- ・検査のため、いろいろな病院に行くのがつらかった。初めから大きな病院で診察してもらえばよかったかなと今思う。
- ・化学療法の待ち時間が常に1.5時間以上となることから施設の拡充をはかってもらいたい。
- ・県内の主な病院での内視鏡手術支援ロボットの導入が少し遅かったと思う。
- ・標準治療以外の治療の説明も医療機関でできれば患者の選択の幅も広がると思う。

□病院の体制・設備について（39件）

- ・待ち時間が長い。（7件）
- ・入院中は他人に気を使うことなく痛みや吐き気のある度にウ～ウ～と言いたいので個室を増やしてほしいです。治療に専念できます。
- ・化学療法に伴う副作用皮膚障害で苦しんだ時、すぐに皮膚科へ連携していただけた。不安なことをすぐに相談、対応してもらえる体制をこれからも維持、充実していただきたい。
- ・現在点滴治療で通院していますが自宅へ戻ってから体調不良になった時などいつでも適切な対応をしてもらえるので大変助かります。

□緩和ケアについて（6件）

- ・奈良県に緩和ケア外来はあるがホスピスが少ないので緩和ケア病棟の併設を望みます。
- ・がんと診断された時に治療だけでなく治療を支えるための相談機関や緩和ケアなどについても同時に提示してもらいたい。
- ・私の通っている病院では緩和ケア科がないので早期からの緩和ケアや終末期の緩和ケアが受けられるのが不安です。がん治療を行う病院には緩和ケア科をつくってほしいです。

□医療費について（6件）

- ・医療費の目安がどれくらいになるのかを明示してほしい。（2件）
- ・体調（入院時、療養時）が悪く保険（生保）の請求、傷病手当、銀行などの代理で動いてくれるものがあればと思っていた。
- ・早期発見早期治療できる医療器具、薬を安価で使用できるようにして

□診療・治療について（33件）

- ・がんの早期発見をしてほしい（2件）
- ・治療を進めると良い場合、悪い場合どうなるかを示しメリットとデメリットを教える体制
- ・セカンドオピニオン制度を選択した時は、そこでのデータ出さないのはおかしい。県立医大の教授もその姿勢に首をかしげておられました。
- ・採血データも必要だと思いますが何週間も放置しておくで進行します。私がそうでした。
- ・検査の回数が多いように思います。年に2回くらいでいいと思います。

□情報提供について（18件）

- ・ホームページなどで専門医の紹介。どのような資格を持った医師がいるのか詳しく載せてほしい。
- ・もっと情報がほしい。大きい病院ほど科が違くと再度予約を取らなければいけない。
- ・知らないことが多いので情報はたくさん欲しいです。勧められる治療しかないのかと思ってしまう。
- ・がん相談支援センター、がん登録等、認知していないことがあり、もう少し患者に対して情報提供をして頂く機関があってもいいのではないかと思う。
- ・行政の利用する項目を紹介してほしい（情報提供でもよい）

□その他（19件）

- ・よくしていただいています。（2件）
- ・がんが治る（全てのがん）そんな時代になればいい。
- ・入院の際の保証人を2人というのがしんどかった。家族構成で柔軟に対応してほしい。
- ・がんを死としてとらえないでも準備ができることを感謝
- ・がん治療等について早い特効薬の開発をお願いしたい。各医療先、各薬社の派閥を乗り越えてお願いしたい。

B. 行政に対しての自由意見

□医療体制の充実について（43件）

- ・病院を増やしてほしい。（4件）
- ・奈良の医療従事者の育成と増やすこと。
- ・医療機関に対する支援を強化し治療体制を強化できるようにしてもらいたい。
- ・県内の医療機関への投資は全く足りていない。赤字が膨らむのは当然でむしろ病院を中心とした介護行政や高齢者施設など街づくりをすべきである。
- ・ロボット手術の導入を進めてください。

□相談支援・情報提供について（27件）

- ・がんについてもっと広報してほしい。（5件）
- ・がんになった時のいろいろな申請等知りたい。がんになったらするべき申請方法などわかりやすくした資料が欲しい。
- ・がんのステージにより身体への負担が大きいことを具体的に知らせてほしい。
- ・がん治療中の注意事項、心がまえ等の情報及び冊子をできたら配布してほしい。
- ・患者同士（家族含む）で情報交換できる場を設けてもらいたい（Webでもできる体制）

□がん予防・がん検診について（9件）

- ・早期にがんを見つけられる制度がありますが、結局「まさかがんなんて」と届かない人には行

くこともないのです。そこがネックなのだと思います。

- ・ 診療所、クリニックでも大きな病気でも見つけられるようにしてほしい
- ・ 1年間に2, 3度がんに対する伝達をしてほしい。
- ・ 早期発見できたのは行政が行う健康診断のおかげです。

□社会復帰・社会支援について（22件）

- ・ 長期的に治療を行っていく上で生活に不安がないようにサポートしていただきたい。
- ・ 行政の対応については、がんの医療に意識が集中してしまいあまり考えが回らないのが現状です。従って具体的措置、支援等について何も知り得てません。できれば病院側から通知及び働きかけがあればありがたいです。
- ・ 私は装具をつけているので、年をとったときの指導など、いろんな面でたよれるようにしてほしい
- ・ がん治療は長期になるので経済的に心配なことを増してくるため支援について行政の方でいろいろ考えてほしいと思います。
- ・ 長期に渡りますので費用面において特別援助の方策を一考願いたい。

□医療費や経済的なことについて（81件）

- ・ 高額医療費制度は続けていただきたい。（12件）
- ・ 高額療養費が適用されたとしても治療外の自費分や食事代などが上乗せされるので年間相当な費用がかかります。行政として、もう少しなんらかの援助があれば助かります。（2件）
- ・ 毎回の医療費の負担が少しでも軽減されるような制度があればいいと思う。
- ・ 患者の生活費を行政で助けるシステムを作してほしい。
- ・ ウィッグの購入の補助があつてよいと思う。また、がんは継続的に高額治療がつづくので高額療養の上限をこれ以上あげないでほしい。就労しながら子育て、納税もしている者は免除する等対策を希望する。

□その他（14件）

- ・ 市民に寄り添った行政を
- ・ 高額療養費支給申請や助成金等助かるのですが市役所等に出向かなくてはならないので大変です。
- ・ 病気になって行政のお世話になったと感じない。間接的にはお世話になっていると思うのですが直接的な対応を感じる事ができない
- ・ このアンケートの質問が多すぎて疲れしました

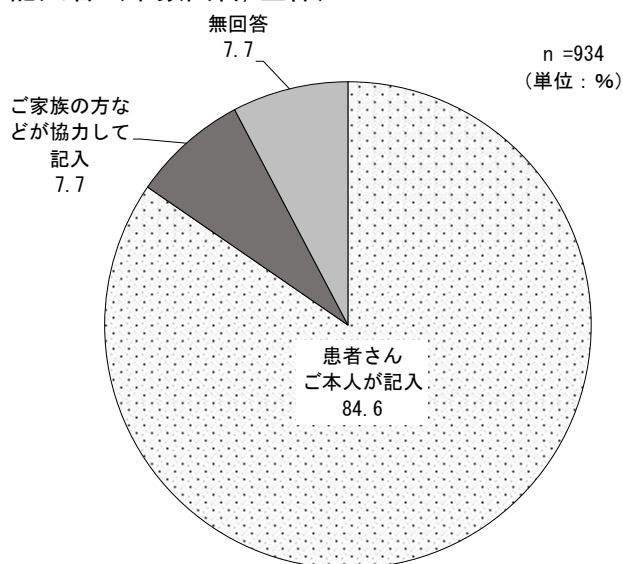
2-8. 患者本人について

問 60 記入者

問 60 このアンケートの記入者はどなたですか。【〇はひとつだけ】

このアンケートの記入者については、「患者さんご本人が記入」が 84.6%、「ご家族の方などが協力して記入」が 7.7%となっている。

■記入者（単数回答/全体）



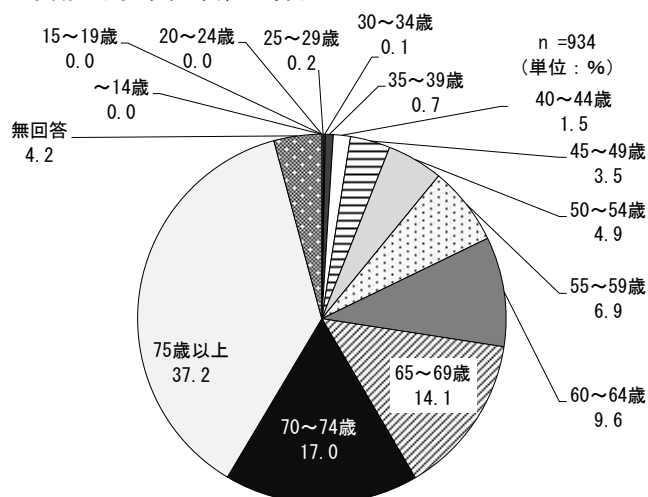
n 数	患者さんご本人が記入	ご家族の方などが協力して記入	無回答
934	790	72	72
100.0	84.6	7.7	7.7

問 61 年齢

問 61 患者さんご本人の現在の年齢は、何歳ですか。

患者の年齢については、「75歳以上」が37.2%と最も高く、「70～74歳」が17.0%、「65～69歳」が14.1%の順となっている。60歳以上が全体の77.9%となっている。

■年齢（単数回答/全体）



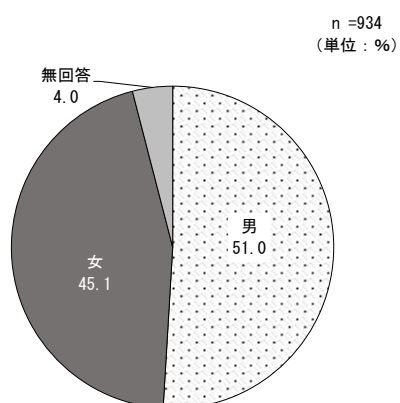
n 数	14歳	15歳	19歳	20歳	24歳	25歳	29歳	30歳	34歳	35歳	39歳	40歳	44歳	45歳	49歳	50歳	54歳	55歳	59歳	60歳	64歳	65歳	69歳	70歳	74歳	75歳以上	無回答	
934	0	0	0	0	2	1	7	14	33	46	64	90	132	159	347	39												
100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.7	1.5	3.5	4.9	6.9	9.6	14.1	17.0	37.2	4.2												

問 62 性別

問 62 患者さんご本人の性別を教えてください。【○はひとつだけ】

患者の性別については、「男」が51.0%、「女」が45.1%となっている。

■性別（単数回答/全体）



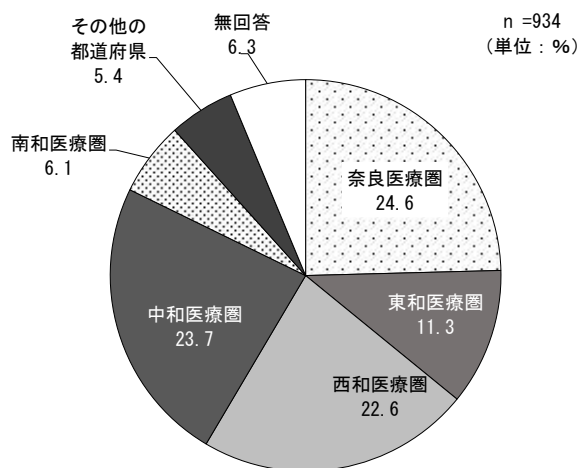
n 数	男	女	無回答
934	476	421	37
100.0	51.0	45.1	4.0

問 63 居住する医療圏

問 63 患者さんご本人が現在お住まいの市町村はどちらですか。

患者の居住する医療圏については、「奈良医療圏」が 24.6%と最も高く、次いで「中和医療圏」が 23.7%、「西和医療圏」が 22.6%となっている。

■居住する医療圏（単数回答/全体）



n 数	奈良医療圏	東和医療圏	西和医療圏	中和医療圏	南和医療圏	その他の都道府県	無回答
934	230	106	211	221	57	50	59
100.0	24.6	11.3	22.6	23.7	6.1	5.4	6.3

医療圏	市町村名
奈良	奈良市
東和	天理市、桜井市、宇陀市、(山辺郡)山添村、(磯城郡)川西町、三宅町、田原本町、(宇陀郡)曽爾村、御杖村
西和	大和郡山市、生駒市、(生駒郡)平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、(北葛城郡)上牧町、王寺町、河合町
中和	大和高田市、橿原市、御所市、香芝市、葛城市、(高市郡)高取町、明日香村、(北葛城郡)広陵町
南和	五條市、(吉野郡)吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村

【その他の都道府県】

- ・京都府 (20 件)
- ・三重県 (17 件)
- ・大阪府 (11 件)
- ・兵庫県
- ・和歌山県

(参考) アンケート調査票

(参考) アンケート調査票

ならのがんに関する患者意識調査 ご協力をお願い

県では令和6年3月に第4期奈良県がん対策推進計画を策定し、「がんにならない、がんになっても安心できる奈良県」を基本理念に、がん医療や患者支援など様々な取組を医療関係者と連携し進めています。

このたび、取組の進み具合や、県内の病院で治療を受けておられる患者のみなさまのニーズを把握することを目的に、調査を実施することといたしました。調査結果は、以前実施した調査結果と比較することで、これまでの取組を評価し、今後に活かしたいと考えています。また、協力いただいた医療機関にも結果をお届けします。

お手数をおかけいたしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、ご回答は個人が特定されないよう無記名でお願いします。提供された個人情報 は厳重に管理するとともに、回答いただいた内容は統計目的以外には用いることはありませんので、率直な意見をお聞かせください。

令和7年9月 奈良県

ご記入について

- 当調査は20分程度で回答できる分量となっておりますが、記入が困難な方はご家族などに協力いただくなど、無理のない範囲でお願いします。
- それぞれの間で、あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。
- 「その他」に○印をつけられた場合や、記述式の間の場合には、() 内に内容をご記入ください。
- ご記入は、黒や青のボールペンまたは鉛筆で、はっきりとわかりやすくお願いします。
- ご回答が済みましたら、一緒にお渡しした返信用封筒に調査票を入れて密封の上、
令和7年10月14日(火)までに、お近くの郵便ポストに投函してください。
(切手は不要です。)

本調査についてご不明な点などがございましたら、下記へお問い合わせください。

奈良県福祉保険部医療政策局疾病対策課 がん対策係
電話 0742-27-8928 (直通)

ならのがんに関する患者意識調査 調査票

■ 以下の質問は、がん患者さんご本人のことについてご記入ください。

医療機関で受けた診断や治療について

問1 がんと最初に診断されたのは、いつ頃ですか。

昭和 ・ 平成 ・ 令和 _____年_____月頃 (当時 _____ 歳)

問2 最初のがんと診断された部位はどこですか。【○はひとつだけ】

- | | | |
|-------|-----------|-------------------|
| 1. 肺 | 5. すい臓 | 9. 乳房 |
| 2. 食道 | 6. 大腸 | 10. 子宮 |
| 3. 胃 | 7. 血液・リンパ | 11. 卵巣 |
| 4. 肝臓 | 8. 前立腺 | 12. その他 (_____) |

問3 現在がんの治療（または経過観察）のためにかかっている病院はどこですか。【○はひとつだけ】

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. 奈良県立医科大学附属病院 | 6. 南奈良総合医療センター |
| 2. 奈良県総合医療センター | 7. 国保中央病院 |
| 3. 天理よろづ相談所病院 | 8. 済生会中和病院 |
| 4. 近畿大学奈良病院 | 9. 大和高田市立病院 |
| 5. 市立奈良病院 | 10. 奈良県西和医療センター |
| | 11. その他 (_____) |

問3で1～10と回答された方にお伺いします。

問4 地域の病院や診療所のかかりつけ医（注参照）をお持ちですか。【○はひとつだけ】

(注) かかりつけ医：地域の病院や診療所の医師。身近な地域で日常的な医療を受ける、あるいは健康の相談等ができる医師のこと。

1. 持っている（現在、かかりつけ医での通院なしも含む）
2. 持っていない

すべての方にお伺いします。

問5 現在のがんの治療（緩和ケアも含む）状況を教えてください。【○はひとつだけ】

1. 治療の開始前
2. 治療を継続中
3. 治療が終わり経過観察や定期検査中
4. 治療後、5年程度を経て、がんの再発が見られず、特に治療はしていない状態
5. その他 (_____)

問6 がんと診断されてからこれまで受けたがん治療を教えてください。【○はいくつでも】

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 手術 | 5. 放射線治療 |
| 2. 内視鏡治療 | 6. 治療をしていない |
| 3. 化学療法（抗がん剤/分子標的薬） | 7. その他 (_____) |
| 4. ホルモン療法 | 8. わからない |

問7 現在かかっている病院を選んだ理由は何ですか。【〇は3つまで】

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 医師による紹介 | 11. 技術のすぐれた医師がいる |
| 2. 家族・友人・知人からのすすめ | 12. 専門性が高い医療を提供している |
| 3. 薬局や他の医療関係者からの紹介 | 13. 様々な症状に対応できる医療を提供している |
| 4. 自宅や職場・学校に近い | 14. 受たい検査や治療をおこなっている |
| 5. 交通機関の便がよい | 15. 生存率、合併症発生率などの治療成績が良い |
| 6. 以前に来たことがある | 16. 入院にかかる経済的負担が少ない |
| 7. 以前に受診した医療機関に満足できなかった | 17. 連携している医療機関・福祉施設が充実 |
| 8. 大きな病院で安心できそう | 18. その他 (_____) |
| 9. 病室などがきれいな病院だから | 19. 特に理由はない |
| 10. 医師や看護師が親切 | |

問8 現在かかっている病院を選ぶにあたり、どこから情報を入手しましたか。【〇はいくつでも】

- | | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 1. 医療機関の相談窓口 | 8. 新聞・雑誌・本の記事やテレビ・ラジオの番組 |
| 2. 病院が発信するインターネットの情報 | 9. 医師（かかりつけ医）からの情報 |
| 3. 病院の看板やパンフレットなどの広告 | 10. 知人や家族からの情報 |
| 4. 行政機関の相談窓口 | 11. その他 (_____) |
| 5. 行政機関が発信するインターネットの情報 | 12. 特に情報は入手していない |
| 6. 行政機関が発行する広報誌やパンフレット | |
| 7. 病院・行政機関以外が発信するインターネットの情報 | |

問9 現在、かかっている病院についての感想をお聞かせください。【それぞれ〇はひとつだけ】

内 容	非常に満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	非常に不満である
医師による診療・治療に満足していますか。	5	4	3	2	1
医師との対話に満足していますか。	5	4	3	2	1
医師以外の病院のスタッフの対応に満足していますか。	5	4	3	2	1
全体として病院に満足していますか。	5	4	3	2	1

問9のいずれかの項目で「非常に満足している」「やや満足している」「やや不満である」「非常に不満である」と回答された方にお伺いします。

問10 満足な点・不満な点は具体的にどのような点ですか。

また、問9のいずれかの項目で「やや不満である」「非常に不満である」と回答された方は、不満な点に対して、どのような対応を望みますか。ご自由にご記入ください。

満足な点・不満な点は、具体的にどのような点ですか。	満足な点：
	不満な点：
不満な点について、どのような対応を望みますか。	

すべての方にお伺いします。

問11 がんの診断から治療開始までの状況を総合的にふりかえって、ご自身が納得いく治療を選択することができましたか。【〇はひとつだけ】

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. そう思う | 4. あまりそう思わない |
| 2. ややそう思う | 5. そう思わない |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない |

問 12 診断や治療方針について、現在かかっている病院の医師から受けた説明はよくわかりましたか。
【○はひとつだけ】

1. よくわかった
2. だいたいわかった
3. あまりわからなかった
4. まったくわからなかった
5. 説明を受けていない → 【問 14 へおすすみください】

問 12 で 1, 2, 3, 4 と回答された方にお伺いします。

問 13 医師から受けた診断や治療方針の説明に対して、あなたの疑問や意見を医師に十分に伝えられましたか。
【○はひとつだけ】

1. 十分に伝えられた
2. 質問しにくい雰囲気だったので、十分に伝えられなかった
3. 的外れな疑問や意見のような気がして、十分には伝えられなかった
4. その他の理由で、十分には伝えられなかった（その他の理由： _____）
5. 疑問や意見は特になかった

※問 14 及び問 15 は、男性も女性もお答えください。

問 14 最初のがん治療が開始される前に、その治療による生殖機能（妊よう性（注参照））への影響について、医師から説明を受けましたか。【○はひとつだけ】

（注）妊よう性：妊娠するために必要な能力のこと。

1. 生殖機能（妊よう性）への影響がある、という説明を受けた → 【問 15 へおすすみください】
2. 生殖機能（妊よう性）への影響がない、という説明を受けた
3. 説明はなかった → 【問 16 へおすすみください】
4. わからない

問 14 で「1. 生殖機能（妊よう性）への影響がある、という説明を受けた」と回答された方にお伺いします。

問 15 それは、どのような説明でしたか。【○はひとつだけ】

1. 生殖機能の温存（妊よう性温存）のための具体的な方法の説明があった
2. 生殖機能の温存（妊よう性温存）のための具体的な方法については説明がなかった
3. 生殖機能の温存（妊よう性温存）のための具体的な方法は存在しないと説明があった
4. わからない

すべての方にお伺いします。

問 16 がん治療の開始に際し、実際に生殖機能の温存（妊よう性温存）のために精子や卵子等の保存や、治療方法の変更（薬の変更を含む）を行いましたか。【○はひとつだけ】

1. 行った
2. 行わなかった
3. わからない

問 17 あなたが治療を受けている病院では、診断・治療に関わる医師、看護師、他の医療スタッフはあなたから見て十分に連携していると思いますか。【○はひとつだけ】

1. よく連携している
2. ある程度連携している
3. あまり連携していない
4. まったく連携していない
5. どちらともいえない
6. わからない

問 18 「がん治療」を決めるまでの間、医師、看護師、他の医療スタッフは、治療について、あなたが欲しいと思った情報を提供しましたか。（「がん治療」には治療しないという方針も含まれます。）【○はひとつだけ】

1. 十分提供してくれた
2. ある程度提供してくれた
3. あまり提供してくれなかった
4. 全く提供してくれなかった
5. どちらともいえない
6. 覚えていない／わからない

問 19 がん治療が始まる前にほかの医師の意見を聞く「セカンドオピニオン」を受けられることについて担当医から説明はありましたか。【〇はひとつだけ】

1. 説明があった
2. 説明はなかったが、自分や家族からセカンドオピニオンについて質問した
3. 説明はなく、自分や家族からもセカンドオピニオンについて質問しなかった
4. わからない/覚えていない

問 20 セカンドオピニオンを受けたことがありますか。【〇はひとつだけ】

1. 受けたことがある
2. 受ける予定がある
3. 受けたことがない

問 21 現在の心身の状態についてお聞かせください。【それぞれ〇はひとつだけ】

内 容		そう 思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
からだの苦痛	痛みがある	5	4	3	2	1
	痛み以外の症状がある	5	4	3	2	1
気持ちがつらい		5	4	3	2	1
経済的なことや就労のことなど、生活上の心配がある		5	4	3	2	1

問 22 「がん医療における緩和ケア（以下「緩和ケア」）」とは、がんに伴うからだの苦痛と気持ちのつらさを和らげるとともに、がんになったことによる様々な不安に対し、それを和らげることですが、あなたは、がん医療における「緩和ケア」について知っていますか。【〇はひとつだけ】

1. よく知っている
2. 言葉だけは知っている
3. 知らない

問 23 「緩和ケア」はいつから実施されるべきものと思っていますか。【〇はひとつだけ】

1. がんと診断されたときから
2. がんの治療が始まったときから
3. がんが治る見込みがなくなったときから
4. その他（ _____ ）
5. わからない

問 24 がん診療連携拠点病院等内に設置されている「緩和ケア外来」（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

（注）緩和ケア外来：一定の要件を満たす医療機関として国や県が指定した「がん診療連携拠点病院等」には、通院中の患者さんが緩和ケアを受けられる「緩和ケア外来」が設置されている。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院、市立奈良病院、南奈良総合医療センター、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院、奈良県西和医療センターに設置されている。

1. 知っている
2. 知らない

問 25 現在かかっている病院で「からだの苦痛」について、（主治医、緩和ケアチーム、緩和ケア外来などで）緩和ケアを受けた経験はありますか。【〇はひとつだけ】

1. 経験がある _____ → 【問 26 へおすすみください】
2. 経験がない _____ → 【問 27 へおすすみください】
3. わからない/覚えていない _____ → 【問 27 へおすすみください】

問25で「1. 経験がある」と回答された方にお伺いします。

問26 「からだの苦痛」に対する緩和ケアは、希望に応じてすぐに提供されましたか。
また、症状は改善しましたか。【それぞれ〇はひとつだけ】

	そう 思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
すぐに対応してくれた	5	4	3	2	1
症状が改善した	5	4	3	2	1

すべての方にお伺いします。

問27 現在かかっている病院で「気持ちのつらさ」について、（主治医、緩和ケアチーム、緩和ケア外来などで）緩和ケアを受けた経験はありますか。【〇はひとつだけ】

1. 経験がある _____ → 【問28へおすすみください】
2. 経験がない _____
3. わからない/覚えていない _____ → 【問29へおすすみください】

問27で「1. 経験がある」と回答された方にお伺いします。

問28 「気持ちのつらさ」に対する緩和ケアは、希望に応じてすぐに提供されましたか。
また、症状は改善しましたか。【それぞれ〇はひとつだけ】

	そう 思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
すぐに対応してくれた	5	4	3	2	1
症状が改善した	5	4	3	2	1

すべての方にお伺いします。

問29 あなたはこれまで受けた治療に納得していますか。【〇はひとつだけ】

1. 納得している
2. やや納得している
3. どちらともいえない
4. あまり納得していない
5. 納得していない

地域連携について

問30 病院から診療所・在宅医療（看護も含む）へ移った際、病院での情報（診療方針）が診療所・訪問看護ステーションに円滑に伝わったと思いますか。【〇はひとつだけ】

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない
6. 退院後、診療所・在宅医療は利用していない
7. わからない

今後の療養について

問31 在宅で緩和ケアを受けられること（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

（注）在宅での緩和ケア：在宅医やかかりつけ医による訪問診療や往診により、在宅での緩和ケアを受けること。

1. 知っている
2. 知っているが、具体的な内容は知らない
3. 知らない

問32 在宅での緩和ケアについて、どのようにお考えですか。【〇はひとつだけ】

1. 在宅で緩和ケアを受けたいし、実現可能だと思う
2. 在宅で緩和ケアを受けたいが、困難な気がする
3. 希望しない
4. 経験した（現在受けている）
5. わからない

問 33 安心して自宅で療養するために必要なことは、何だと思えますか。【○はいくつでも】

1. 病院スタッフ、かかりつけ医、訪問看護師等が連携してケアする体制
2. 在宅患者の体調が悪化した場合に緊急入院できる体制
3. 在宅患者の体調が悪化した場合にすぐ訪問したり対応したりしてくれる在宅医や訪問看護師の存在
4. 在宅療養に関して必要な情報の入手や相談ができる体制
5. 家族の不安（心のケア）に対して相談できる体制
6. 家族の介護負担を軽減するため、患者が短期入院できる体制
7. 訪問看護、訪問介護の利用対象の拡大
8. 車いすやベッドなどの福祉用具の充実
9. その他（_____）
10. わからない

問 34 もし、がんが進行し、自宅や病院で療養中に、からだの苦痛や気持ちのつらさ等の症状の改善がみられない時、療養場所を選択することができるのであれば、どこで過ごしたいと思えますか。
【○はひとつだけ】

（注）緩和ケア病棟：緩和ケアを専門に提供する病棟。「病気を治す」ことを目的とした積極的な治療はしないが、からだの苦痛や気持ちのつらさを和らげるための治療は積極的に行う。

1. 今まで通った病院に入院したい（または、現在の病院に継続して入院したい）
2. 緩和ケア病棟（ホスピス）（上記注参照）に入院したい
3. 在宅医療を受けながら、自宅で療養したい
4. その他（_____）
5. わからない

問 35 あなたは自分の望む場所で療養生活を送ることが可能だと思えますか。【○はひとつだけ】

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない

問 36 現在、自分らしい日常生活を送れていると思えますか。【○はひとつだけ】

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない

相談支援・情報提供について

問 37 がん医療に関する相談支援及び情報提供についてあてはまるものをお答えください。
【○はいくつでも】

1. からだや治療のことで心配になったときに、担当医以外にも相談できるところがある
2. からだや治療のことで心配になったときに、担当医にしか、相談できないと思っている
3. 誰に（どこに）相談すればよいかわからない
4. がんに関する情報を手に入れるための方法（インターネット、本等）を知っている
5. がんに関する情報をどうやって手に入れたらよいかわからない
6. その他（_____）

問 38 あなたが知りたいがんに関する情報についてあてはまるものをお答えください。
【それぞれ○はひとつだけ】

内 容	そう 思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
がんの治療方法についての情報が不十分である	5	4	3	2	1
病院の診療体制や治療情報についての情報が不十分である	5	4	3	2	1
緩和ケアについての情報が不十分である	5	4	3	2	1
がん治療にかかる費用についての情報が不十分である	5	4	3	2	1
経済的支援や利用できる社会保障制度などの情報が不十分である	5	4	3	2	1
自宅での療養生活についての情報が不十分である	5	4	3	2	1
がんの病態や統計データ等の情報が不十分である	5	4	3	2	1
がん治療のための口腔ケアについての情報が不十分である	5	4	3	2	1

問 39 奈良県が、県内のがん情報を総合的に発信している「がんネットなら」（注参照）を利用したことがありますか。【○はひとつだけ】

（注）がんネットなら：インターネットを利用して、奈良県にお住まいのがん患者さんやご家族の皆さんが療養生活を送る際に役立つ情報や、県内で開催されるがんに関するイベント・研修情報など幅広く発信している。

1. 知っており、利用したことがある
2. 知っているが、利用していない
3. 知らない

問 40 がん診療連携拠点病院等内に設置されている「がん相談支援センター」（注参照）を利用したことがありますか。【○はひとつだけ】

（注）がん相談支援センター：がん診療連携拠点病院等には、がんに関する相談や情報提供を行う相談窓口として「がん相談支援センター」が設置されており、誰でも無料でがんに関する相談・情報提供を受けられる。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院、市立奈良病院、南奈良総合医療センター、国保中央病院、済生会中和病院、大和高田市立病院、奈良県西和医療センターに設置している。

1. 利用したことがある
2. 院内のどこにあるかも含め知っているが、利用したことがない
3. あることは知っているが、院内のどこにあるかも知らず、利用したことがない
4. 知らない

問 41 「患者サロン」（がん患者やその家族など、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場）があることを知っていますか。【○はひとつだけ】

1. 知っている
2. 聞いたことはあるが、どのような活動をしているのかわからない
3. 知らない

問 42 がんの治療による外見の変化（脱毛や皮膚障害などを含む）に関する悩みを誰かに相談できましたか。【○はひとつだけ】

1. 相談できた
2. 相談が必要だが、できなかった
3. 相談が必要か分からなかった
4. 相談を必要としなかった
5. わからない

問 43 がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの相談支援によって現在は軽減されたと思いますか。【○はひとつだけ】

1. そう思う
2. ややそう思う
3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない
5. そう思わない
6. わからない

治療と就労について

問 44 現在の日本は、がん治療を受けながら、働きつづけられる社会だと思いますか。【○はひとつだけ】

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1. そう思う | 4. そう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 5. わからない |
| 3. どちらかといえばそう思わない | |

問 45 がんと最初に診断された時の、患者さんご本人の就労状況について教えてください。
【○はひとつだけ】

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 正規の職員・従業員 _____ | →【問 46 以降へおすすみください】 |
| 2. パート・アルバイト（学生を除く） _____ | |
| 3. 派遣社員・契約社員・嘱託 _____ | |
| 4. 自営業・家族従業員 _____ | →【問 48 へおすすみください】 |
| 5. 家事専業・家事手伝い _____ | →【問 52 へおすすみください】 |
| 6. 無職 _____ | |
| 7. 学生 _____ | |
| 8. その他（ _____ ） _____ | |

問 45 で「1. 正規の職員・従業員」、「2. パート・アルバイト（学生を除く）」「3. 派遣社員・契約社員・嘱託」と回答された方にお伺いします。

問 46 がんと診断され、検査や治療が進む中、仕事の継続に対する事業主の理解・支援は得られましたか。
【○はひとつだけ】

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 十分得られた _____ | →【問 47 へおすすみください】 |
| 2. ある程度得られた _____ | |
| 3. 得られなかった _____ | →【問 48 へおすすみください】 |
| 4. 理解・支援は必要なかった _____ | |
| 5. その他（ _____ ） _____ | |

問 46 で「1. 十分得られた」、「2. ある程度得られた」と回答された方にお伺いします。

問 47 仕事の継続に対して、事業主からどのような支援を受けましたか。【○はいくつでも】

- | | |
|-----------------------------------|------------------------|
| 1. 年次有給休暇の時間単位での取得 | 8. 職場復帰前の面談（意向確認） |
| 2. 短時間勤務への変更 | 9. 休職前の部署・ポジションへの復帰 |
| 3. フレックス勤務への変更 | 10. 休職前の賃金補償 |
| 4. 在宅勤務への変更 | 11. 体調不良時に利用できる休憩場所の確保 |
| 5. 試し出勤制度（リハビリ勤務など） | 12. その他 |
| 6. 体調を考慮した配置転換 | （ _____ ） |
| 7. 職場復帰支援へのアドバイス
（産業医等からの助言指導） | |

問 45 で「1. 正規の職員・従業員」、「2. パート・アルバイト（学生を除く）」「3. 派遣社員・契約社員・嘱託」「4. 自営業・家族従業員」と回答された方にお伺いします。

問 48 がんで初めて治療・療養した時、一定期間（連続して3か月以上）仕事を休みましたか。また、その後復職・復帰しましたか。【○はひとつだけ】

1. 休まなかった
2. 現在まで継続して休んでいる
3. 一定期間休み、その後、復職・復帰した
4. 一定期間休み、その後、復職・復帰せずに退職・廃業した
5. 一定期間休みをとることなく、退職・廃業した
6. その他（ _____ ）

問 49 がん治療・療養のための退職・廃業の有無と、現在の仕事の状況について、教えてください。
【〇はひとつだけ】

1. 退職・廃業をしたことはない（休職・休業中を除く）
2. 退職・廃業をしたことがあるが、現在は再就職・復業・開業している
3. 退職・廃業をした。希望はあるが、現在は再就職・復業・開業していない
4. 退職・廃業をした。特に希望はないため、現在は再就職・復業・開業していない
5. その他（ _____ ）

問 50 治療を始める前に就労の継続について病院の医療スタッフから話がありましたか。
【〇はひとつだけ】

1. 説明を必要としており、話があった
2. 説明を必要としていなかったが、話があった
3. 説明を必要としていたが、話がなかった
4. 説明を必要としておらず、話がなかった
5. わからない

問 51 がんの治療と仕事を継続する上で、どのような対応・制度が必要だと思いますか。
【〇はいくつでも】

1. 年次有給休暇の時間単位での取得
2. 短時間勤務への変更
3. フレックス勤務への変更
4. 在宅勤務への変更
5. 試し出勤制度（リハビリ勤務など）
6. 体調を考慮した配置転換
7. 職場復帰支援へのアドバイス制度
（産業医等からの助言指導）
8. 職場復帰前の面談（意向確認）
9. 休職前の部署・ポジションへの復帰補償
10. 休職前の賃金補償
11. 体調不良時に利用できる休憩場所の確保
12. 相談窓口の設置
13. その他（ _____ ）
14. 必要ない
15. わからない

すべての方にお伺いします。

問 52 生活上の困難（経済的なこと、就労のことなど）に関する情報提供や相談支援を受ける場合、どのような点について充実を望みますか。【〇はいくつでも】

1. 医療機関における相談支援体制の充実
2. 職場における相談支援体制の充実
3. 行政機関（労働局や県など）による相談支援体制の充実
4. 行政機関が発信する情報提供サイトの充実
5. 行政機関が発行する情報冊子の充実
6. その他（ _____ ）
7. 特に、充実は望まない
8. わからない

問 53 県内のがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターで実施している、がん患者を対象とした社会保険労務士による就労相談（注参照）を知っていますか。【〇はひとつだけ】

（注）がん相談支援センターにおける就労相談：がん診療連携拠点病院に設置されている「がん相談支援センター」では、がんの治療と就労の両立支援に向けた取組として、社会保険労務士による就労相談窓口（予約制）を設置しており、無料で相談を受けることができる。県内では、奈良県立医科大学附属病院、奈良県総合医療センター、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院、市立奈良病院に設置している。

1. 知っている
2. 知らない

問 54 奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターのがん相談支援センターがハローワークと連携して実施している、がん患者等の長期療養者を対象とした就職相談（注参照）を知っていますか。
【〇はひとつだけ】

（注）がん患者等の長期療養者を対象とした就職相談：奈良県立医科大学附属病院や奈良県総合医療センターでは、ハローワークと連携し、ハローワークから就職支援ナビゲーターを定期的に病院へ派遣し、長期療養者（がん・糖尿病及び肝炎等）に対する就職相談窓口（予約制）を設置しており、無料で相談を受けることができる。

1. 知っている
2. 知らない

がん登録について

問 55 あなたは、「がん登録」（注参照）について知っていましたか。
【〇はひとつだけ】

（注）がん登録：今後のがん検診やがん医療の評価に役立てるため、がん患者ひとりひとりの診断データや、その後の経過、生存状況について収集することを「がん登録」という。

1. よく知っている
2. 言葉だけは知っている
3. 知らない

問 56 がん登録によって、がんに関する正確な統計が整備されると、様々なメリットが期待できます。あなたはなにを期待しますか。【〇はいくつでも】

1. 国や県が、正確なデータに基づき、がんの早期発見に向けた対策を行えるようになること
2. 大学など学術機関や民間企業の研究者が研究に利用し、がんの予防法や治療法の開発に役立てること
3. 一般の人が日本のがんの状況について情報を得ることができるようになること
4. 国や県が、正確なデータに基づき、がんの医療提供体制を評価・検討できること
5. 都道府県が地域特有のがんの事情に応じた対策を行えること
6. その他（_____）
7. わからない

全般的なことについて

問 57 がん対策について、奈良県としてどういったことに力を入れてほしいと思いますか。
【〇はいくつでも】

1. がん予防（たばこ対策などの生活習慣病対策も含む）
2. がんの早期発見（がん検診）
3. がんに関する専門的医療従事者の育成
4. がん医療に関わる医療機関の整備（拠点病院の充実など）
5. がんに関する情報の提供
6. がんに関する相談やその支援
7. 緩和ケア
8. 在宅医療・在宅療養体制の充実
9. がん治療のための口腔ケア
10. がん登録
11. がんにより就学、就労が困難になった際の相談・支援体制の整備
12. 子どもに対する、がんに関する教育
13. その他（_____）
14. 特にない
15. わからない

ならのがんに関する患者意識調査
報告書

2026年2月
奈良県福祉保険部医療政策局
疾病対策課 がん対策係

〒630-8501 奈良市登大路町30番地
電話 (0742) 27-8928
URL <https://www3.pref.nara.jp/gannet/>
